

597～600は須恵器壺。597は広口壺とみられ、体部外面に平行タタキのちカキメを施す。598～600は壺下半または底部で、外方に踏ん張る形の高台をもつ。598は高台疊付に窓体とみられる土が融着する。600は高台内側が著しく摩耗していることから、破損後に硯に転用されたと考えられる。

601は土師器壺。体部外面にタテハケ、頭部内面にヨコハケを施す。概ね8世紀代か。

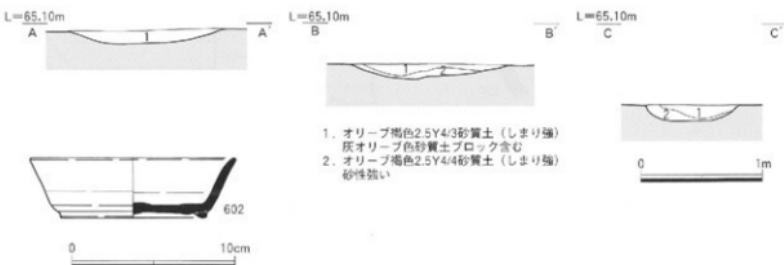
遺構の年代は、出土遺物から平城Ⅲ～Ⅳ期併行期と考えられ、8世紀中葉前後の年代が与えられる。

溝2号（Ⅲ地区 SD2002）（第338図）

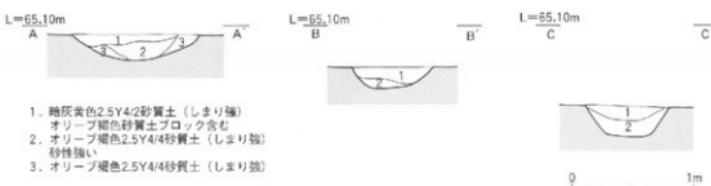
III-1区、D～J19・20グリッドに位置し、南北は調査区外に延びる。検出長26.5m幅134cm深度13cmを測る。主軸はN14°Eを向く。断面は浅いレンズ状で、底面は南に向けて下がる。埋土は2層に分層。SD2001との切り合いは確認できない。遺物は土師器片・煮炊具・須恵器杯・壺が出土。602は須恵器杯。平城V～VI期頃、8世紀後葉の年代が与えられる。

溝3号（Ⅲ地区 SD2003）（第339図）

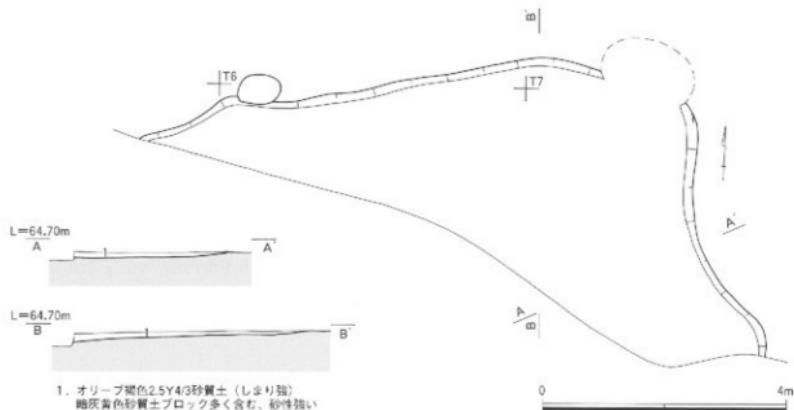
III-1区、D～J18～20グリッドに位置し、南北は調査区外に延びる。検出長27.2m幅110cm深度25cmを測る。主軸はN12°Eを向く。断面はレンズ状または逆台形状で、底面は南に向けて下がる。埋土は3層に分層。SD2002と並行し、SD2001に切られる。遺物は土師器片（赤彩ほか）・煮炊具・須恵器片が出土。8世紀代と考えられる。



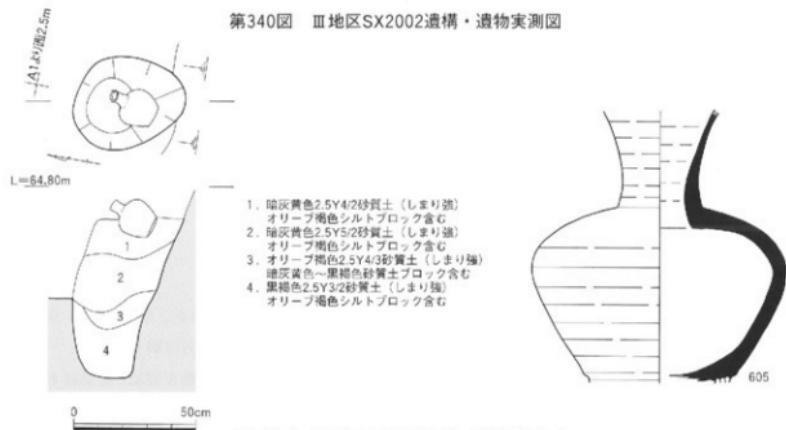
第338図 Ⅲ地区SD2002遺構・遺物実測図



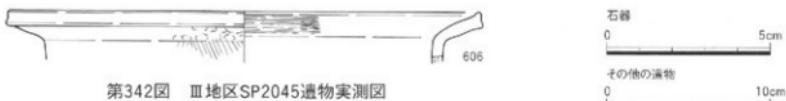
第339図 Ⅲ地区SD2003遺構断面図



第340図 Ⅲ地区SX2002遺構・遺物実測図



第341図 Ⅲ地区SP2017遺構・遺物実測図



第342図 Ⅲ地区SP2045遺物実測図

不明遺構 2 号（Ⅲ地区 SX2002）（第340図）

Ⅲ-2区南東端、S・T5～7グリッドに位置し、南は県道出口大刀野線調査区および調査区外に延びる。東西検出長1064cm南北検出長388cm深度12cmを測る浅い落ち込み。断面は浅い皿状で、埋土は1層。遺物は弥生土器壺、土師器片、石鎌が出上。603は須恵器杯。底部外面回転ヘラ切りのち高台を貼り付け。平城Ⅲ期前後とみられる。604は凹基式のサスカイト製石鎌。遺構の年代は、出土遺物に時期幅があるが概ね8世紀代か。

小穴17号（Ⅲ地区 SP2017）（第341図）

Ⅲ-2区西端部南端、T20グリッドに位置する、径47cm深度66cmを測る不整円形の小穴。断面はU字形で、埋土は4層に分層。出土遺物は1点のみで、605は須恵器壺。壺上第1層上位から出土。口縁端部と底部を欠く。人為的な打ち欠きの可能性あり。平城V～VI期前後とみられ、8世紀後葉の年代が与えられる。

小穴45号（Ⅲ地区 SP2045）（第342図）

Ⅲ-2区中央部南端、S5グリッドに位置し、南半は側溝に切られる。径38cm深度38cmを測る円形の小穴。出土遺物は1点のみで、606は土師器壺か鍋の口縁部。口縁端部を強いヨコナデによってわずかに拡張。体部外面にタテハケ、口縁内面にヨコハケを施す。胎土に結晶片岩とみられる粒子および砂岩を含む。

Ⅲ-3・4区（第343図）

Ⅲ-3・4区はⅢ地区の西側に位置する調査区である。北端部は古野川に向けてやや下がる。第2遺構面では遺構密度は高くない。SA8棟、SG2基、SK99基、ST134基、SD10条、SP98基を検出。調査区北側には西から延びる溝SD2001が中途で途切れ、調査区中央部には南北に走る複数の溝がみられる。掘立柱建物は中央部の溝付近にはみられず、調査区の東と西に分かれて位置する。土塙墓は数基～十数基の小グループにまとまる傾向がある。

掘立柱建物 6号（Ⅲ地区 SA2006）（第344図）

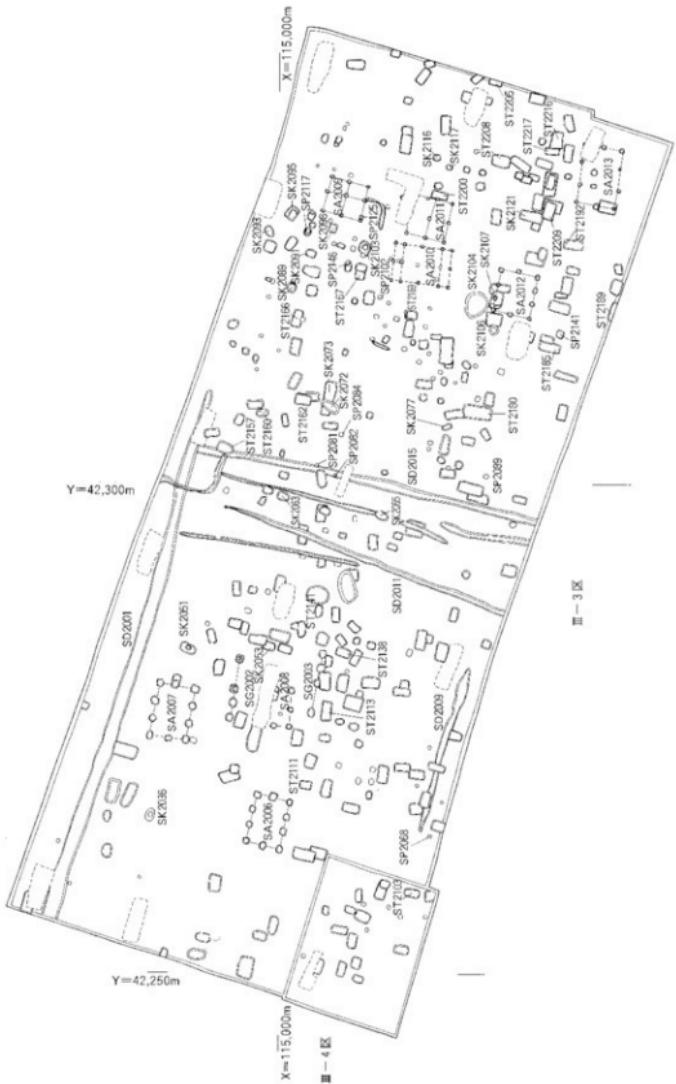
Ⅲ-3区西部中央、T・A13・14グリッドに位置する。東西3間（4.8m）南北2間（3.5m）床面積16.8m²、10基の柱穴をもつ側柱建物で、建物主軸N77°Wを向く。柱穴の平面形は隅丸方形で、一辺60～85cm深度29～53cmを測る。断面は逆台形状で、EP3・6で柱痕とみられる土層を確認。遺物はEP3・7から、土師器片、須恵器片・杯が出土。607はEP7から出土した高台付の須恵器杯。平城V～VI期併行期と考えられ、8世紀後葉の年代が与えられる。

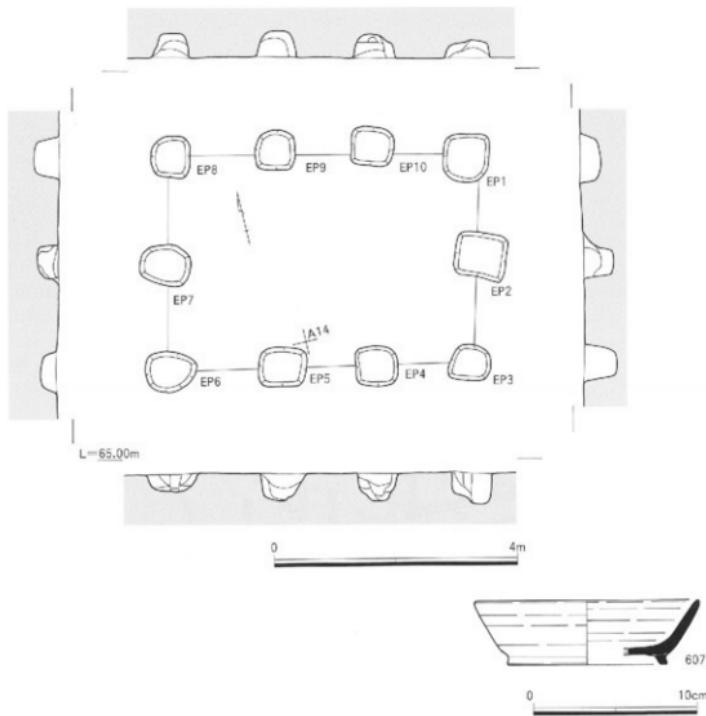
掘立柱建物 7号（Ⅲ地区 SA2007）（第345図）

Ⅲ-3区西部北側、B・C15～17グリッドに位置する。東西3間（5.4m）南北2間（3.7m）床面積20.0m²、10基の柱穴をもつ側柱建物で、建物主軸N80°Wを向く。柱穴の平面形は隅丸方形または不整な方形で、一辺72～145cm深度19～45cmを測る。断面は逆台形状またはU字状で、EP3で柱痕とみられ

30m

第343圖 Ⅲ—3·4區第2邊界地帶佈置圖





第344図 Ⅲ地区SA2006遺構・遺物実測図

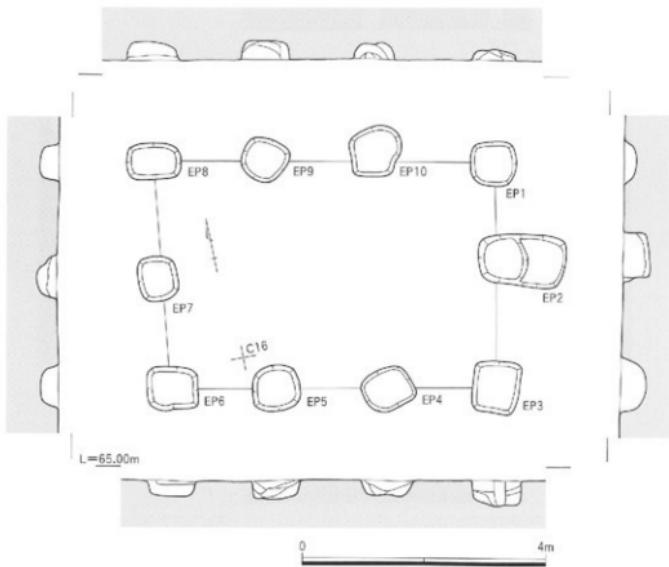
る上層を確認。遺物はEP 2から、土師質土器片・煮炊具が出上。

掘立柱建物8号（Ⅲ地区 SA2008）（第346図）

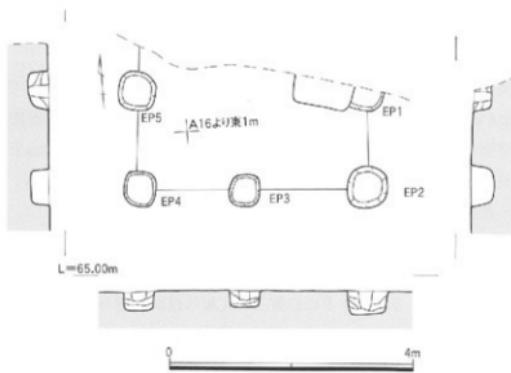
Ⅲ-3区西部中央、T・A15・16グリッドに位置し、北は搅乱に切られる。東西2間（3.8m）南北2間以上（1.8m以上）床面積6.8m²以上、5基の柱穴をもつ側柱建物で、建物主軸N85°Wを向く。柱穴の平面形は隅丸方形または不整円形で、径55~70cm深度28~39cmを測る。断面は逆台形状または方形で、すべての柱穴で柱痕とみられる土層を確認。出土遺物は皆無。

掘立柱建物9号（Ⅲ地区 SA2009）（第347図）

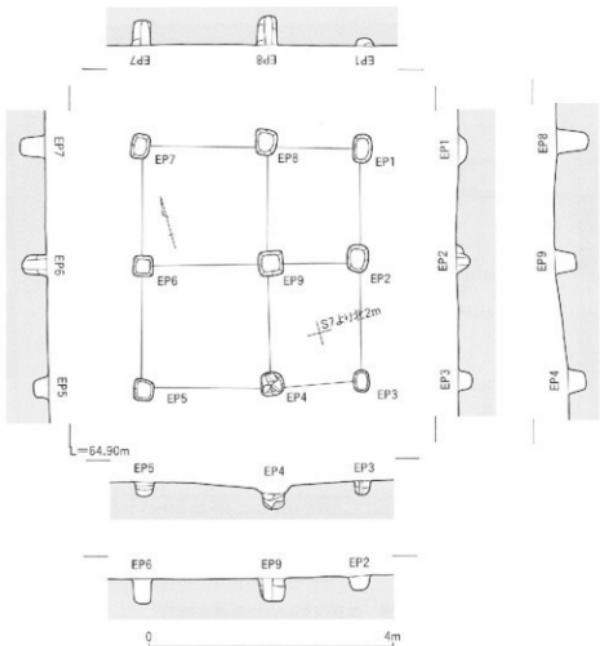
Ⅲ-3区東部北側、S・T6・7グリッドに位置する。東西2間（3.5m）南北2間（4.0m）床面積14.0m²、9基の柱穴をもつ総柱建物で、建物主軸N14°Eを向く。柱穴の平面形は方形または隅丸長方形で、一辺35~50cm深度14~47cmを測る。断面は逆台形状またはU字状で、EP 2・3・6~9で柱痕とみられる土層を確認。遺物はEP 9から、土師質土器・煮炊具が出上。



第345図 Ⅲ地区SA2007遺構実測図



第346図 Ⅲ地区SA2008遺構実測図



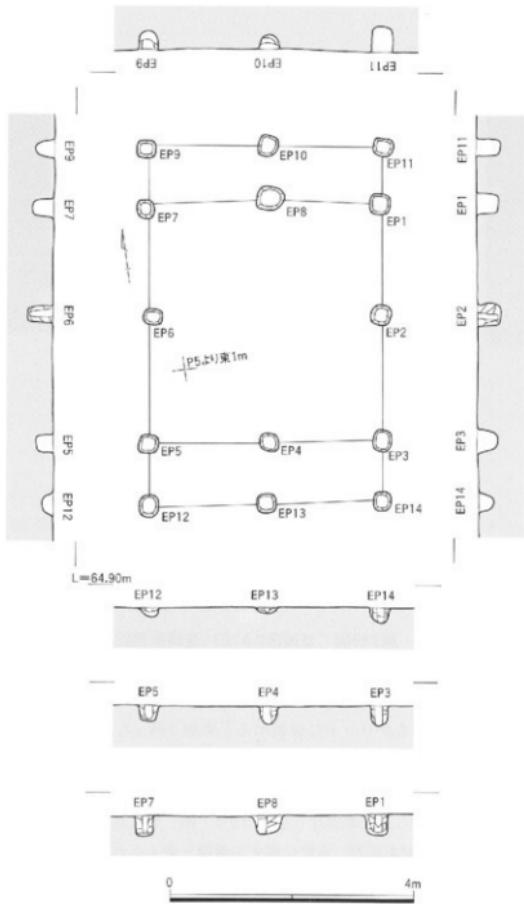
第347図 III地区SA2009遺構実測図

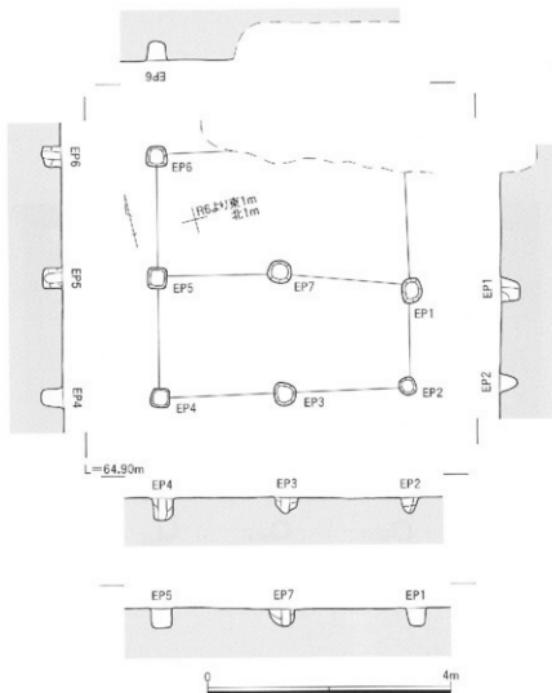
掘立柱建物10号（Ⅲ地区 SA2010）（第348図）

Ⅲ-3区東部中央、Q・R 5グリッドに位置する。東西2間（3.8m）南北2間（3.8m）床面積14.4m²（底部含めて南北4間（5.8m）22.0m²）、14基の柱穴をもつ南北庇付きの側柱建物で、建物主軸N7°Eを向く。柱穴の平面形は隅丸方形または不整円形で、径30~45cm深度10~42cmを測る。断面はU字状で、EP1~9で柱痕とみられる土層を確認。遺物はEP1・3・5・8・9から、土師器片、須恵器片、土師質土器片・煮炊具、鉄釘が出土。

掘立柱建物11号（Ⅲ地区 SA2011）（第349図）

Ⅲ-3区東部中央、Q・R 5・6グリッドに位置し、北東は擾乱に切られる。東西2間（4.1m）南北2間（4.1m）床面積16.8m²、7基の柱穴をもつ掘立柱建物で、建物主軸N14°Eを向く。柱穴の平面形は方形または不整円形で、一辺30~40cm深度27~36cmを測る。断面は逆台形状またはU字状で、EP3~7で柱痕とみられる土層を確認。遺物はEP1~3・5~7から、土師器片・煮炊具、須恵器片・杯、瓦質土器片が出土。





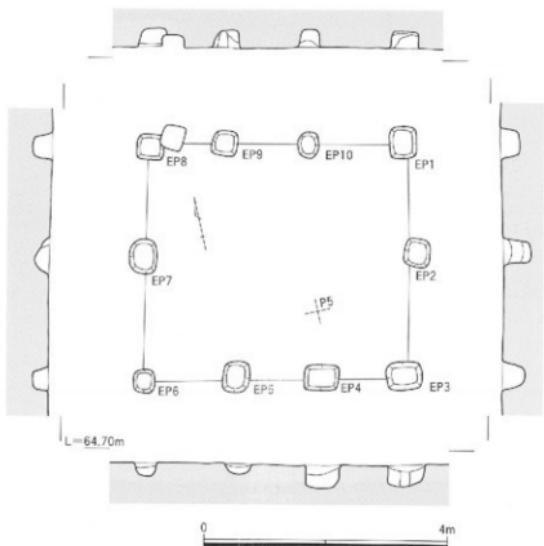
第349図 Ⅲ地区SA2011遺構実測図

掘立柱建物12号（Ⅲ地区 SA2012）（第350図）

Ⅲ-3区東部南側、O・P4・5グリッドに位置する。東西3間（4.2m）南北2間（3.9m）床面積16.4m²、10基の柱穴をもつ側柱建物で、建物主軸N80°Wを向く。柱穴の平面形は隅丸方形で、一边40～60cm深度18～46cmを測る。断面は逆台形状またはU字状で、EP3・9で柱痕とみられる上唇を確認。遺物はEP1・2・4・6～10から、土師器片（赤彩ほか）・杯・煮炊具・須恵器片・蓋・青磁碗（細蓮弁）が出土。出土遺物に時期幅があるが、古代に属する遺構と考えられる。

掘立柱建物13号（Ⅲ地区 SA2013）（第351図）

Ⅲ-3区東端部南端、M・N6・7グリッドに位置する。東西3間（5.8m）南北2間（3.8m）床面積22.0m²、10基の柱穴をもつ側柱建物で、建物主軸N80°Wを向く。柱穴の平面形は不整円形または隅丸方形で、径30～60cm深度13～34cmを測る。断面は逆台形状またはU字状で、EP7を除く柱穴で柱痕とみられる上唇を確認。遺物はEP10から、土師器煮炊具が出土。



第350図 Ⅲ地区SA2012遺構実測図

柵列2号（Ⅲ地区 SG2002）（第352図）

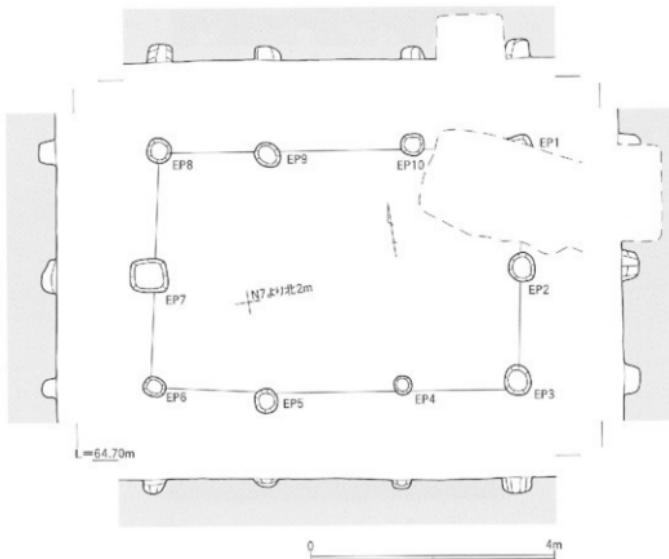
Ⅲ-3区西部中央、A・B16・17グリッドに位置する。東西3間（6.2m）、4基の柱穴が一の字形に列ぶ柵列で、主軸はN80°Wを向く。柱穴の平面形は隅丸方形または不整円形で、一辺80~95cm深度46~58cmを測る。断面は逆台形状またはU字状で、柱痕は確認できない。遺物はEP3・4から、土師器片（赤彩ほか）、須恵器片・杯が出土。608はEP3出土の高台付の須恵器杯。平城V~VI期頃とみられ、8世紀後葉頃に位置付けられる。

柵列3号（Ⅲ地区 SG2003）（第353図）

Ⅲ-3区西部中央、T16・17グリッドに位置する。東西3間（6.2m）、4基の柱穴が一の字形に列ぶ柵列で、主軸はN78°Wを向く。柱穴の平面形は隅丸方形で、一辺80~90cm深度18~36cmを測る。断面は逆台形状で、柱痕は確認できない。出土遺物は1点のみで、609はEP4から出土した高台付の須恵器杯。平城Ⅲ~Ⅳ期とみられ、8世紀中葉頃と考えられる。

土坑36号（Ⅲ地区 SK2036）（第354図）

Ⅲ-3区西部北側、C14グリッドに位置する、長軸128cm短軸90cm深度20cmを測る楕円形土坑。主軸はN69°Wを向く。断面は皿状で、埋土は1層。出土遺物は1点のみで、610は丸底をもつ弥生土器壺。遺構中央部の検出面から出土。外面平行タタキのち体部下半に継位のヘラミガキ。内面は底部から体部



第351図 Ⅲ地区SA2013遺構実測図

中位にかけて縦位のケズリ、上位は斜位のハケを施す。胎土に結晶片岩を含む。弥生時代後期末頃。

土坑51号（Ⅲ地区 SK2051）（第355図）

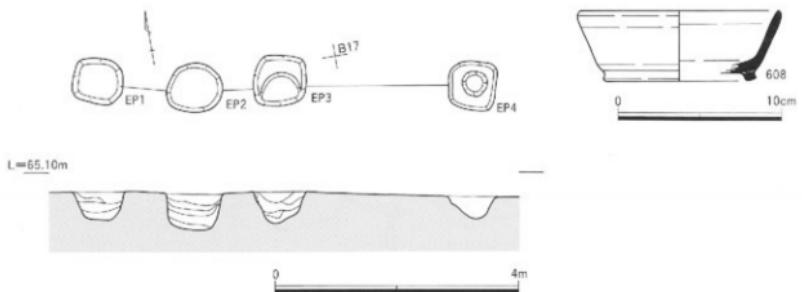
Ⅲ-3区中央部北側、B・C17グリッドに位置する、長軸168cm短軸100cm深度34cmを測る隅丸長方形の土坑。主軸はN27°Eを向く。断面は不整な逆台形状で、中央部に上層からの掘削による落ち込みあり。埋土は3層に分層。検出面より上位で30~50cm大の礫を検出。礫の長軸方位は遺構長軸に沿う。

遺物は土師器片、土師質土器擂鉢・羽釜が出上。611は土師質土器羽釜。鉢部は短く、折り曲げ技法で作り、鉢・体部の境に連続した指頭圧痕をのこす。両端部とも丸く仕上げる。体部外面と内面は板ナデを施し、底部外面に格子タタキを施す。脚部は体部中位に取り付く。脚剥離面にも煤の付着がみられることから、脚部欠損後も使用。612は土師質土器擂鉢。口縁端部は内側に拡張。体部外面ユビオサエのち板ナデ、体部内面は丁寧なヨコハケのち擂目を施す。底部外面は不調整。

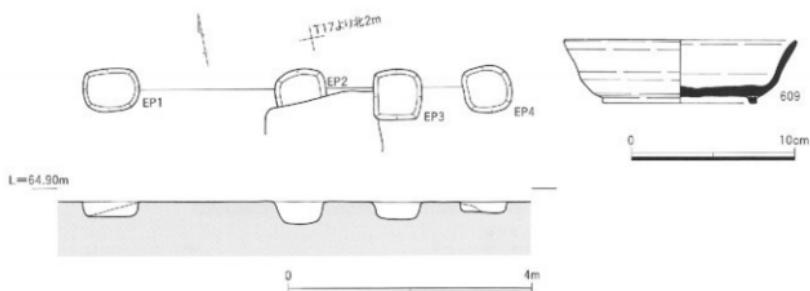
遺構の年代は、出土遺物から概ね15世紀代と考えられる。

土坑53号（Ⅲ地区 SK2053）（第356図）

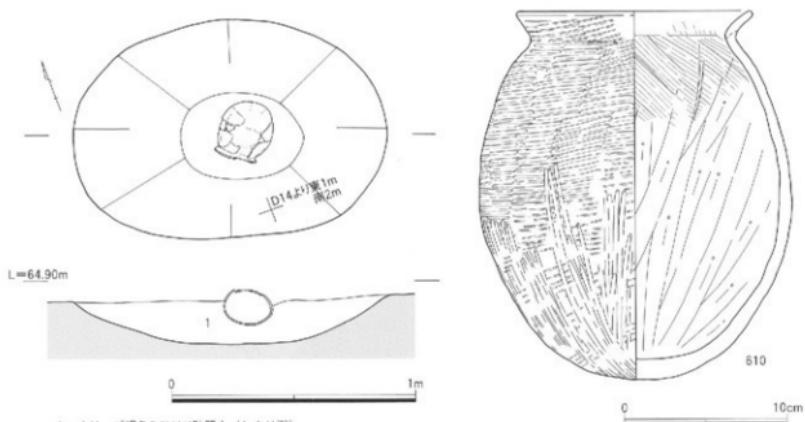
Ⅲ-3区中央部北寄り、A17グリッドに位置する、長軸136cm短軸88cm深度25cmを測る隅丸長方形の土坑。主軸はN10°Eを向く。断面は皿状で、埋土は3層に分層。遺物は土師器杯・煮炊具、須恵器片が出上。613は土師器杯。遺構中央部、検出面の約30cm上で出土。底部外面は回転ヘラ切りのち板ナデを



第352図 III地区SG2002遺構・遺物実測図

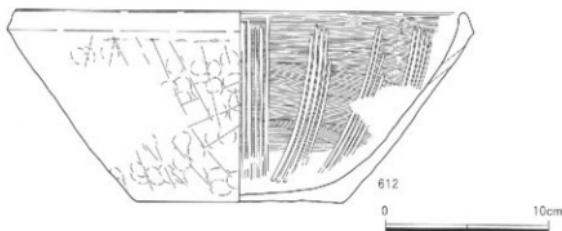
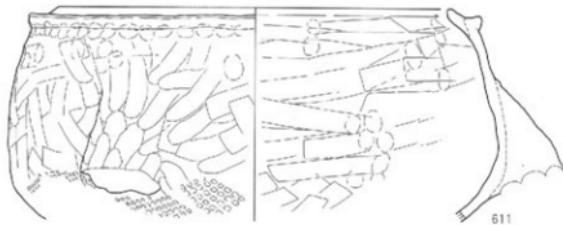
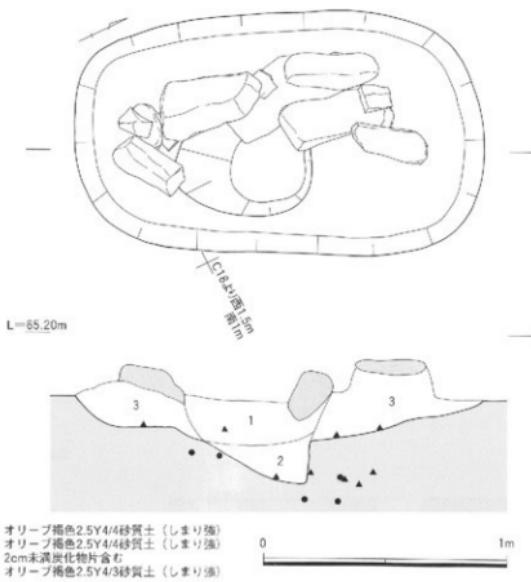


第353図 III地区SG2003遺構・遺物実測図



1. オリーブ褐色2.5Y4/4砂質土(しまり面)
灰オリーブ色砂質土ブロック含む

第354図 III地区SK2036遺構・遺物実測図

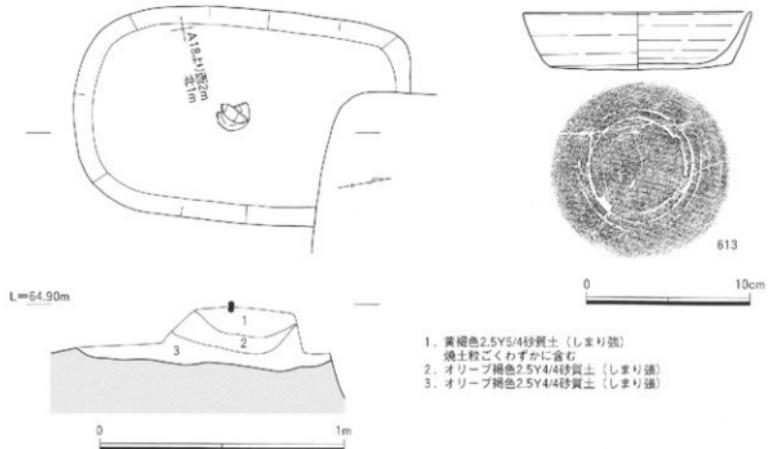


第355図 III地区SK2051遺構・遺物実測図

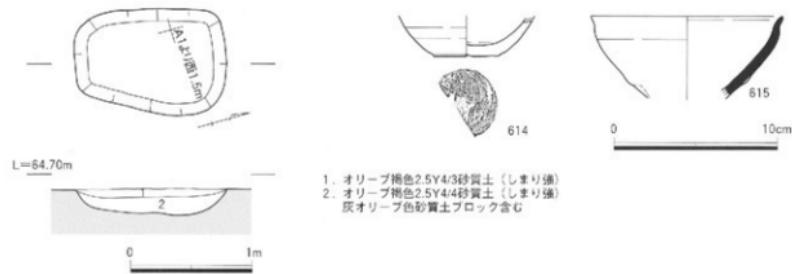
施す。内外面に赤彩を施す。胎土に結晶片岩と絹雲母を含む。概ね8~9世紀頃。

土坑63号（Ⅲ地区 SK2063）（第357図）

Ⅲ-3区中央部北寄り、T・A20グリッドに位置する、長軸125cm短軸90cm深度22cmを測る不整な隅丸長方形の土坑。主軸はN16°Eを向く。断面は皿状で、埋土は2層に分層。遺物は土師質土器杯・煮炊具、陶器碗が出土。614は土師質土器杯。底部外面に静止糸切り痕のち板日痕を残す。胎土は精良で、結晶片岩・絹雲母を含む。615は瀬戸美濃系の天目茶碗で鉄釉を施す。遺構の年代は、出土遺物から16世紀頃と考えられる。



第356図 Ⅲ地区SK2053遺構・遺物実測図



第357図 Ⅲ地区SK2063遺構・遺物実測図

土坑65号（Ⅲ地区 SK2065）（第358図）

Ⅲ-3区中央部南寄り、R・S20グリッドに位置する、長軸142cm短軸87cm深度8cmを測る楕円形の土坑。主軸はN24°Eを向く。断面は皿状で、埋土は3層に分層。検出面のcm上で10~20cm大の隙を検出。遺物は須恵器片、結晶片岩製紙石・粘板岩製紙石が出土。616は粘板岩製紙石。3面を使用し、図の左側面は弧状に抉る。617は結晶片岩製紙石。板状石材の1面中央部のみ使用する。

土坑72号（Ⅲ地区 SK2072）（第359図）

Ⅲ-3区中央部北寄り、S・T2グリッドに位置する、長軸200cm短軸100cm深度26cmを測る不整な楕円形の土坑。主軸はN34°Eを向く。断面は皿状で、埋土は2層に分層。遺物は土師器煮炊具・甕が出土。618は土師器甕の上部。口縁端部を外方にわずかに拡張する。外面に斜位のハケ、口縁内面にヨコハケを施す。頸部外面は強いヨコナデによって凹線状に作る。胎土は粗く、砂岩とみられる粒子を含む。

土坑73号（Ⅲ地区 SK2073）（第360図）

Ⅲ-3区中央部北寄り、S・T2・3グリッドに位置する、長軸352cm短軸126cm深度25cmを測る隅丸長方形の土坑。主軸はN80°Wを向く。断面は逆台形状で、埋土は3層に分層。遺物は土師器杯・煮炊具、須恵器杯が出土。619は高台付須恵器杯の下半部。胎土に砂岩とみられる粒子を含む。平城V期前後、8世紀後半頃と考えられる。

土坑77号（Ⅲ地区 SK2077）（第361図）

Ⅲ-3区中央部南寄り、Q2グリッドに位置する、長軸104cm短軸60cm深度23cmを測る隅丸長方形の土坑。主軸はN22°Wを向く。断面は逆台形状で、埋土は3層に分層。遺物は土師器片・煮炊具、須恵器杯が出土。620は須恵器杯。体部外面下端は回転ヘラケズリを施す。概ね8~9世紀頃と考えられる。

土坑89号（Ⅲ地区 SK2089）（第362図）

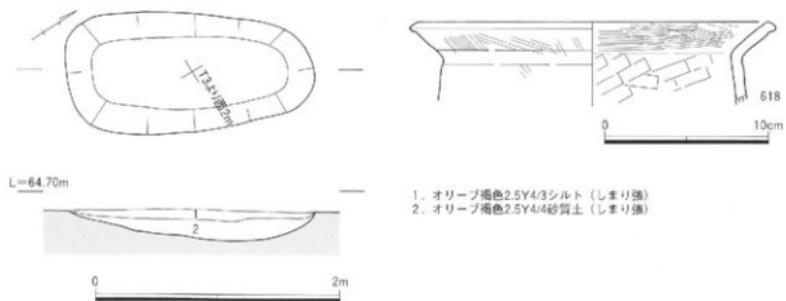
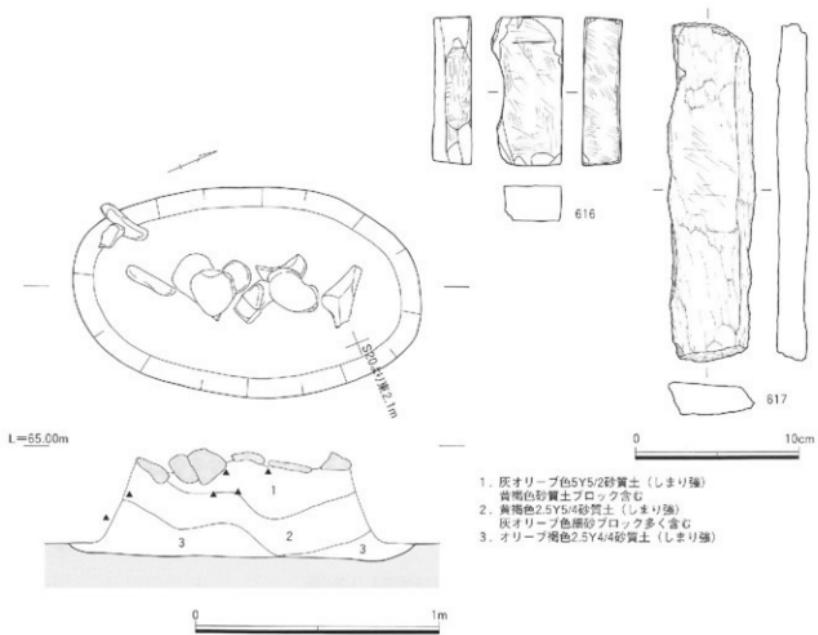
Ⅲ-3区中央部南側、T4・5グリッドに位置する、長軸112cm短軸98cm深度25cmを測る不整円形の土坑。断面は逆台形状で、埋土は2層に分層。遺物は土師器片・須恵器杯が出土。621は高台付の須恵器杯。体部外面下端は回転ヘラケズリを施す。平城Ⅲ~Ⅳ期前後、8世紀中葉頃と考えられる。

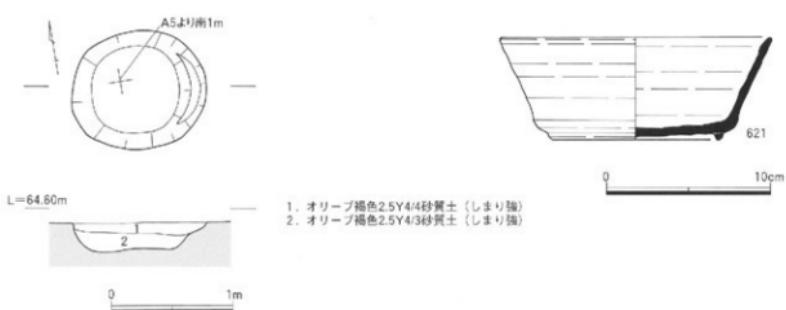
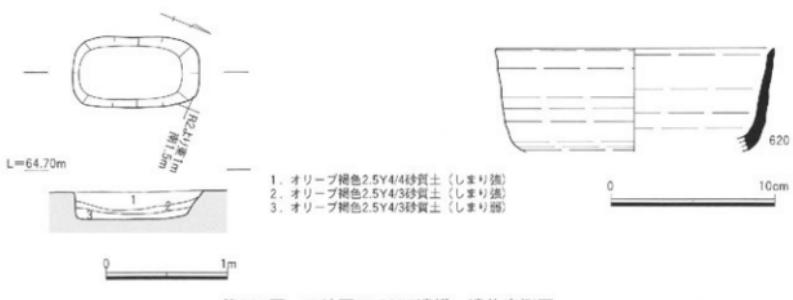
土坑91号（Ⅲ地区 SK2091）（第363図）

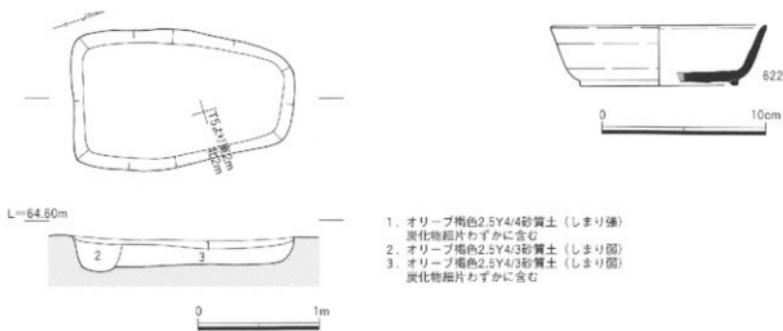
Ⅲ-3区東部北側、T5グリッドに位置する、長軸186cm短軸115cm深度28cmを測る不整な隅丸長方形の土坑。主軸はN17°Eを向く。断面は逆台形状で、埋土は3層に分層。遺物は土師器片・煮炊具、須恵器片・杯、土師質土器片・瓦器碗が出土。622は須恵器杯。断面逆台形状の低い高台をもつ。平城Ⅲ~Ⅳ期前後、8世紀中葉頃と考えられる。

土坑93号（Ⅲ地区 SK2093）（第364図）

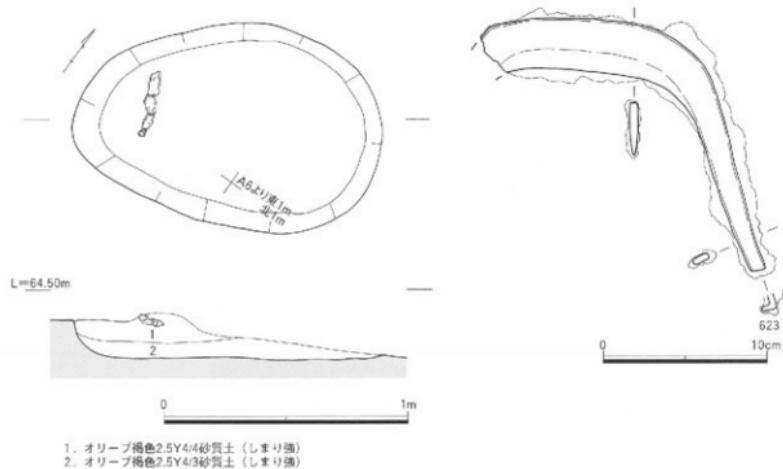
Ⅲ-3区東部北端、A6グリッドに位置する、長軸128cm短軸85cm深度20cmを測る不整な楕円形の土坑。主軸はN60°Eを向く。断面は皿状で、埋土は2層に分層。遺物は土師質土器片・鉄製品片・鎌が出土。623は鉄製の鎌。造構西側の検出面から出土。基部端はL字状に屈曲。







第363図 III地区SK2091遺構・遺物実測図

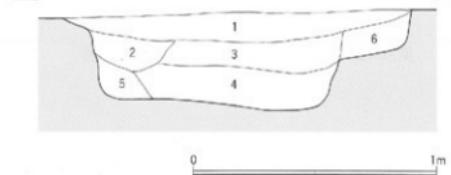
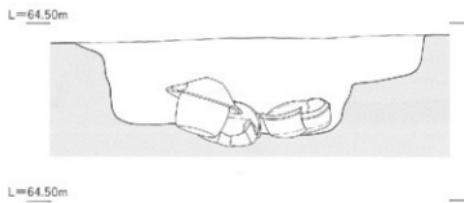
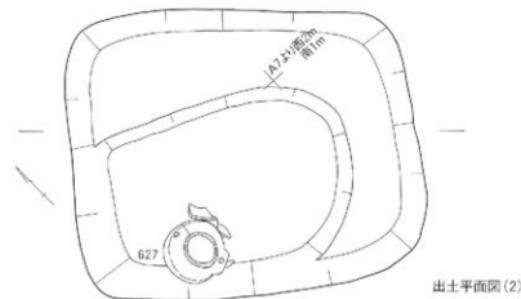
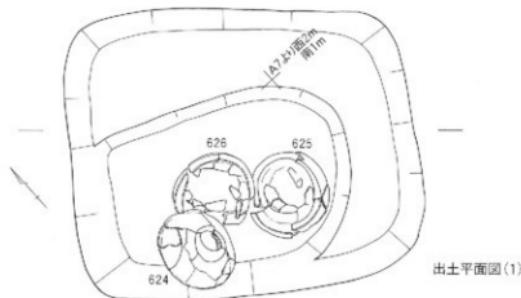


第364図 III地区SK2093遺構・遺物実測図

土坑95号（III地区 SK2095）（第365・366図）

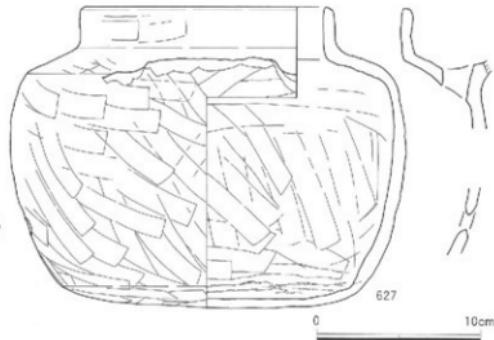
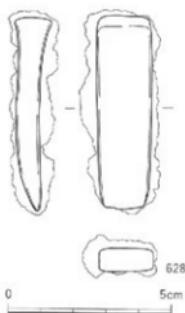
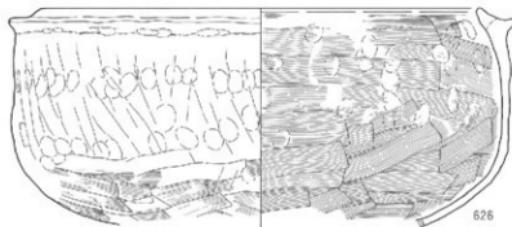
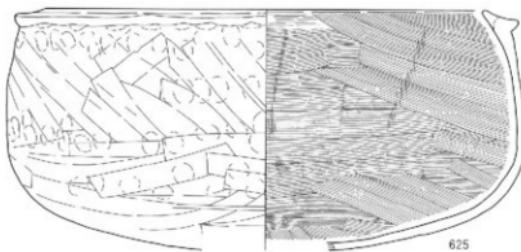
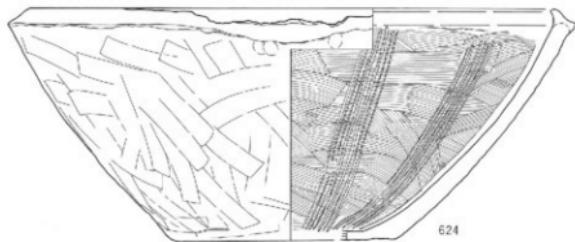
III-3区東部北端、T6グリッドに位置する、長軸142cm短軸129cm深度40cmを測る隅丸長方形の土坑。主軸はN49°Wを向く。断面は逆台形状で、北から東にかけて段を有する。埋土は6層に分層でき、最下層の第4層で焼土粒や炭化物片を多く含む。

遺物は土師器煮炊具、土師質土器片、擂鉢、煮炊具、茶釜、羽釜、壁土か、鐵楔か、が出土。遺構の中央西寄りにはほぼ完形の土師質土器の羽釜2点（625・626）、茶釜1点（627）を正位に置き、茶釜の上



- | | |
|--|--|
| 1. 黄褐色2.5Y5/4砂質土（しまり強）
炭オリーブ色砂質土ブロック含む
炭化物細片含む | 4. オリーブ褐色2.5Y4/4砂質土（しまり強）
砂土粒・炭化物多く含む |
| 2. 黄褐色2.5Y5/3砂質土（しまり強） | 5. オリーブ褐色2.5Y4/4砂質土（しまり強） |
| 3. オリーブ褐色2.5Y4/4砂質土（しまり強） | 6. オリーブ褐色2.5Y4/3砂質土（しまり強） |

第365図 Ⅲ地区SK2095遺構実測図



第366図 III地区SK2095遺物実測図

には土師質土器擂鉢（624）を天地逆にして被せる。蓋または祭祀関連の遺構と考えられる。

624は土師質土器擂鉢。口縁端部を内側に拡張し、片口を設ける。体部外面は板ナデ、体部内面は丁寧なヨコハケのち描目を施す。底部内面は使用により磨耗。胎土は粗い。625・626は土師質土器羽釜。いずれも鶴部は折り曲げ技法で作り、両端部は尖らせ気味にする。体部外面は板ナデ、内面はヨコハケによって仕上げる。底部外面は625が板ナデ、626が板ナデ・ハケを施し、いずれもタタキの痕跡は確認できない。627は土師質土器茶釜。肩部に一对の焼成前穿孔を施し、把手部を作る。内外面とも板ナデによって調整する。内面および断面で、底体部の境に接合痕が確認できる。体部下位に径1.5cmの焼成後穿孔を施す。628は鉄製の楔とみられる。板状で、頭部を平らに作り先端を尖らせる。

遺構の年代は、出土遺物から概ね15世紀代と考えられる。

土坑98号（Ⅲ地区 SK2098）（第367図）

Ⅲ-3区東部北側、S・T6 グリッドに位置する、長軸95cm短軸80cm深度43cmを測る隅丸方形の土坑。主軸はN75°Wを向く。断面はやや袋状を呈する不整な方形で、埋土は3層に分層。遺物は土師器片、土師質土器片・杯・擂鉢・煮炊具・壺が出土。629は土師質土器擂鉢。口縁端部を内側に折り曲げる。内面に横位の板ナデのち描目を施す。胎土は粗い。概ね中世後半期とみられる。

土坑103号（Ⅲ地区 SK2103）（第368図）

Ⅲ-3区東部北寄り、S5 グリッドに位置する、長軸130cm短軸120cm深度23cmを測る不整形の土坑。断面は皿状で、埋土は2層に分層。

遺物は土師器杯・皿・煮炊具・須恵器片・杯・壺、土師質土器片が出土。630は土師器皿。体部外面下端は横位のヘラケズリを施す。内外面に赤彩を施す。631は土師器杯。口縁端部をわずかに内側に折り返す。胎土に結晶片岩と網雲母を含む。632は須恵器蓋。天井部を欠く。633は須恵器杯。底部外面回転ヘラ切りのち板目痕または擦痕を残し、断面逆台形状の低い高台を貼り付け。胎土に砂岩を含む。

遺構の年代は、出土遺物から概ね8世紀中葉～後葉と考えられる。

土坑104号（Ⅲ地区 SK2104）（第369図）

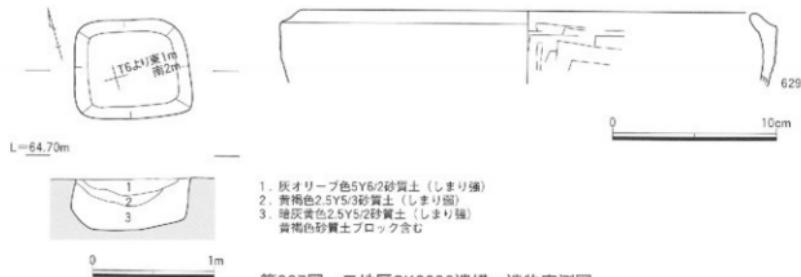
Ⅲ-3区東部南寄り、P・Q4 グリッドに位置する、長軸280cm短軸240cm深度22cmを測る不整形の土坑。断面は皿状で、埋土は3層に分層。

遺物は弥生土器高杯、土師器片・煮炊具・須恵器片・杯・壺・杯か碗が出土。634は須恵器蓋。天井部中央を欠く。胎土は粗く、焼成や不良で酸化炎焼成氣味である。635は須恵器碗か杯。体部内面下位に斜位のヘラケズリを施す。口縁内外面に重焼による炭素が付着。636・637は須恵器杯。いずれも底部を欠き、外上方に開く体部をもつ。638は須恵器壺の下半部。体部外面に平行タタキの痕跡を残す。胎土は粗い。遺構の年代は、出土遺物から概ね8世紀中葉前後と考えられる。

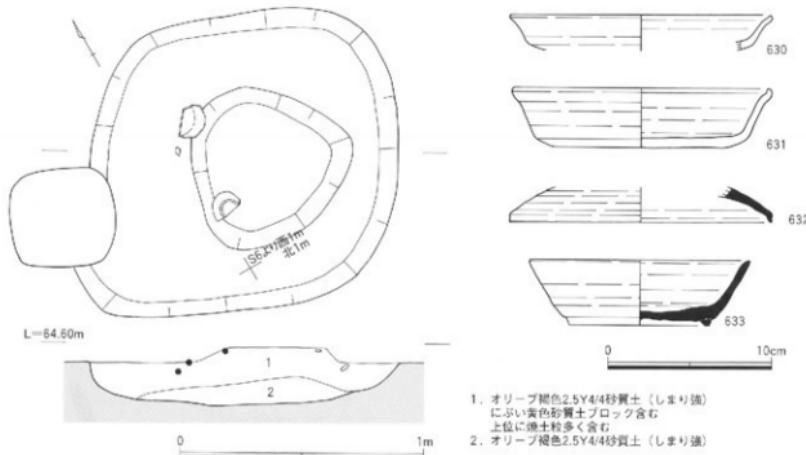
土坑106号（Ⅲ地区 SK2106）（第370図）

Ⅲ-3区東部南側、P4 グリッドに位置する、長軸162cm短軸140cm深度30cmを測る隅丸方形の土坑。主軸はN11°Eを向く。断面は方形で、埋土は2層に分層できる。

遺物は土師器片（赤彩ほか）・煮炊具・須恵器片・杯・壺か、が出土。639・640は須恵器杯。639は腰



第367図 III地区SK2098遺構・遺物実測図

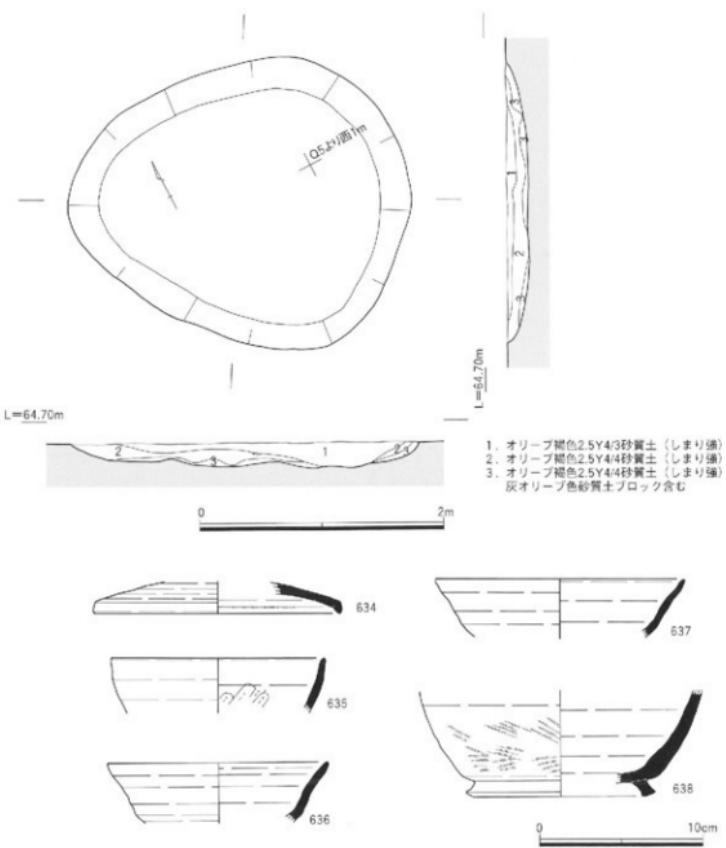


第368図 III地区SK2103遺構・遺物実測図

が張った器形をもつ。8世紀中葉頃か。640は底部外面回転ヘラ切りのち断面方形の高台を貼り付け。胎土は粗く、結晶片岩と絹雲母を含む。焼成不良で酸化炎焼成され、外面に炭素付着。

土坑107号（III地区 SK2107）（第371図）

III-3区東部南側、P4グリッドに位置する、長軸185cm短軸124cm深度31cmを測る隅丸長方形の土坑。主軸はN77°Wを向く。断面は不整な逆台形状で、西側に段を有する。埋土は8層に分層。遺物は土師器杯・煮炊具・須恵器片・杯・壺が出土。641は土師器杯。胎土は粗く、砂岩とみられる粒子を含む。概ね8~9世紀頃か。642は須恵器杯とみられるが、蓋の可能性も残す。底部は平坦でなく、やや丸みを帯びる。回転ヘラ切りのち植物の枝か茎の圧痕を残す。7世紀代に遡る可能性あり。



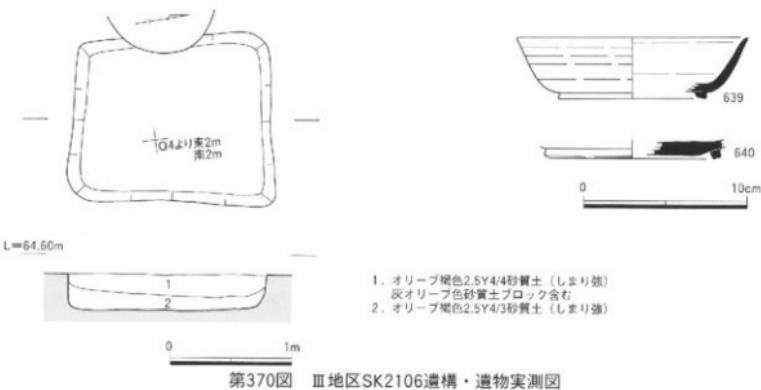
第369図 Ⅲ地区SK2104遺構・遺物実測図

土坑116号（Ⅲ地区 SK2116）（第372図）

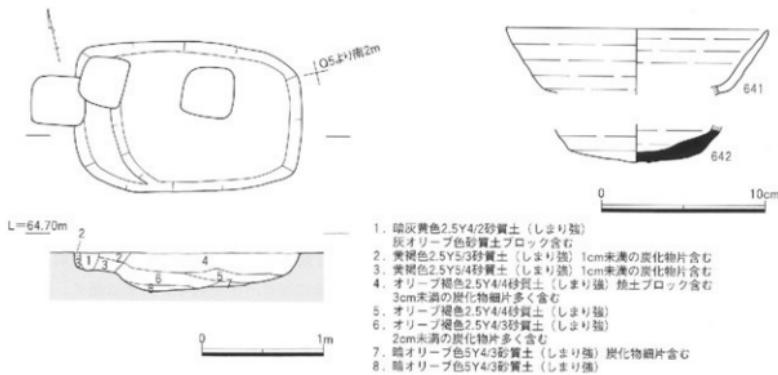
Ⅲ-3区東部中央、Q7グリッドに位置する、長軸80cm短軸68cm深度25cmを測る隅丸方形の土坑。主軸はN2°Wを向く。断面は逆台形状で、埋土は1層。出土遺物は1点のみで、643は鉄釘。頭部・先端部ともに欠く。

土坑117号（Ⅲ地区 SK2117）（第373図）

Ⅲ-3区東部中央、Q7グリッドに位置する、長軸68cm短軸57cm深度24cmを測る隅丸方形の土坑。主軸はN9°Eを向く。断面は逆台形状で、埋土は1層。遺物は土師器煮炊具、須恵器片が出土。644は須



第370図 III地区SK2106遺構・遺物実測図



第371図 III地区SK2107遺構・遺物実測図



第372図 III地区SK2116遺構・遺物実測図

須恵器蓋。低平な作り。天井部外面中央に摘み部の剥離痕がある。概ね8～9世紀頃と考えられる。

土坑121号（Ⅲ地区 SK2121）（第374図）

Ⅲ-3区東部南側、O・P6グリッドに位置する、長軸248cm短軸114cm深度22cmを測る隅丸長方形の土坑。主軸はN14°Eを向く。断面は逆台形状または皿状で、埋土は1層。出土遺物は1点のみで、645は須恵器壺の口縁部。端部は方形に作り、外面に1条の凸帯をもつ。7世紀後半～8世紀前半頃か。

土壙墓103号（Ⅲ地区 ST2103）（第375図）

Ⅲ-4区東部中央、R12グリッドに位置する、長軸162cm短軸87cm深度29cmを測る隅丸長方形の土壙墓。主軸はN12°Eを向く。断面は逆台形状で、埋土は1層。出土遺物は1点のみで、646は弥生土器壺の下半部。体部外面に平行タタキ、内面に継位のヘラケズリを施す。胎土に結晶片岩を含む。弥生時代後期末とみられる。

土壙墓111号（Ⅲ地区 ST2111）（第376図）

Ⅲ-3区西部中央、T14グリッドに位置する、長軸122cm短軸90cm深度25cmを測る隅丸長方形の土壙墓。主軸はN9°Eを向く。断面は方形で、埋土は4層に分層。出土遺物は1点のみで、647は無高台の須恵器杯。体部の器壁が厚い。底部外面に回転ヘラ切りのち板目痕を残す。胎土に結晶片岩とみられる粒子および砂岩を含む。焼成不良で黄灰色を呈する。概ね8～9世紀頃と考えられる。

土壙墓133号（Ⅲ地区 ST2133）（第377図）

Ⅲ-3区西部中央、S・T16グリッドに位置する、長軸208cm短軸115cm深度38cmを測る隅丸長方形の土壙墓。主軸はN85°Wを向く。断面は逆台形状で、埋土は4層に分層。遺物は上師器片・煮炊具・壺が出上。648は土師器壺の上半部。外面にタテハケ、口縁内面にヨコハケを施す。胎土は粗く、結晶片岩・砂岩・泥岩を含む。概ね8～9世紀頃とみられる。

土壙墓138号（Ⅲ地区 ST2138）（第378図）

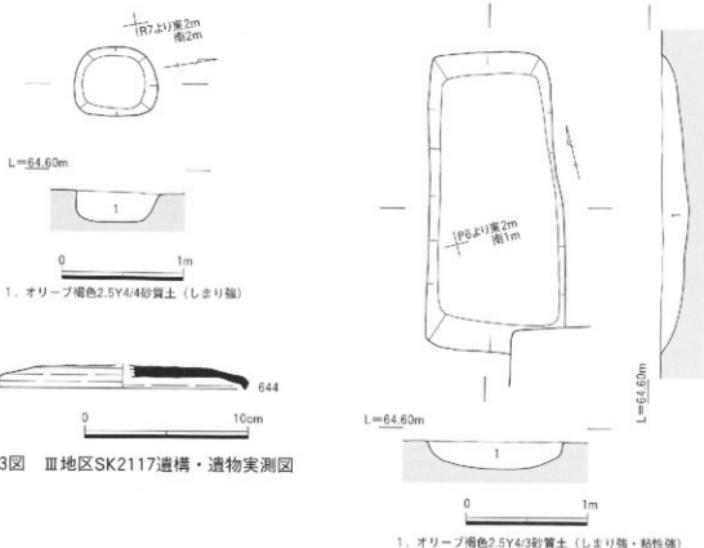
Ⅲ-3区中央部、S17グリッドに位置する、長軸150cm短軸90cm深度23cmを測る隅丸長方形の土壙墓。主軸はN20°Eを向く。断面逆台形状で、埋土は2層に分層。遺物は土師器煮炊具・須恵器杯が出上。649は須恵器杯。断面逆台形状の低い高台をもつ。焼成不良で、部分的に酸化炎焼成。8世紀中葉頃か。

土壙墓141号（Ⅲ地区 ST2141）（第379図）

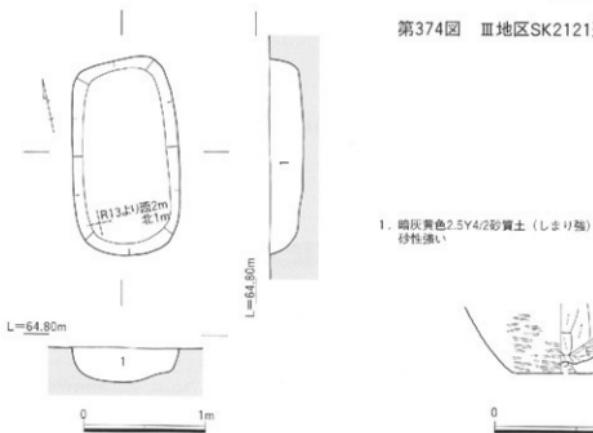
Ⅲ-3区中央部、T18グリッドに位置する、長軸125cm短軸67cm深度24cmを測る隅丸長方形の土壙墓。主軸はN90°WEを向く。断面は逆台形状で、埋土は2層に分層。遺物は土師器片・須恵器蓋・壺が出土。650は須恵器蓋。平頭の摘みをもつ。平城Ⅲ期前後、8世紀中葉頃とみられる。

土壙墓157号（Ⅲ地区 ST2157）（第380図）

Ⅲ-3区中央部北端、A・B1グリッドに位置する、長軸168cm短軸117cm深度40cmを測る隅丸長方形の土壙墓。主軸はN20°Eを向く。断面は逆台形状で一部袋状を呈し、埋土は4層に分層。遺物は土師

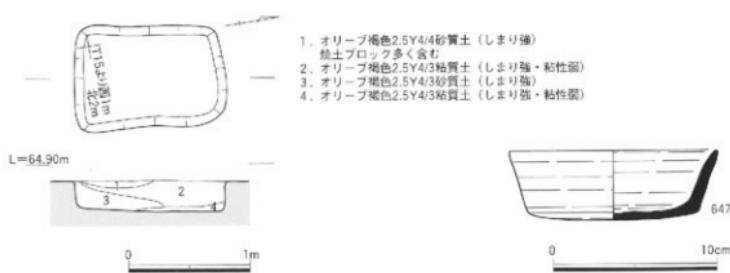


第373図 III地区SK2117遺構・遺物実測図

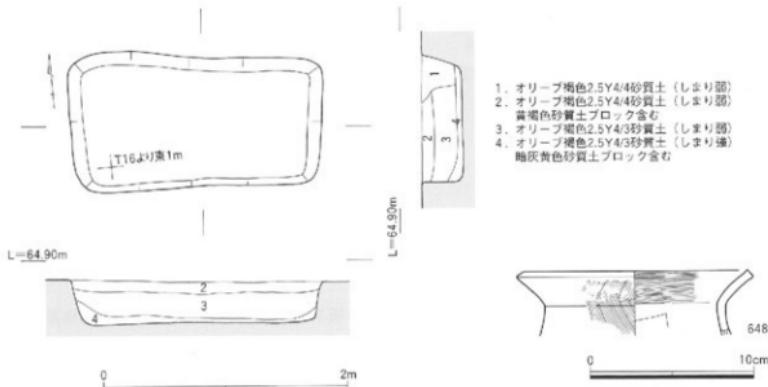


第374図 III地区SK2121遺構・遺物実測図

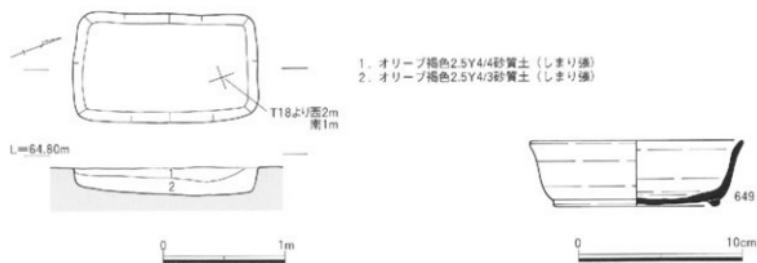
第375図 III地区ST2103遺構・遺物実測図



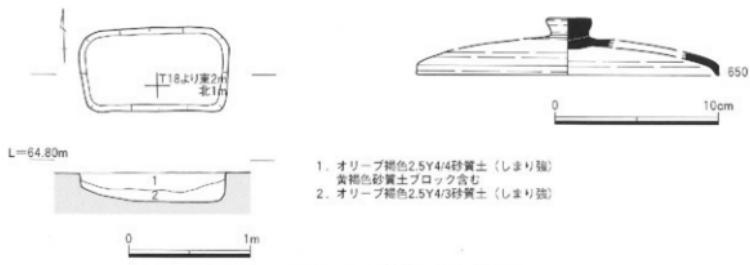
第376図 Ⅲ地区ST2111遺構・遺物実測図



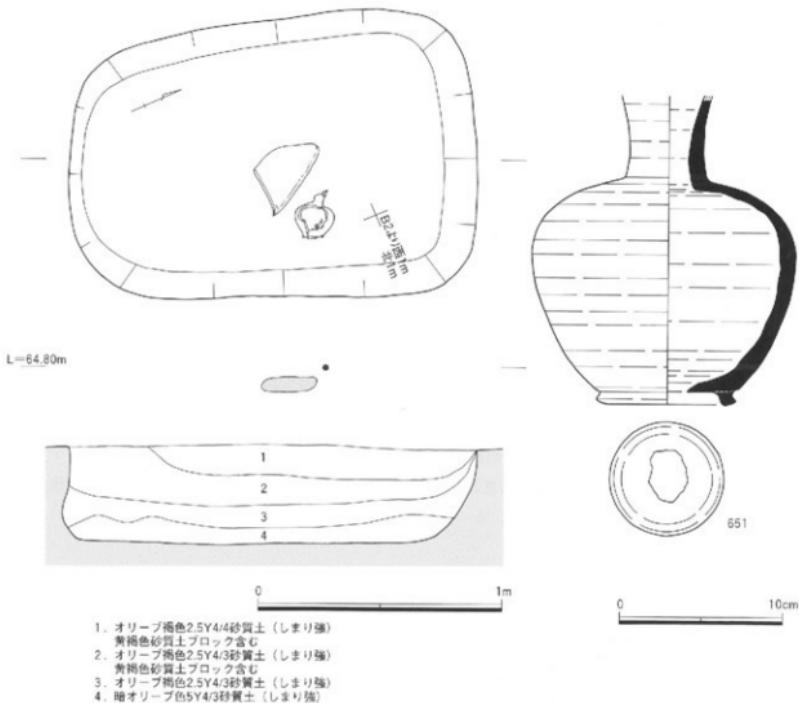
第377図 Ⅲ地区ST2133遺構・遺物実測図



第378図 Ⅲ地区ST2138遺構・遺物実測図



第379図 III地区ST2141遺構・遺物実測図



第380図 III地区ST2157遺構・遺物実測図

器煮炊具、須恵器壺が出土。651は須恵器壺。口縁を欠く。底部中央に外からの打撃による穿孔を施す。8世紀代と考えられる。

土壤墓160号（Ⅲ地区 ST2160）（第381図）

Ⅲ-3区中央部北側、A2グリッドに位置する、長軸134cm短軸80cm深度46cmを測る楕円形の土壤墓。主軸はN5°Wを向く。断面は方形で、埋土は4層に分層。遺物は土師質土器片、青磁皿、鉄滓が出土。652は青磁皿。底部内面に円形の釉剥ぎを施す。釉は光沢に乏しく白濁。胎土は陶器質で、赤褐色を呈する。15世紀代と考えられる。

土壤墓162号（Ⅲ地区 ST2162）（第382図）

Ⅲ-3区中央部北側、T2グリッドに位置する、長軸168cm短軸108cm深度24cmを測る隅丸長方形の土壤墓。主軸はN10°Eを向く。断面は逆台形状で、埋土は3層に分層。出土遺物は1点のみで、653は須恵器皿。焼成やや不良で、部分的に酸化炎焼成。平城V~VI期前後、8世紀後葉頃とみられる。

土壤墓166号（Ⅲ地区 ST2166）（第383図）

Ⅲ-3区東部北側、T4グリッドに位置する、長軸180cm短軸104cm深度32cmを測る隅丸長方形の土壤墓。主軸はN75°Wを向く。断面は逆台形状で、埋土は2層に分層。遺物は土師器片・煮炊具、土師質土器擂鉢が出土。654は土師質土器擂鉢。口縁端部を内側に折って拡張。外面にユビオサエのち板ナデ、内面に横位の板ナデのち擣目を施す。15世紀代か。

土壤墓167号（Ⅲ地区 ST2167）（第384図）

Ⅲ-3区東部北側、S5グリッドに位置し、東は遺構に切られる。長軸残存長95cm短軸100cm深度53cmを測る隅丸長方形の土壤墓。主軸はN82°Wを向く。断面は方形で、埋土は5層に分層。遺物は土師器片・煮炊具、須恵器片・蓋が出土。655は須恵器蓋。天井部外面に板目痕または擦痕を残し、中央部に低平な擬宝珠摘みを貼り付け。概ね8世紀中葉頃とみられる。

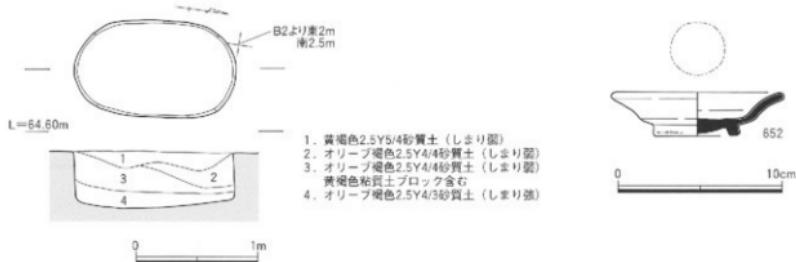
土壤墓169号（Ⅲ地区 ST2169）（第385図）

Ⅲ-3区東部中央、R4グリッドに位置する、長軸125cm短軸85cm深度36cmを測る隅丸長方形の土壤墓。主軸はN7°Eを向く。断面は逆台形状で、埋土は4層に分層。遺物は土師器片（赤彩ほか）・煮炊具、須恵器杯か鉢・壺が出土。656は須恵器杯か鉢。小片のため復元径と傾きは不正確。胎土に結晶片岩・砂岩を含む。外面わずかに煤付着。8~9世紀代か。

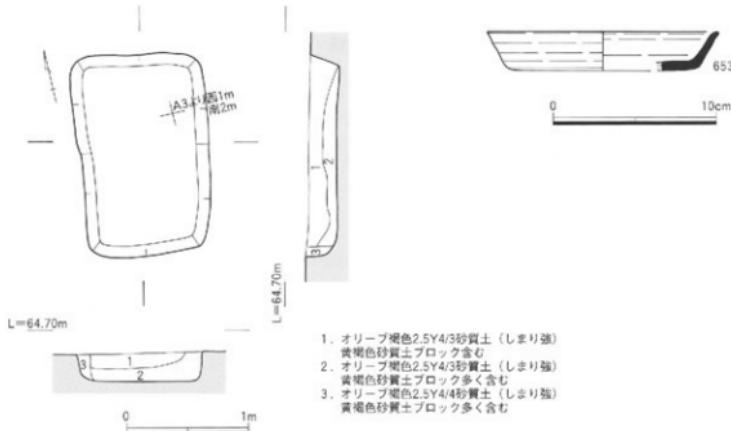
土壤墓180号（Ⅲ地区 ST2180）（第386図）

Ⅲ-3区中央部南側、P・Q2グリッドに位置する、長軸300cm短軸146cm深度36cmを測る隅丸長方形の土壤墓。主軸はN10°Eを向く。断面は方形で、埋土は3層に分層。

遺物は弥生土器壺・壺、土師器片（赤彩ほか）・煮炊具、須恵器片、鉄滓が出土。657は弥生土器壺の口縁部。内外面にハケ調整を施す。概ね弥生時代後期。658は弥生土器壺の底部。体部外面にタテハケ、内面にユビオサエのちユビナデを施す。胎土に結晶片岩と韁雲母を含む。弥生時代後期末頃。



第381図 III地区ST2160遺構・遺物実測図



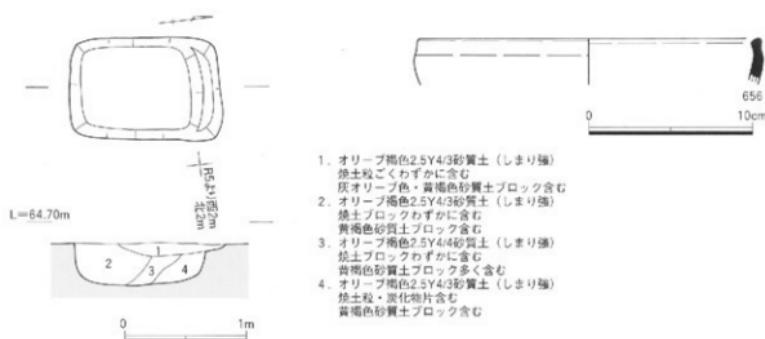
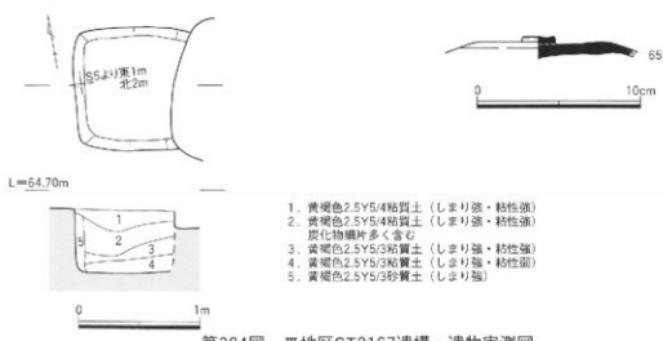
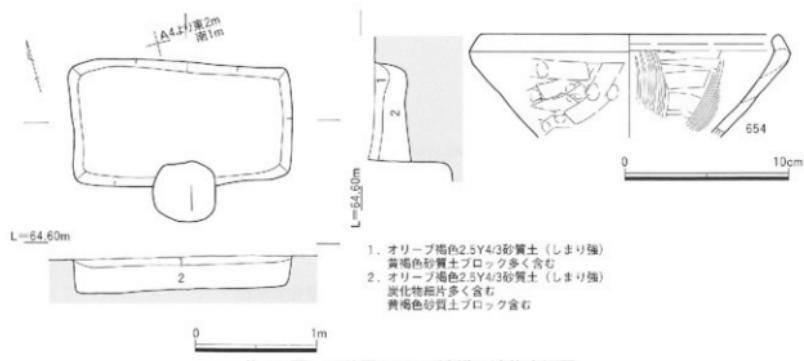
第382図 III地区ST2162遺構・遺物実測図

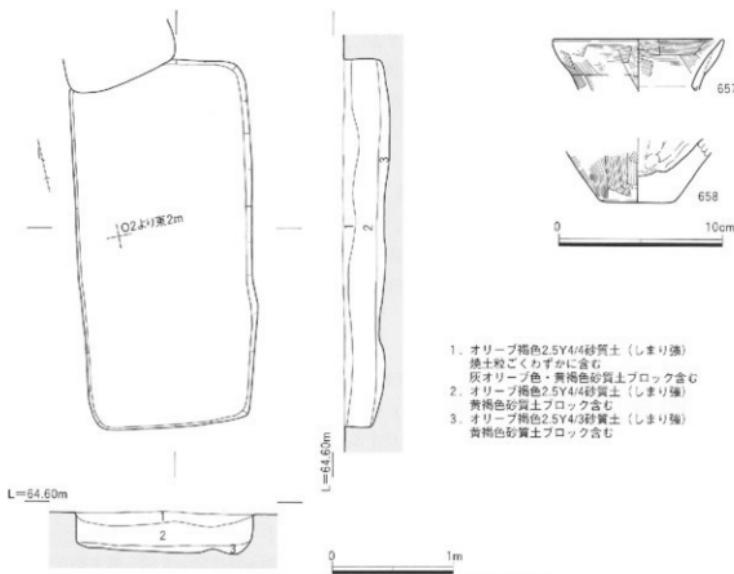
土壤墓185号（III地区 ST2185）（第387図）

III-3区東部南端、O3グリッドに位置する、長軸222cm短軸96cm深度25cmを測る隅丸長方形の土壤墓。主軸はN13°Eを向く。断面は逆台形状で、底面は南東側がやや上がる。埋土は1層。遺物は土師器片、須恵器片、蓋、土師質土器片が出土。659は須恵器蓋。天井部中央を欠く。胎土に砂岩を含む。概ね8~9世紀頃。

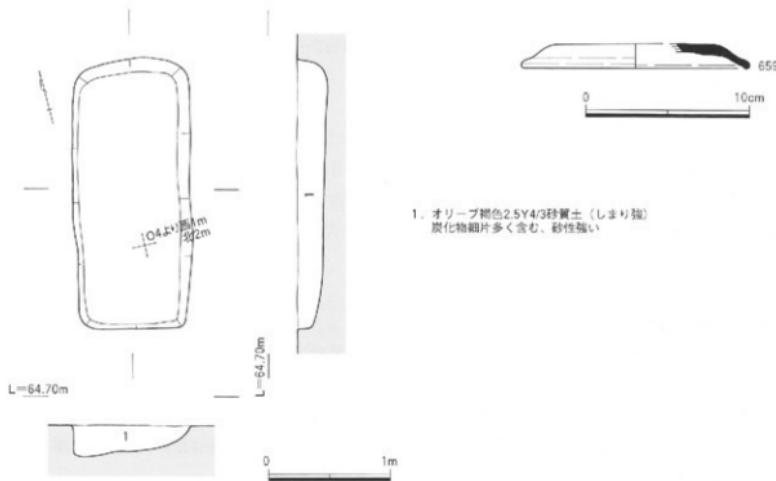
土壤墓189号（III地区 ST2189）（第388図）

III-3区東部南端、N4グリッドに位置し、南は調査区外に延びる。長軸196cm短軸残存長54cm深度14cmを測る隅丸長方形の土壤墓。主軸はN70°Wを向く。断面は逆台形状で、埋土は1層。出土遺物は1点のみで、660は須恵器杯。体部上位で屈曲し、口縁は直立する。7世紀代の蓋の可能性もある。





第386図 III地区ST2180遺構・遺物実測図



第387図 III地区ST2185遺構・遺物実測図

土壙墓192号（Ⅲ地区 ST2192）（第389図）

Ⅲ-3区東部南側、N・O5・6グリッドに位置する、長軸200cm短軸105cm深度30cmを測る隅丸長方形の土壙墓。主軸はN7°Eを向く。断面は逆台形状で、埋土は3層に分層。遺物は土師器片、須恵器杯が出上。661は須恵器杯で底部を欠く。8世紀代か。

土壙墓200号（Ⅲ地区 ST2200）（第390図）

Ⅲ-3区東部中央、Q6・7グリッドに位置する、長軸167cm短軸86cm深度49cmを測る隅丸長方形の土壙墓。主軸はN10°Eを向く。断面は逆台形状で、埋土は4層に分層。遺物は弥生土器壺、土師器片（赤彩ほか）・煮炊具、須恵器杯、土師質土器煮炊具（格子タタキほか）が出上。662は須恵器杯の上半部。焼成不良で、外面にわずかに炭素が付着。胎土に砂岩とみられる粒子を含む。8世紀代か。

土壙墓205号（Ⅲ地区 ST2205）（第391図）

Ⅲ-3区東端部中央、P9グリッドに位置し、東側は調査区外に延びる。長軸138cm短軸残存長60cm深度16cmを測る隅丸長方形の土壙墓。主軸はN17°Eを向く。断面は逆台形状で、埋土は1層。出土遺物は1点のみで、663は土師器壺。寸胴の体部と外反する口縁をもつ。体部外面に縱位の板ナデ、内面に横位の板ナデを施す。胎土は粗く、泥岩を含む。内面に炭素付着。

土壙墓208号（Ⅲ地区 ST2208）（第392図）

Ⅲ-3区東部南寄り、P7グリッドに位置する、長軸195cm短軸128cm深度52cmを測る隅丸長方形の土壙墓。主軸はN13°Eを向く。断面は逆台形状で、埋土は3層に分層。

遺物は土師器片、須恵器片・杯・鉢か盤、土師質土器片が出上。664は須恵器杯。断面逆台形状の低い高台をもつ。焼成不良で、酸化炎焼成気味。8世紀前葉～中葉頃。665は須恵器鉢か盤。壺の可能性もあり。口縁端部をわずかに拡張。造形の年代は、出土遺物から概ね8世紀代と考えられる。

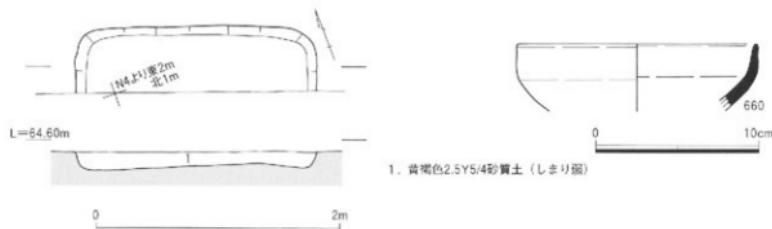
土壙墓209号（Ⅲ地区 ST2209）（第393図）

Ⅲ-3区東部南側、O6グリッドに位置する、長軸180cm短軸120cm深度50cmを測る隅丸長方形の土壙墓。主軸はN75°Wを向く。断面は方形で、埋土は2層に分層。遺物は土師器片・皿・煮炊具が出上。666は土師器皿。口縁内面を強いヨコナデにより四線状に作る。体部内面に斜位の放射状暗文、底部内面に螺旋状の暗文を施す。胎土に花崗岩とみられる粒子を含む。平城期前後、8世紀中葉頃とみられる。

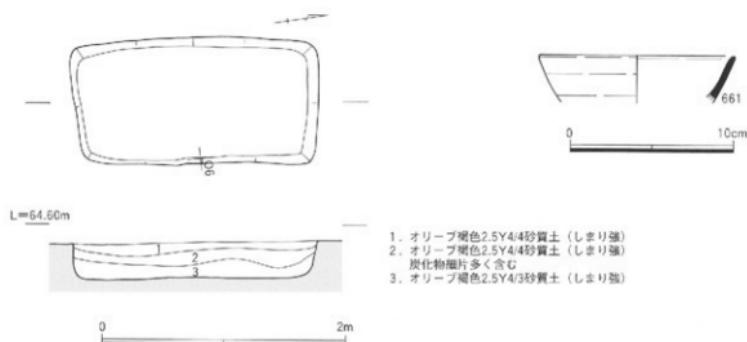
土壙墓216号（Ⅲ地区 ST2216）（第394図）

Ⅲ-3区東端部南寄り、O7・8グリッドに位置する、長軸182cm短軸137cm深度51cmを測る不整な隅丸長方形の土壙墓。主軸はN82°Wを向く。断面は逆台形状で、埋土は3層に分層。

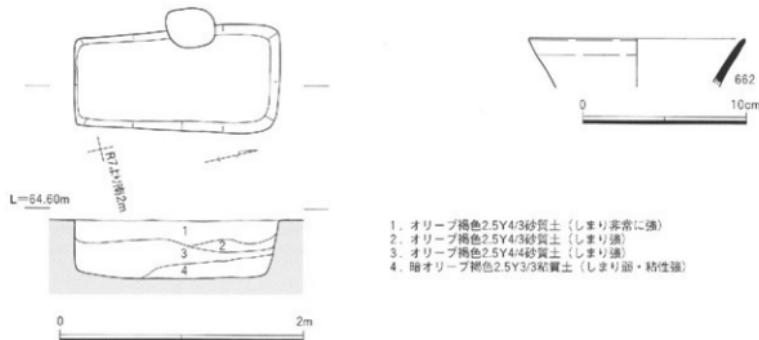
遺物は土師器片、須恵器片・杯・壺、鉄釘が出上。667は須恵器杯の上半部。668は土師器壺。口縁は外反し、端部を方形に作る。頸部外面にタテハケを施す。胎土は粗い。669は鉄釘。頭部・先端部を欠く。造形の年代は、出土遺物から概ね8～9世紀代とみられる。



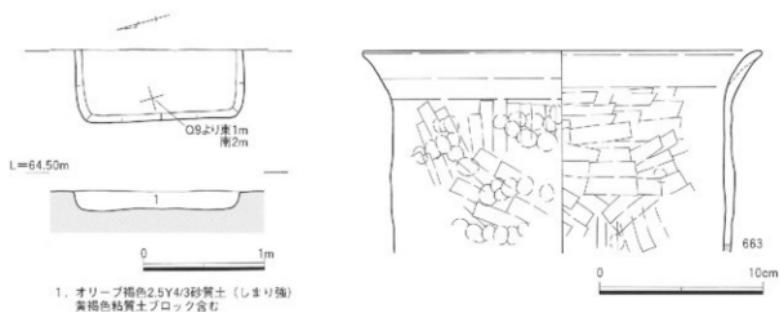
第388図 III地区ST2189遺構・遺物実測図



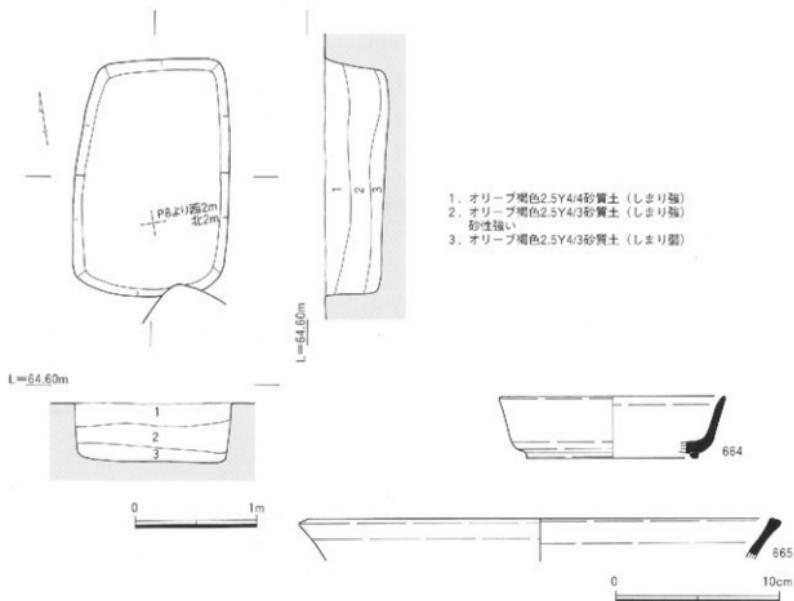
第389図 III地区ST2192遺構・遺物実測図



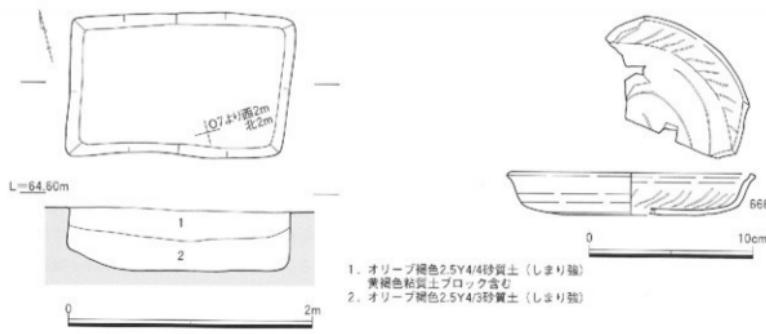
第390図 III地区ST2200遺構・遺物実測図



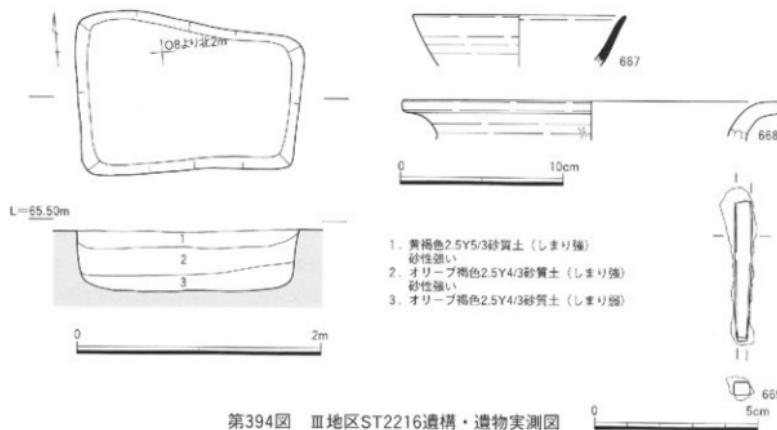
第391図 Ⅲ地区ST2205遺構・遺物実測図



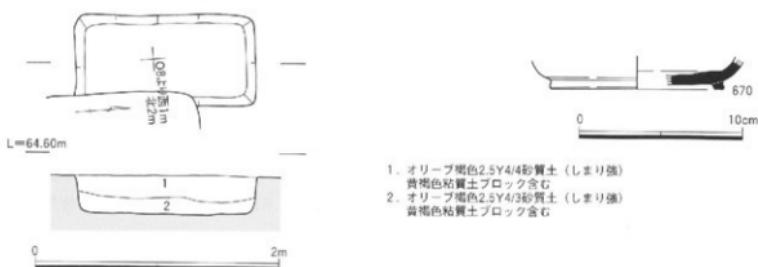
第392図 Ⅲ地区ST2208遺構・遺物実測図



第393図 III地区ST2209遺構・遺物実測図



第394図 III地区ST2216遺構・遺物実測図



第395図 III地区ST2217遺構・遺物実測図

土壤墓217号（Ⅲ地区 ST2217）（第395図）

Ⅲ-3区東部南側、O7グリッドに位置する、長軸148cm短軸77cm深度32cmを測る隅丸長方形の土壙墓。主軸はN2°Eを向く。断面は逆台形状で、埋土は2層に分層。遺物は土師器片・煮炊具・須恵器片・杯が出土。670は須恵器杯の下半部。8世紀代と考えられる。

溝1号（Ⅲ地区 SD2001）（第396図）

Ⅲ-3区、B-E12-2グリッドに位置し、西は調査区外へ延び東は中途で途切れる。検出長56.8m幅165cm深度18cmを測る。主軸はN73°Wを向く。Ⅱ-7区からⅢ-3区まで延びる東西方向の条溝と考えられる。断面は浅いレンズ状で、底面は東に向けて下がる。埋土は3層に分層。遺物は土師器片・煮炊具・須恵器片・杯が出土。

溝8号（Ⅲ地区 SD2008）（第397図）

Ⅲ-3区中央部北端、B-E20-1グリッドに位置し、北は調査区外に延びる。検出長9.6m幅90cm深度22cmを測るL字形に屈曲する溝。南北主軸はN18°E、東西主軸はN69°Wを向く。断面はレンズ状で、底面は北に向けて下がる。埋土は2層に分層。遺物は土師器・煮炊具が出土。

溝9号（Ⅲ地区 SD2009）（第398図）

Ⅲ-3区西部南端、Q-R13-17グリッドに位置する、全長17.5m幅120cm深度10cmを測る。主軸はN73°Wを向く。断面はレンズ状で、埋土は1層。遺物は鉄滓が出土。

溝11号（Ⅲ地区 SD2011）（第399図）

Ⅲ-3区中央部、P-B18-20グリッドに位置し、南は調査区外に延び北は中途で途切れる。検出長30.6m幅74cm深度11cmを測る。上軸はN21°Eを向く。断面はレンズ状で、底面は南に向けてわずかに下がる。埋土は1層。

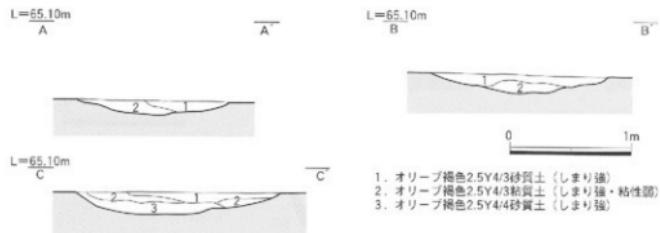
遺物は土師器片・上師質上器片・釜（内耳）、備前陶器片・近世染付片が出土。671は土師質土器釜。鉢部は確認できない。口縁・体部の境に焼成前穿孔を施し、把手部を貼り付ける。口縁内外面はヨコナデ、体部内外面に板ナデを施す。胎土に金雲母を施す。16世紀代と考えられる。

溝15号（Ⅲ地区 SD2015）（第400図）

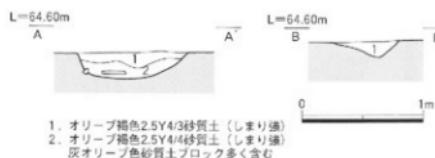
Ⅲ-3区中央部、O-B20-1グリッドに位置し、南は調査区外に延び、北はSD2001に切られて以北に延びない。検出長35.6m幅110cm深度10cmを測る。主軸はN13°Eを向く。断面はレンズ状で、底面は南に向けて下がる。埋土は1層。

遺物は土師器杯・煮炊具・須恵器杯・壺、砥石が出土。672は土師器杯。口縁内面を強いヨコナデにより凹線状に作る。内外面に横位の緻密なヘラミガキのち赤彩を施す。673・674は須恵器杯で、底部を欠く。焼成やや不良。674は体部外面下端に回転ヘラケズリを施す。675は砂岩製砥石。4面を使用。

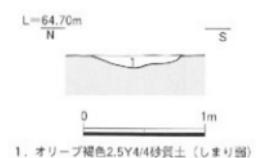
遺構の年代は、出土遺物から8世紀前後と考えられる。



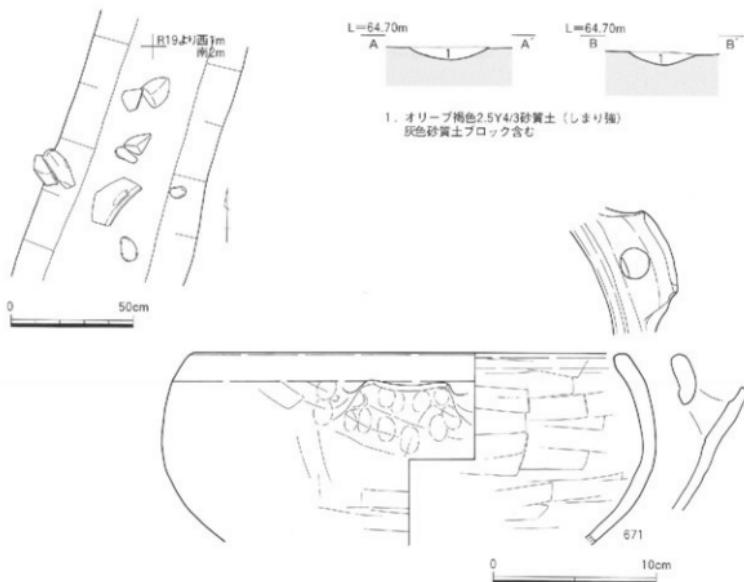
第396図 Ⅲ地区(Ⅲ-3区)SD2001遺構断面図



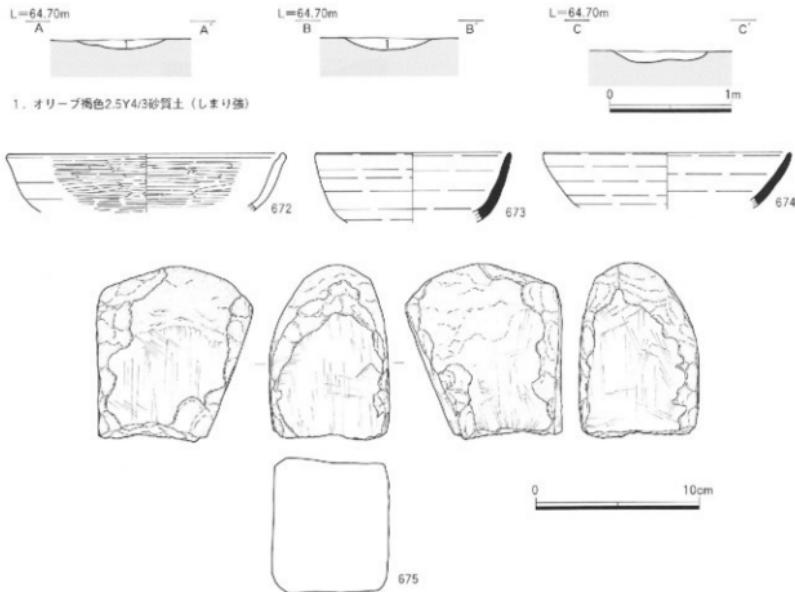
第397図 Ⅲ地区SD2008遺構断面図



第398図 Ⅲ地区SD2009遺構断面図



第399図 Ⅲ地区SD2011遺物出土・遺物実測図



第400図 Ⅲ地区SD2015遺構・遺物実測図

小穴68号（Ⅲ地区 SP2068）（第401図）

Ⅲ-3区西部南端、Q13グリッドに位置する、径45cm深度30cmを測る円形の小穴。断面はU字状で、埋土は4層に分層。柱痕とみられる第1・2層には焼土を含む。遺物は土師器煮炊具・壺が出上。676は土師器壺の口縁部。端部を凹線状に作る。頸部外面に指頭圧痕が目立つ。胎土は粗く結晶片岩を含む。

小穴82号（Ⅲ地区 SP2082）（第402図）

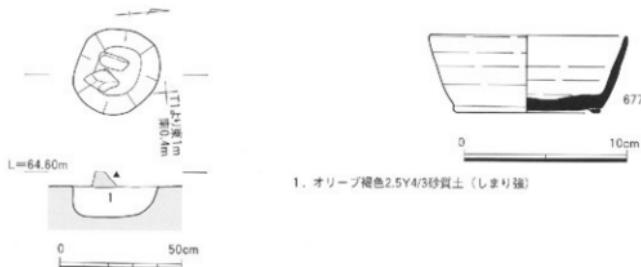
Ⅲ-3区中央部北寄り、S1グリッドに位置する、径37cm深度12cmを測る不整円形の小穴。断面は逆台形状で、埋土は1層。出土遺物は1点のみで、677は須恵器杯。断面逆台形状の低い高台をもつ。胎土は粗く、焼成やや不良。8世紀中葉頃に位置付けられる。

小穴84号（Ⅲ地区 SP2084）（第403図）

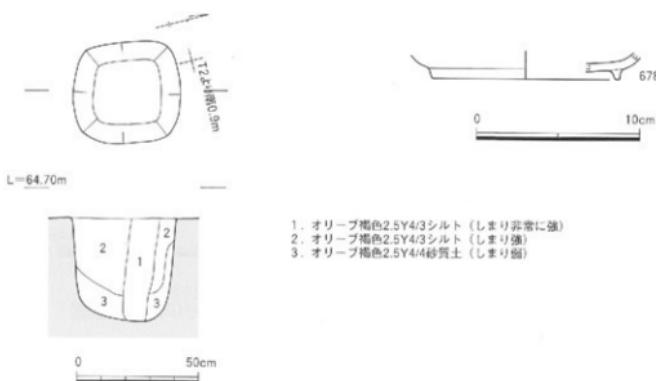
Ⅲ-3区中央部、S1・2グリッドに位置する、一辺45cm深度43cmを測る隅丸方形の小穴。断面はU字状で、埋土は3層に分層。柱痕とみられる土層を確認。出土遺物は1点のみで、678は土師器杯の下半部。断面逆台形状の高台をもつ。内外面に赤彩を施す。概ね8世紀代と考えられる。



第401図 III地区SP2068遺構・遺物実測図



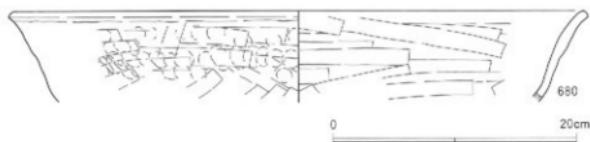
第402図 III地区SP2082遺構・遺物実測図



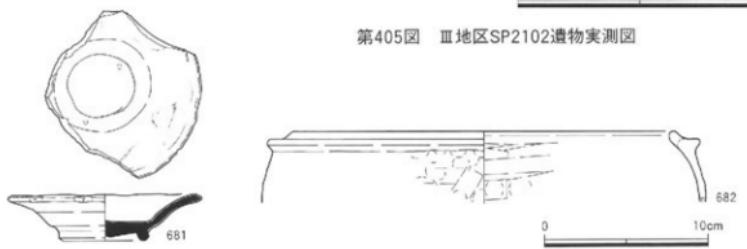
第403図 III地区SP2084遺構・遺物実測図



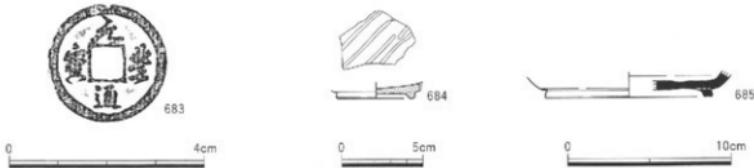
第404図 Ⅲ地区SP2089遺構・遺物実測図



第405図 Ⅲ地区SP2102遺物実測図



第406図 Ⅲ地区SP2117遺物実測図



第407図 Ⅲ地区
SP2125遺物実測図

第408図 Ⅲ地区
SP2141遺物実測図

第409図 Ⅲ地区
SP2146遺物実測図

小穴89号（Ⅲ地区 SP2089）（第404図）

Ⅲ-3区中央部南側、P1グリッドに位置する、径55cm深度8cmを測る不整円形の小穴。断面は皿状で、埋土は1層。出土遺物は1点のみで、679は須恵器杯。底部外周回転ヘラ切りのち板目痕または擦痕を残す。8世紀前葉～中葉頃か。

小穴102号（Ⅲ地区 SP2102）（第405図）

Ⅲ-3区東部中央、R・S4グリッドに位置する、径50cm深度61cmを測る隅丸長方形の小穴。遺物は土師器片・煮炊具、七師質土器鍋が出土。680は土師質土器鍋。口径に比して器高が低く、焰烙に近い器形。体部外面に横位の連続した指頭圧痕を残し、のち板ナデを施す。内面は横位の板ナデを施す。外面に煤の付着が顕著。16世紀頃とみられる。

小穴117号（Ⅲ地区 SP2117）（第406図）

Ⅲ-3区東部北側、T6グリッドに位置する、径90cm深度41cmを測る隅丸長方形の小穴。遺物は土師器片、土師質土器片・羽釜、青磁稜花皿が出土。681は青磁稜花皿。内面にヘラ書き文を施す。全面に施釉のち底部外面の釉を輪状に搔き取る。釉に粗い貫入を作り。15世紀頃とみられる。682は土師質土器羽釜。鋸部は短く、折り曲げ技法で作る。両端部とも丸く作る。内外面とも板ナデによって仕上げる。15世紀代と考えられる。

小穴125号（Ⅲ地区 SP2125）（第407図）

Ⅲ-3区東部北側、S6グリッドに位置する、径46cm深度40cmを測る円形の小穴。出土遺物は1点のみ。683は銅鏡で元豈通寶の真書体。北宋鏡で、1078年初鉄。

小穴141号（Ⅲ地区 SP2141）（第408図）

Ⅲ-3区東部南端、O4グリッドに位置する、径85cm深度30cmを測る隅丸方形の小穴。遺物は土師器片・煮炊具、瓦器碗が出土。684は瓦器碗の底部。断面逆台形状の低い高台をもつ。底部内面に平行ヘラミガキ暗文を施す。和泉型瓦器碗Ⅲ-3期、13世紀前葉の年代が与えられる。

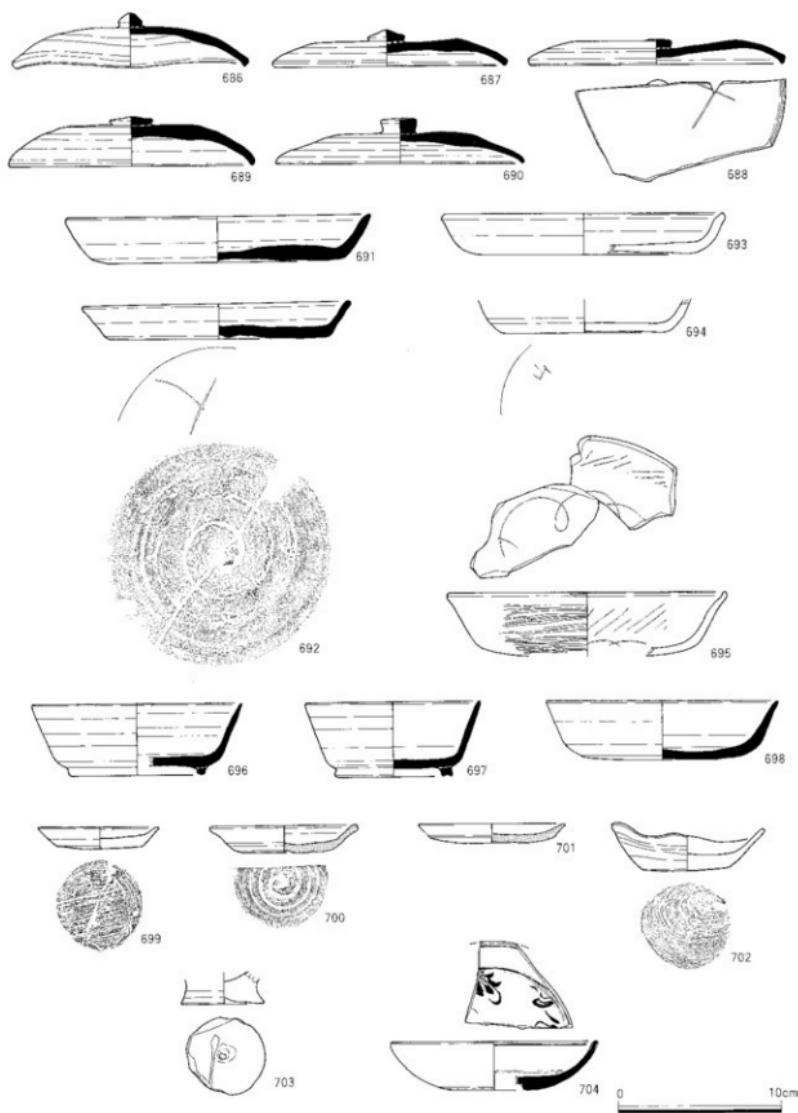
小穴146号（Ⅲ地区 SP2146）（第409図）

Ⅲ-3区東部北側、S5グリッドに位置する、径115cm深度28cmを測る梢円形の小穴。遺物は土師器片・須恵器片・杯、土師質土器片が出土。685は高台付須恵器杯の底部。胎土に砂岩を含む。軟質焼成気味。8世紀前葉～中葉頃とみられる。

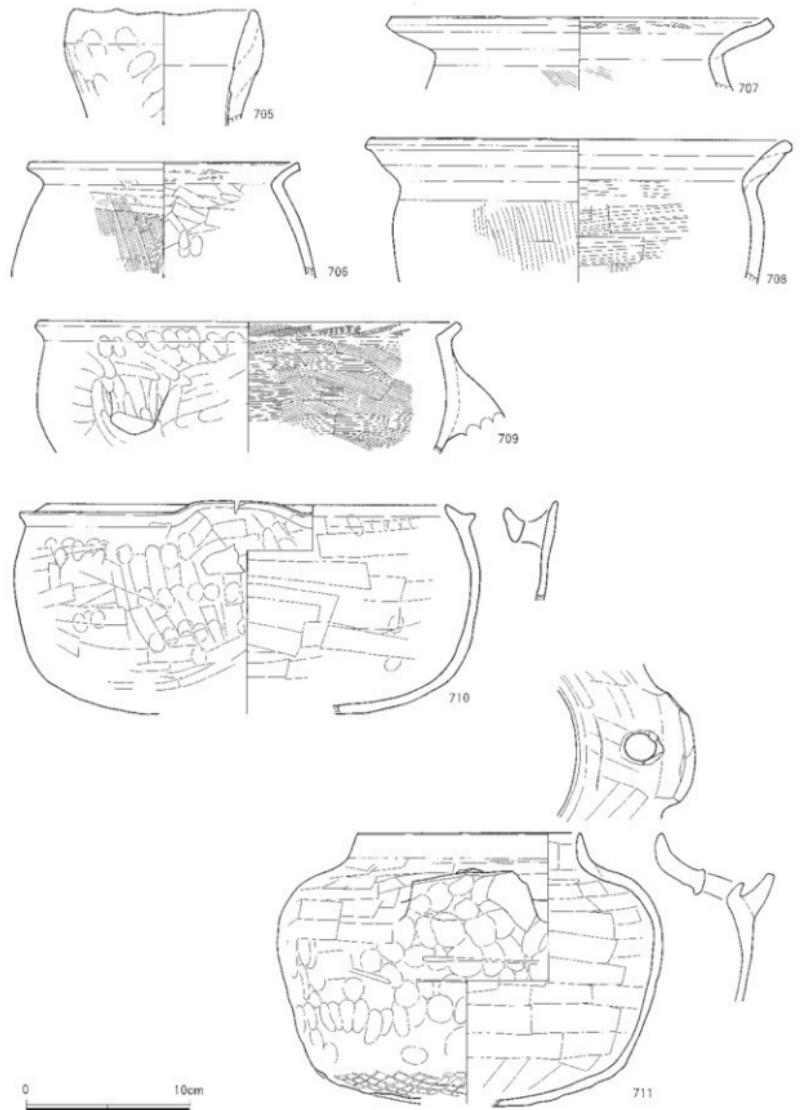
〈Ⅲ地区 第2包含層出土遺物〉（第410～414図）

686～690は須恵器蓋。686は天井部外面中央に宝珠摘みをもち、平城1期、8世紀初頭に位置付けられる。その他は擬宝珠摘みを貼り付け、概ね8世紀前葉～中葉の年代とみられる。688は天井部内面に「×」字のヘラ記号をもつ。

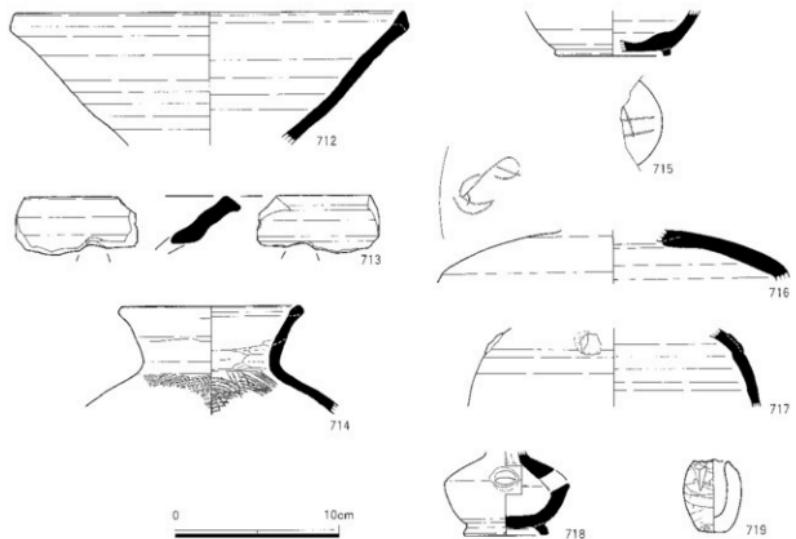
691・692は須恵器皿。底部外面に回転ヘラ切り痕を残し、692は焼成前に「人」字のヘラ記号を描く。



第410図 III地区第2包含層遺物実測図(1)



第411図 III地区第2包含層遺物実測図(2)



第412図 Ⅲ地区第2包含層遺物実測図(3)

693・694は土師器皿。とともに底部外面に回転ヘラ切り痕を残し、内外面に赤彩を施す。694は底部外面に「山」字の刻書をもち、胎土に結晶片岩と絹雲母を含む。693は8世紀後半、694は8世紀代とみられる。695は土師器杯。口縁端部を内側に短く折り曲げる。体部外面に密な横位のヘラミガキ、体部内面に斜位の放射状暗文、底部内面に連続輪状暗文を施す。8世紀前葉～中葉頃とみられる。

696～698は須恵器杯。696・697は高台をもつ。698は無高台で、胎土は粗く結晶片岩・砂岩・絹雲母を含む。8世紀代とみられる。

699は土師質土器皿。回転台成形で、底部外面に回転糸切り痕のち板目痕を残す。胎土に砂岩を含む。焼成堅緘で、部分的に還元炎焼成される。

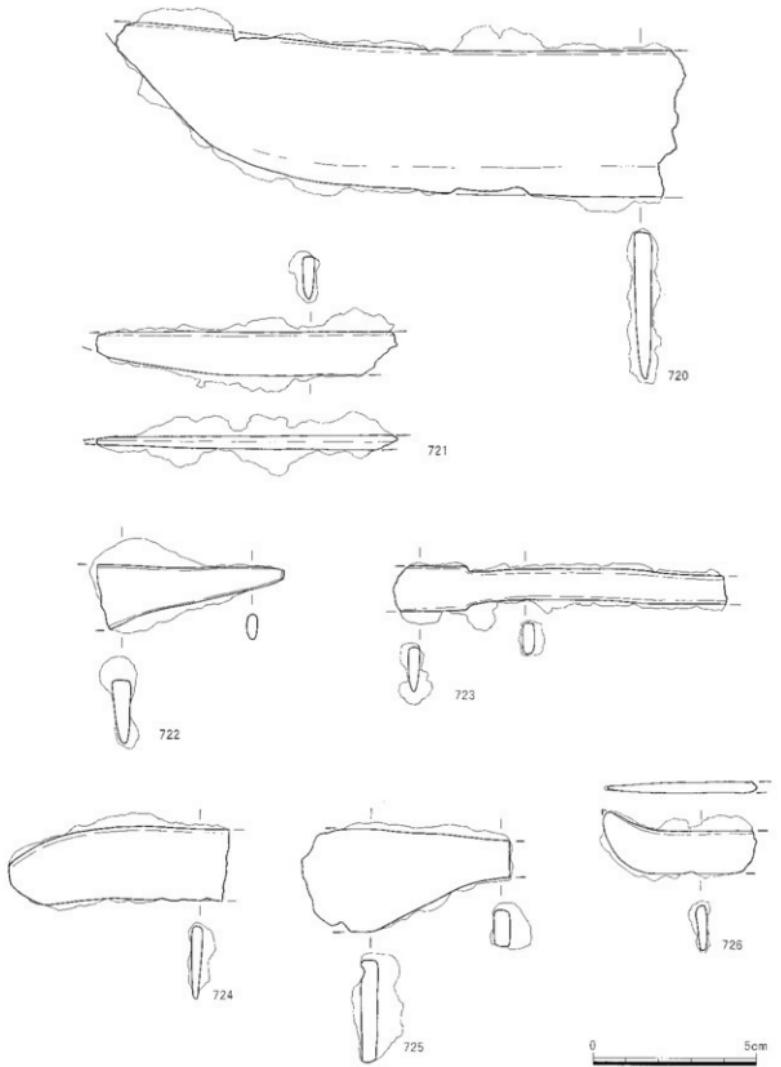
700は瓦質土器皿。回転台成形で、底部外面に回転ヘラ切り痕を残す。胎土は灰白色を呈し、結晶片岩を含む。底部外面向て炭素の吸着がみられる。当初から瓦質焼成を意図したものかは不明である。

701は瓦器皿。低平でヘラミガキ暗文を伴わない。炭素吸着は良好。和泉型瓦器またはその模倣品の可能性がある。和泉型瓦器IV期併行か。

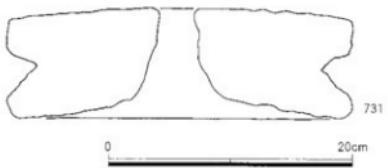
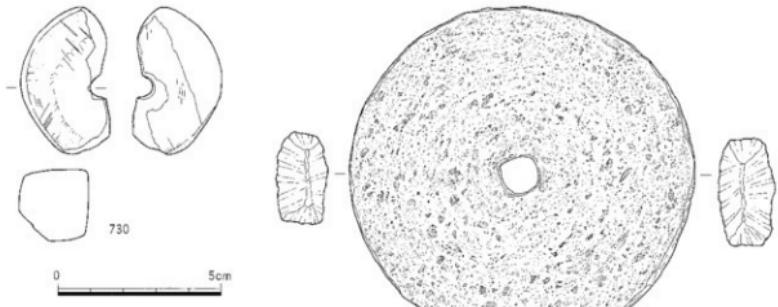
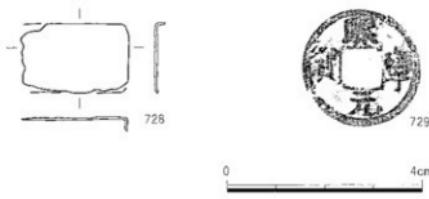
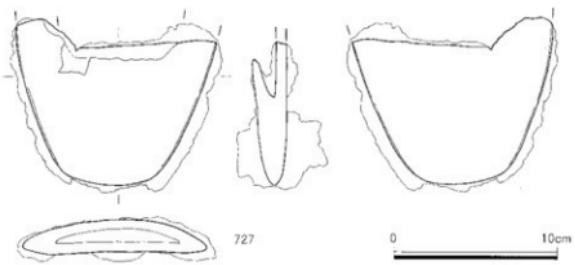
702は土師質土器皿。回転台成形で底部外面に回転糸切り痕を残す。器形は大きく歪み、口縁の一部が黒変・磨耗する。

703は土師質土器皿の柱状高台付皿。回転台成形で、底部外面に回転糸切り痕を残す。中央部に焼成後穿孔を施し、朱質通である。胎土は精良で、軟質焼成である。

704は葵筋底の染付皿。底部内面に草花文を描く。釉調は明るく貫入を伴わない。疊付部は露胎。小



第413図 III地区第2包含層遺物実測図(4)



第414図 III地区第2包含層遺物実測図(5)

野分類の染付皿 C 群IV類に相当し、15C 後葉～16世紀前半の年代が与えられる。

705は製塩土器。外面はユビオサエ・ナデ、内面はナデを施し、布目圧痕は確認できない。内面下位は剥離。胎土は粗い。

706・707は土師器壺。ともに口縁端部を方形に作る。外面向にタテハケ、口縁内面にヨコハケ、体部内面に板ナデまたはハケを施す。

708は土師器鍋。体部外面に目の粗いタテハケ、内面にヨコハケを施す。

709は土師質土器壺。口縁は頗く外反し、端部を方形に作る。体部外面中位に脚が取り付く。頸部外面に横位に連続する指頭圧痕を残し、体部外面はナデ、内面はヨコハケを施す。胎土は粗く、結晶片岩・砂岩・綿雲母を含む。外面の煤付着は顕著で、脚の欠損面にも煤の付着がみられる。

710は土師質土器羽釜。鋤部成形技法は不明。鋤・口縁間に一对の焼成前穿孔を施し、鋤部を拡張することによって把手部を作る。内外面に板ナデを施し、タタキの痕跡は確認できない。15世紀頃。

711は土師質土器釜。肩部に一对の焼成前穿孔とその外側に把手部を貼り付け。体部外面に指頭圧痕のち上半にのみ横位の板ナデを施す。体部外面中位にヘラ状工具による横方向の擦痕を残す。底部外面は目の粗い格子タタキで成形。体部内面に横位の板ナデ、底部内面はケズリを施す。胎土は粗い。15～16世紀頃とみられる。

712は東播系の須恵質土器握鉢。口縁をわずかに肥厚させ、重焼による自然釉が付着。内面下位は使用により磨耗。森田編年第Ⅱ期第2段階とみられ、12世紀末～13世紀初頭の年代が与えられる。

713は須恵器壺の口縁部。焼成後穿孔の痕跡がある。714・715は須恵器壺。714は上半部で、体部外面に平行タタキ、頸部内面に横位のヘラケズリを施し、体部内面に同心円状当具痕を残す。胎土に結晶片岩を含む。715は底部で、底部外面に「キ」字のヘラ記号を有する。

716は須恵器貯蔵具片で、半瓶の肩部か。残存部から対照に復元したため、図の形状は不正確とみられる。外面に焼成前の線刻を施すが、意匠は不明。

717は白磁四耳壺の肩部。粗い貫入を作り。

718は高台付の須恵器壺。肩部に焼成前穿孔を施し、外面向の孔周囲にはみ出た粘土をヘラによって丁寧に削り取る。頸部内面に絞り痕を残す。8世紀後半前後と考えられる。

719は土師器ミニチュア上器。ほぼ完形品で、器高4.5cm最大径3.5cmを測る。体部外面に丁寧な板ナデを施し、滑らかに仕上げる。胎土に結晶片岩・綿雲母を含む。

720～727は鉄製品。720は刀身端部。721～723は刀子。724は鎌とみられる。725は板状で器種不明。726は刀子ではないかと考えたが、端部が上に反り上がり、刃も銛くない。727は鋤先。

728は青銅製小柄の一部。729は銅鏡で、熙寧元寶の真書体。北宋鏡で、1068年初鑄。肉薄である。

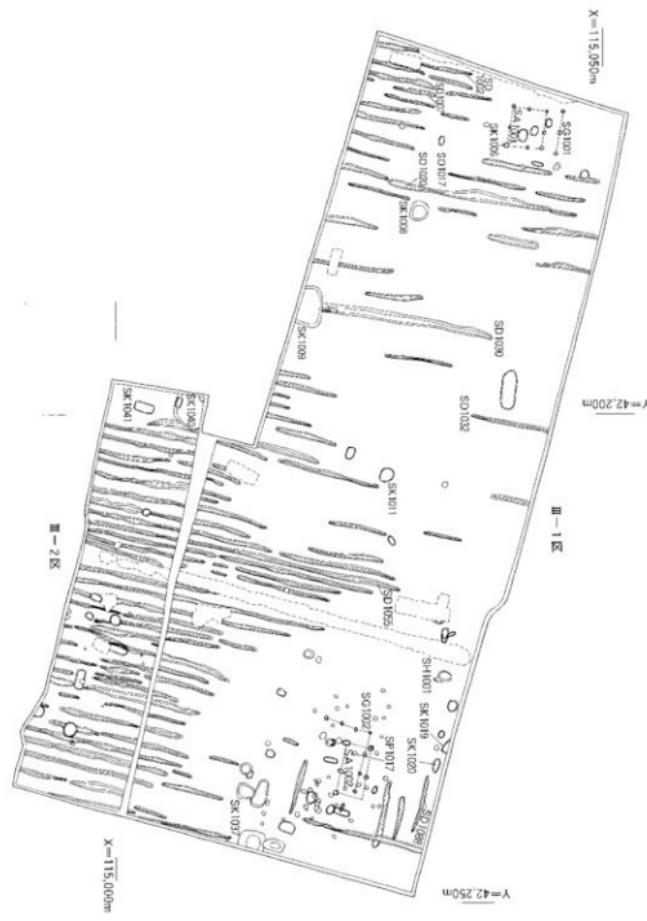
730は凝灰岩製紡錘車。中央に穿孔を施す。

731は石臼（下臼）。香川県天霧産の角螺旋凝灰岩製。中央部に芯棒孔が貫通し、側面の相対する位置に横打ち込み孔を2ヵ所設ける。上面は緩やかな凸面状で、磨耗着しい。側面と下面に鱗痕を残す。

〈Ⅲ地区 第1遺構面〉

Ⅲ-1・2区（第415図）

Ⅲ-1・2区はⅢ地区西半の調査区である。第1遺構面では南側を中心に南北方向に走る溝群を検出



第415図 III-1・2区第1道構面遮構配図

している。土坑やピットの多くは溝群を切って構築している。SA 2 棟、SG 2 苓、SK49基、SH 1 基、SD 115条、SP65基を検出。溝群を除くと遺構の密度は低く、土地利用は概ね低調であるといえる。

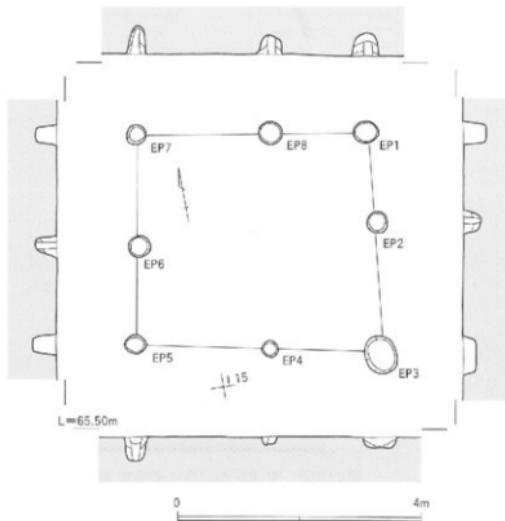
掘立柱建物 1 号 (Ⅲ地区 SA1001) (第416図)

Ⅲ-1 区西端部北寄り、II4・15グリッドに位置する。東西 2 間 (4.0m) 南北 2 間 (3.4m) 床面積 13.6m²、8 基の柱穴をもつ側柱建物で、建物主軸 N63°W を向く。柱穴の平面形は円形または椭円形で、径 26~62cm 深度 13~46cm を測る。断面は逆台形状または U 字状で、EP 3 を除く柱穴で柱痕とみられる土層を確認。遺物は EP 1 ~ 3・7・8 から、土師器片か・杯・煮炊具、土師質土器片・煮炊具・羽釜、瓦器碗・鉄釘、鉄滓が出土。

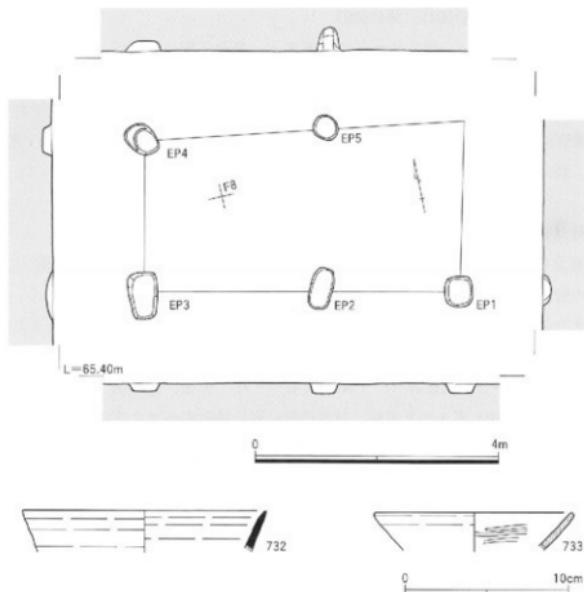
掘立柱建物 2 号 (Ⅲ地区 SA1002) (第417図)

Ⅲ-1 区東部北側、E・F7・8 グリッドに位置する。東西 2 間 (5.2m) 南北 1 間 (2.6m) 床面積 13.5m²、5 基の柱穴をもつ側柱建物で、建物主軸 N77°W を向く。北東隅の柱穴を欠く。柱穴の平面形は隅丸長方形または不整円形で、一辺 43~76cm 深度 11~38cm を測る。断面は逆台形状または U 字状で、EP 5 で柱痕とみられる土層を確認。

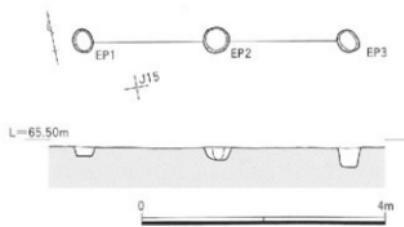
遺物は EP 1・4・5 から、須恵器杯、土師質土器片・杯・羽釜、瓦器碗・鉄滓が出土。732は EP 1 出土の須恵器杯。733は EP 2 出土の瓦器碗。体部内面に粗い横位のヘラミガキを施す。炭素吸着は内面良好、外側やや不良。和泉型瓦器碗 IV-2 期前後、13世紀中葉～後葉の年代が与えられる。



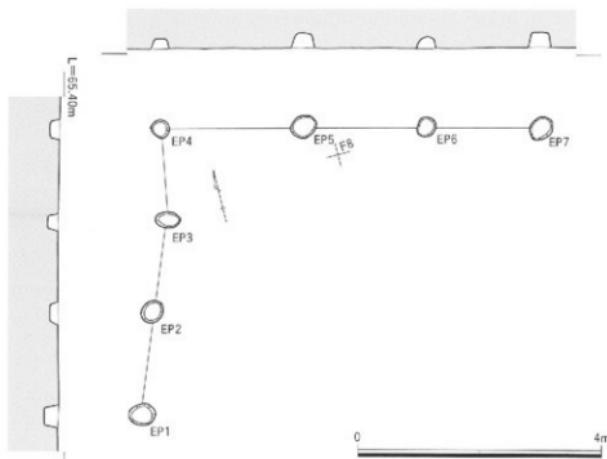
第416図 Ⅲ地区SA1001遺構実測図



第417図 Ⅲ地区SA1002遺構・遺物実測図



第418図 Ⅲ地区SG1001遺構実測図



第419図 III地区SG1002遺構実測図

柵列1号（III地区 SG1001）（第418図）

III-1区西端部北側、I・J14・15グリッドに位置する。東西2間（4.4m）、3基の柱穴が一の字形に列ぶ柵列で、主軸はN81°Wを向く。柱穴の平面形は円形で、径40~43cm深度13~30cmを測る。断面は逆台形状で、EP2で柱痕とみられる土層を確認。

柵列2号（III地区 SG1002）（第419図）

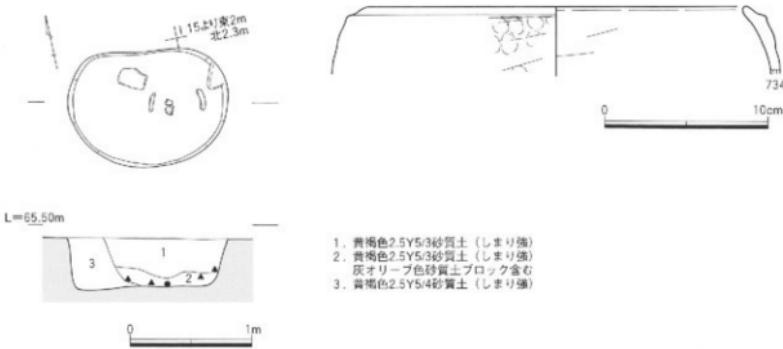
III-1区東部北側、E・F7・8グリッドに位置する。東西3間（6.2m）南北3間（4.7m）7基の柱穴がL字形に列ぶ柵列で、主軸はN76°Wを向く。柱穴の平面形は円形または不整円形で、径30~43cm深度12~24cmを測る。断面は逆台形状またはU字状を呈する。遺物はEP1・5から、土師質土器片・杯・羽釜、鉄滓が出土。

土坑6号（III地区 SK1006）（第420図）

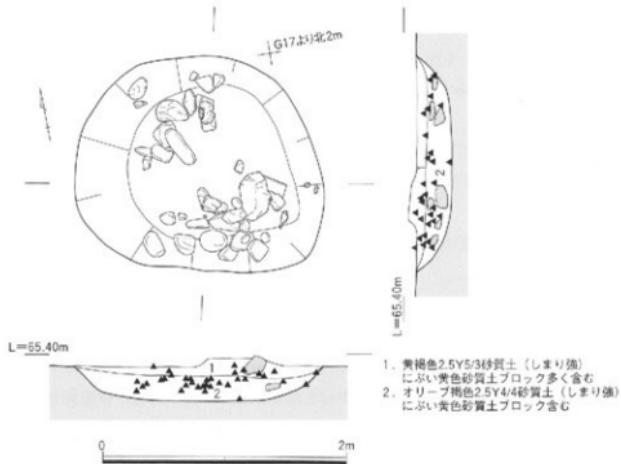
III-1区西部北側、H16グリッドに位置する、長軸131cm短軸94cm深度42cmを測る不整な楕円形の土坑。断面は逆台形状で、埋土は3層に分層。遺物は土師質土器片・鍋・羽釜、須恵質土器片、瓦器柄、備前陶器捕鉢が出土。734は土師質土器羽釜。鍋部は退化し、口縁と体部との間に屈曲部としてわずかに遺る。概ね16世紀代と考えられる。

土坑8号（III地区 SK1008）（第421図）

III-1区西部南側、G16・17グリッドに位置する、長軸208cm短軸178cm深度36cmを測る不整円形の土坑。断面は逆台形状で、埋土は2層に分層できる。遺物は土師質土器片・煮炊具が出土。



第420図 Ⅲ地区SK1006遺構・遺物実測図



第421図 Ⅲ地区SK1008遺構実測図

土坑9号（Ⅲ地区 SK1009）（第422図）

Ⅲ-1区西部南端、D・E18・19グリッドに位置し、南は調査区外に延びる。東西416cm南北検出長236cm深度30cmを測る不整形の土坑。断面は皿状で、埋土は1層。5~50cm大の礫多数が主に埋土上位から出土。遺構南東部には南北160cm東西100cmの楕円形に集中するが、配置に規則性は見いだせない。

遺物は須恵器片・土師質土器片・杯・皿・煮炊具脚部・羽釜・瓦質土器擂鉢・煮炊具脚部・須恵質土器碗・陶器甕（備前焼）が出土。

735は土師質土器皿。底部外側に回転ヘラ切りのち板目痕を残す。736・737は土師質土器杯。736は底部外側回転ヘラ切りか。737は回転糸切り痕を残し、胎土に結晶片岩・絹雲母を含む。738は西村系須恵質土器碗の底部。外側に断面逆台形状の低い高台を貼り付け。内面は板ナデを施す。739は瓦質土器擂鉢。口縁部を大きく肥厚させ、端部はヨコナデによって平坦に仕上げる。体部外側にユビオサエのち板ナデ、内面は回転ナデか。内外面に炭素吸着良好。740は備前焼陶器甕の底部。底部内面は剥離がみられる。須恵質焼成氣味である。遺構の年代は、出土遺物から概ね14世紀頃と考えられる。

土坑11号（Ⅲ地区 SK1011）（第423図）

Ⅲ-1区中央部、F2グリッドに位置する、長軸160cm短軸134cm深度23cmを測る不整円形の土坑。断面は皿状で、埋土は2層に分層。遺物は土師質土器片・煮炊具（脚部はか）・甕、砂岩製砥石が出土。741は砂岩製砥石。全長4.7cmの小型品で4面を使用する。剥離が著しい。

土坑19号（Ⅲ地区 SK1019）（第424図）

Ⅲ-1区東部北端、G7グリッドに位置し、北側は調査区外に延びる。東西147cm南北検出長56cm深度14cmを測る不整形の土坑。断面は浅い皿状で、埋土は1層。検出面から約10cm上で遺物や礫が出土。

遺物は土師質土器片・甕・鉢が出土。742は土師質土器甕の上部。体部外側に斜位の板ナデ、体部内面はユビオサエのち横位の板ナデを施す。焼成良好で、比較的硬質焼成。SD1088出土の758と同一固体の可能性あり。遺構の年代は、出土遺物から概ね14~15世紀頃と考えられる。

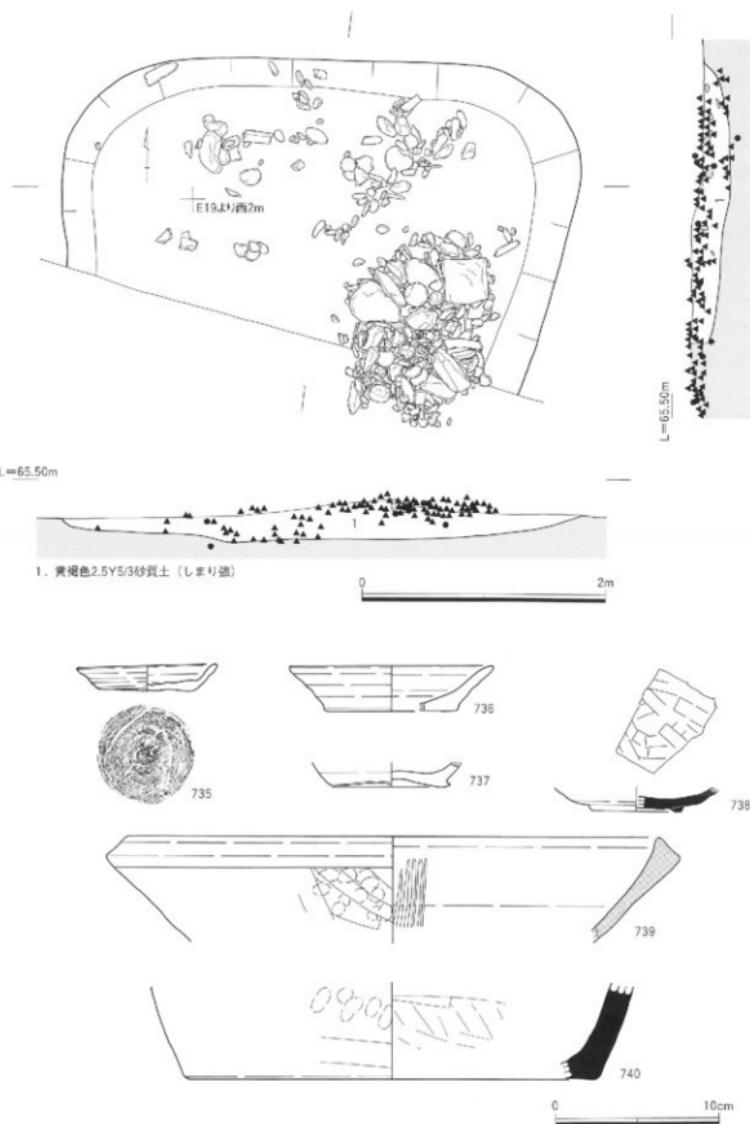
土坑20号（Ⅲ地区 SK1020）（第425図）

Ⅲ-1区東部北端、G8グリッドに位置する、長軸149cm短軸70cm深度18cmを測る不整な楕円形の土坑。上軸はN72°Wを向く。断面は浅い皿状で、埋土は1層。検出面直上で10~40cm大の礫を検出。

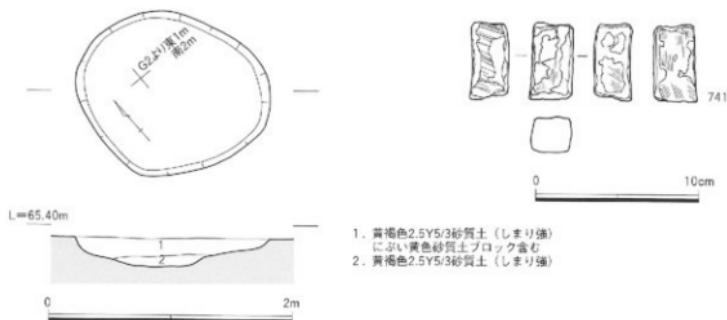
遺物は土師質土器羽釜（内耳付きはか）が出土。743・744は土師質土器羽釜。鈎部は短く、折り曲げ技法で作る。口縁は大きく内傾させ、両者近似した形状。743は内耳付きで口縁・鈎の間に焼成前穿孔、鈎の一部を外上方に拡張して把手部を作る。外面ユビオサエのち板ナデ、内面は横位の板ナデを施す。744は外面に指頭圧痕が顕著で、のち横位の板ナデ。内面はヨコハケを施す。遺構の年代は、出土遺物から概ね15世紀代と考えられる。

土坑37号（Ⅲ地区 SK1037）（第426図）

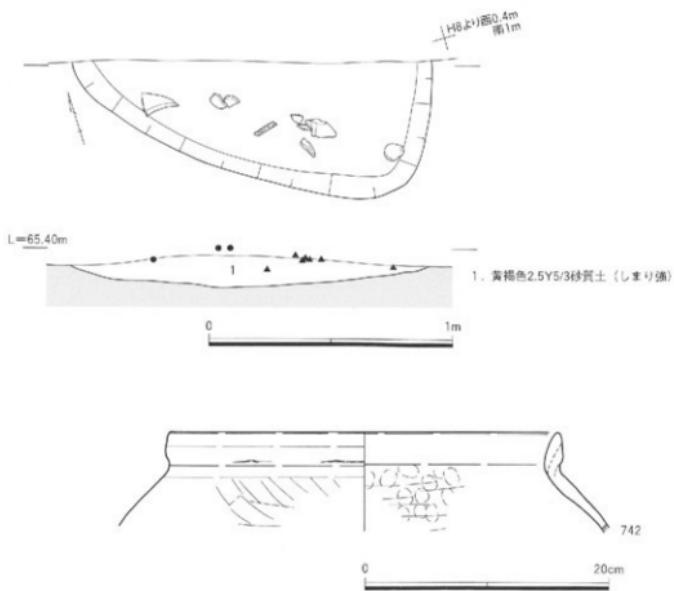
Ⅲ-1区東端部中央、C・D9グリッドに位置し、東は調査区外に延びる。南北272cm東西検出長190cm深度30cmを測る不整な隅丸方形の土坑。断面は皿状で、埋土は3層に分層。遺物は土師質土器片・杯・擂鉢・瓦質土器・鉄製品片が出土。745は土師質土器擂鉢。口縁端部を内側に拡張する。体部外側にユビ



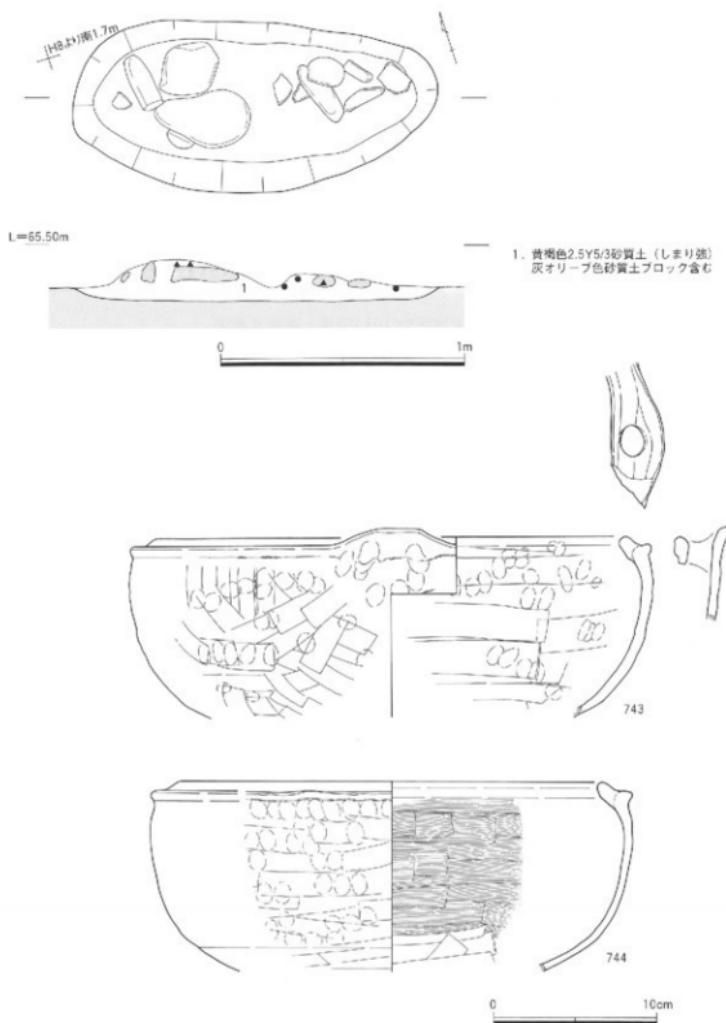
第422図 Ⅲ地区SK1009遺構・遺物実測図



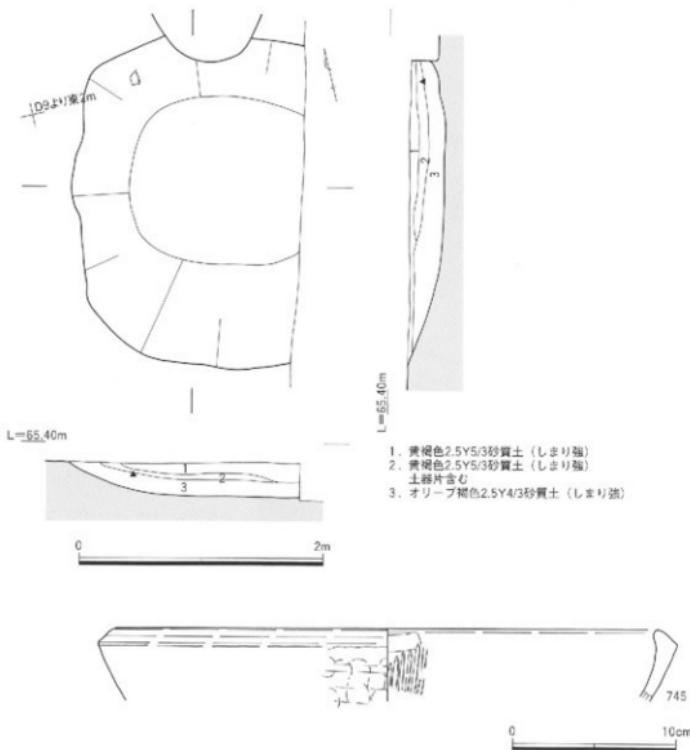
第423図 Ⅲ地区SK1011遺構・遺物実測図



第424図 Ⅲ地区SK1019遺構・遺物実測図



第425図 III地区SK1020構造・遺物実測図



第426図 Ⅲ地区SK1037遺構・遺物実測図

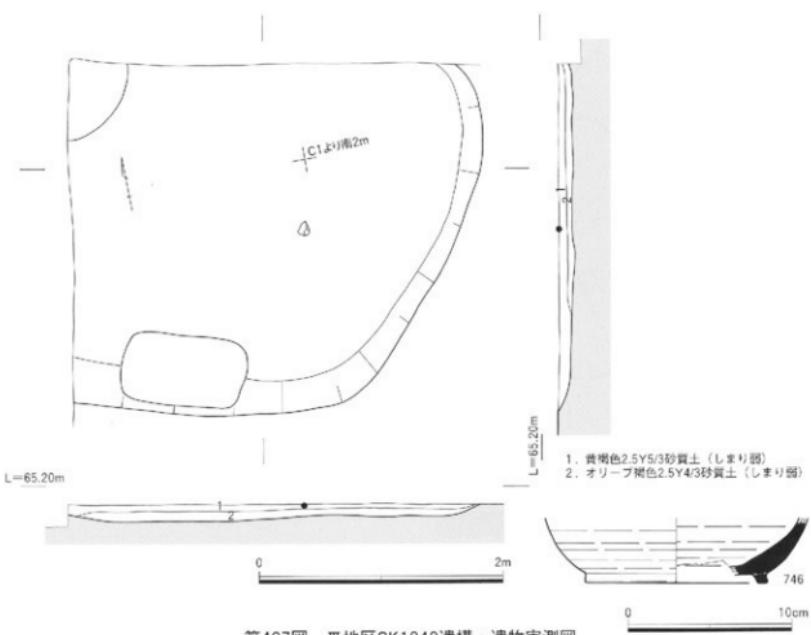
オサエのち横位の板ナデ、内面横位の板ナデのち擗目を施す。

土坑40号（Ⅲ地区 SK1040）（第427図）

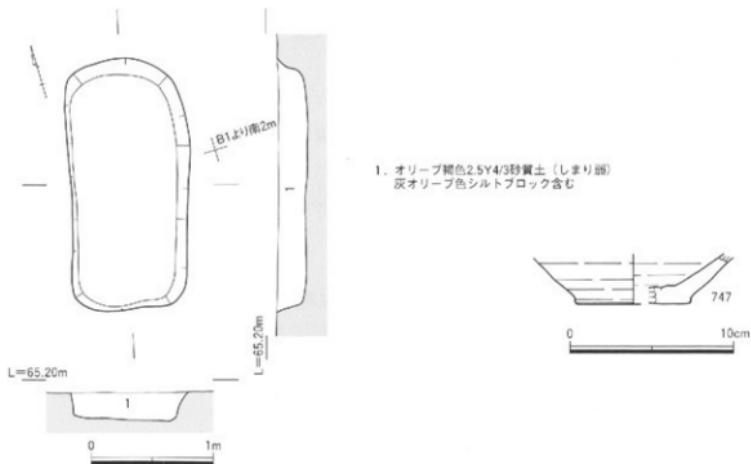
Ⅲ-2区北西端、B20・1グリッドに位置し、北と西は調査区外に延びる。東西検出長340cm南北検出長290cm深度14cmを測る不整形の土坑。断面は浅い皿状で、埋土は2層に分層。遺物は須恵器杯、土師質土器片、瓦器椀が出土。746は高台付の須恵器杯。器壁が厚く、内面は底体部の境が不明瞭。焼成やや不良。8世紀中葉頃か。

土坑41号（Ⅲ地区 SK1041）（第428図）

Ⅲ-2区西部、A20グリッドに位置する、長軸208cm短軸100cm深度24cmを測る不整な隅丸長方形の土



第427図 Ⅲ地区SK1040遺構・遺物実測図



第428図 Ⅲ地区SK1041遺構・遺物実測図

坑。主軸はN14°Eを向く。断面は逆台形状で、埋土は1層。出土遺物は1点のみで、747は土師質土器碗の下半部。底部外面に回転糸切り痕を残す円盤状高台をもつ。胎土は粗く、結晶片岩・絹雲母を含む。12~13世紀代か。

焼土坑1号（Ⅲ地区 SH1001）（第429図）

Ⅲ-1区東部北端、G 6グリッドに位置する。本体は長軸140cm短軸100cm深度24cmを測る楕円形の焼土坑で、南東に不整形の浅い突出部が付く。全体としては不整形で、長軸184cm短軸108cmを測る。本体部の断面は不整な逆台形状で、底面は緩やかに凹む。埋土は2層に分層でき、第2層に焼土や炭化物片を多量に含む。第3層は付帯部の土層で焼土や炭化物片を含まない。本体部の第1・2層に切られる。

本体部の底面から5~10cm上に20~30cm大の礫を置く。礫の配置は図上の①列に3点、②列に3点、③列に1点、④列に3点をそれぞれ配置。礫の長軸を東西に向ける傾向がある。礫の直上で、礫の長軸と直交する方向に置かれた2本の炭化材を検出。西側の炭化材は全長76cm径約5cm、東側の炭化材は全長73cm径約6cmを測る。使用時の状況を良好に遺すものと考えられる。

遺物は上師質土器片のほか、焼土ブロックや炭化物片が出土。土器の出土点数はごくわずかで周囲に灰原や廃棄土坑も確認されないことから、土器焼成遺構とする証左に欠ける。

溝2号（Ⅲ地区 SD1002）（第430図）

Ⅲ-1区南側～Ⅲ-2区全域にかけて南北方位の溝群が検出された。幅40cm前後、深さ5cm程度の浅いレンズ状の断面をもつ溝で、1~2mの間隔をおいて東西に並ぶ。開墾・耕作に伴う溝と考えられる。

SD1002はⅢ-1区西端部南側、G・H13~15グリッドに位置し、南は試掘坑に切られ、以南には延びない。検出長5.5m幅50cm深度4cmを測る。主軸はN12°Eを向く。断面はレンズ状で、埋土は1層。出土遺物は1点のみで、748は西村系須恵器碗の底部。底部外面にやや外方に開く方形の高台をもつ。内面わずかに炭素付着。13世紀前半頃とみられる。

溝7号（Ⅲ地区 SD1007）（第431図）

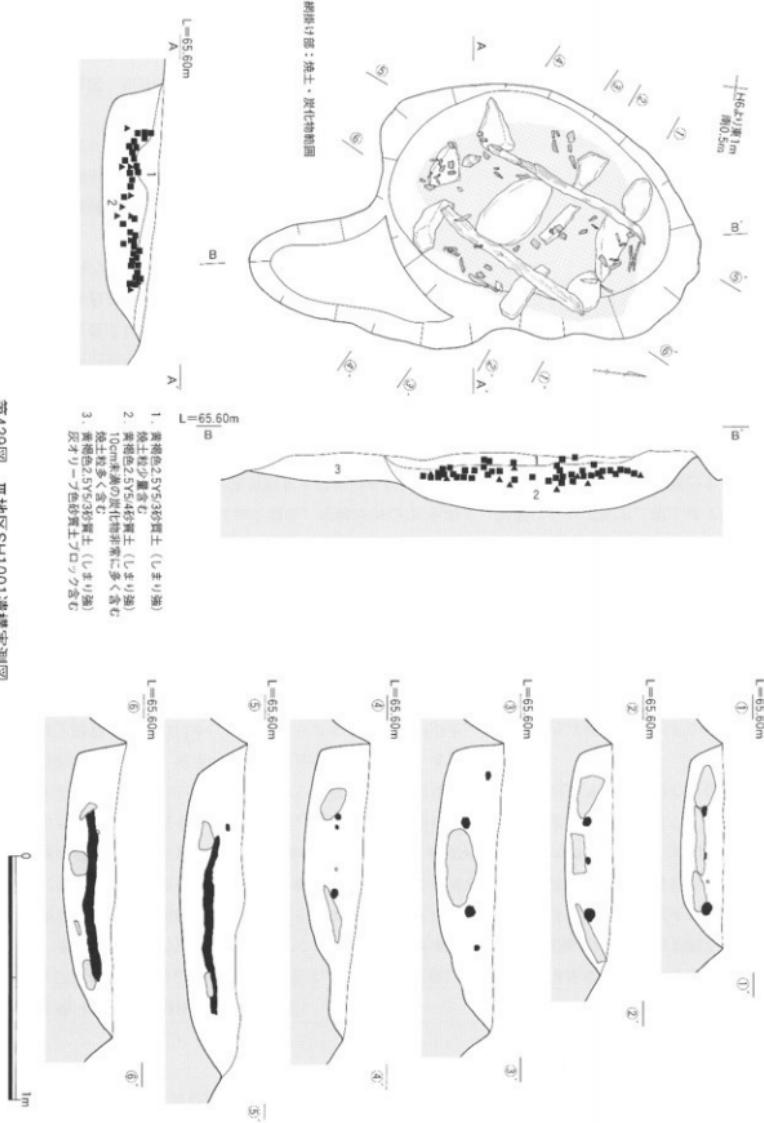
Ⅲ-1区西端部南側、F・G14グリッドに位置する、全長4.6m短軸46cm深度3cmを測る。主軸はN11°Eを向く。断面はレンズ状で、埋土は1層。出土遺物は1点のみで、749は瓦器碗の下半部。断面逆台形状の低い高台をもつ。底部内面に平行ヘラミガキ暗文を施す。和泉型瓦器碗Ⅲ-3期前後とみられ、13世紀前葉頃の年代が与えられる。

溝17号（Ⅲ地区 SD1017）（第432図）

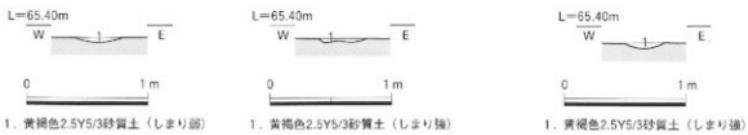
Ⅲ-1区西部中央、G~H16グリッドに位置する、全長8.2m短軸43cm深度4cmを測る。主軸はN11°Eを向く。断面レンズ状で、埋土は1層。出土遺物は1点のみで、750は高台付の須恵器壺。8世紀代か。

溝20号（Ⅲ地区 SD1020）（第433図）

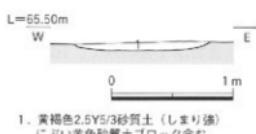
Ⅲ-1区西部中央、F~H16グリッドに位置する、全長16.8m短軸120cm深度6cmを測る。主軸はN9°Eを向く。断面はレンズ状で、埋土は1層。遺物は須恵器壺、土師質土器片が出土。751は須恵器壺の肩部。外面に平行タタキのちカキメを施し、自然釉が付着する。内面に同心円状当具痕を残す。



第429図 Ⅲ地区SH1001遺構実測図



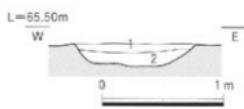
第430図 III地区SD1002
遺構・遺物実測図



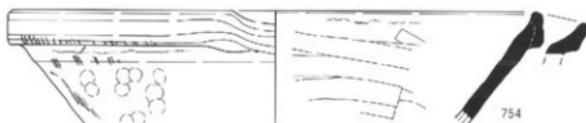
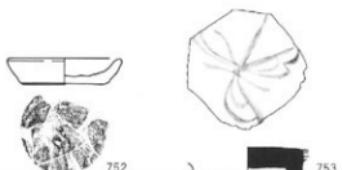
第431図 III地区SD1007
遺構・遺物実測図

第432図 III地区SD1017
遺構・遺物実測図

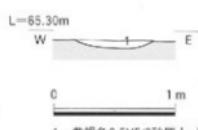
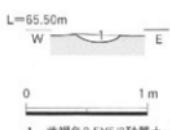
第433図 III地区SD1020遺構・遺物実測図



1. 黄褐色2.5Y5/4砂質土（しまり弱）
2. オリーブ褐色2.5Y4/4砂質土（しまり弱）



第434図 III地区SD1030遺構・遺物実測図



第435図 III地区SD1032遺構・遺物実測図

第436図 III地区SD1055遺構・遺物実測図



溝30号（Ⅲ地区 SD1030）（第434図）

III-1区西部、E~H18・19グリッドに位置し、南邊はSK1009に切られる。検出長17.7m短軸110cm深度18cmを測る。主軸はN 8°Eを向く。断面は逆台形状で、埋土は2層に分層。

遺物は須恵器片・蓋、土師質土器杯・煮炊具脚部・羽釜、瓦器碗、須恵質土器皿・捏鉢、青磁碗が出土。752は土師質土器皿。底部外間に回転ヘラ切り痕を残す。753は青磁碗。底部内面にヘラ片彫による陰刻花文を施す。軸に微細な貫入あり。大宰府分類の龍泉窯系青磁碗I-2b類に相当し、12世紀中頃～後半の年代が与えられる。754は束縛系の須恵質土器捏鉢の上半部。口縁端部を上下に拡張し、片口を設ける。重焼による自然釉が付着。外面にハケ状工具による縱位の擦痕が確認できる。森田編年第Ⅲ期第2段階に相当し、14世紀前半の年代が与えられる。

溝32号（Ⅲ地区 SD1032）（第435図）

III-1区中央部北端、H-11グリッドに位置し、北は調査区外に延びる。検出長8.1m短軸42cm深度6cmを測る。主軸はN 11°Eを向く。断面はレンズ状で、埋土は1層。出土遺物は1点のみで、755は黒色土器B類碗の底部。断面逆台形状の高台をもつ。内面は細かなヘラミガキを施す。炭素吸着は内面良好、外面やや不良である。

溝55号（Ⅲ地区 SD1055）（第436図）

III-1区中央部南半～III-2区、B～F3・4グリッドに位置し、南は調査区外に延びる。検出長32.8m短軸64cm深度6cmを測る。主軸はN 11°Eを向く。断面はレンズ状で、埋土は1層。遺物は土師質土器片・杯（回転糸切りほか）、青磁碗が出土。756は青磁碗の体部下半。内面にヘラ片彫の陰刻花文を施す。大宰府分類の龍泉窯系青磁碗I-2類に相当し、12世紀中頃～後葉の年代が与えられる。

溝88号（Ⅲ地区 SD1088）（第437・438図）

III-1区東端部北端、G8・9グリッドに位置する、全長6.0m短軸44cm深度7cmを測る。主軸はN 75°Wを向く。断面はレンズ状で、埋土は1層。

遺物は土師質土器羽釜・壺が出土。757は土師質土器羽釜。鋸部は短く、折り曲げ技法で作る。体部内外面に指頭圧痕を残し、外面に板ナデを施す。758は土師質土器壺の上半部。体部内外面に板ナデを施す。焼成良好で硬質。近接するSK1019出土の742と同一個体の可能性がある。

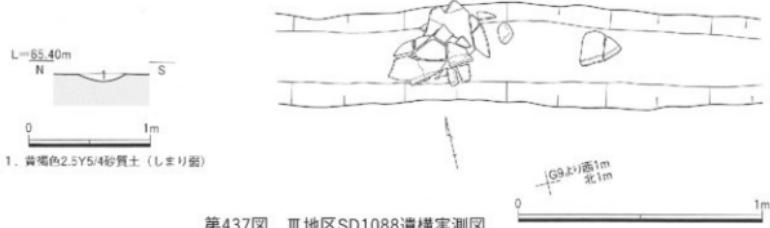
造構の年代は、出土遺物から概ね14～15世紀頃と考えられる。

小穴17号（Ⅲ地区 SP1017）（第439図）

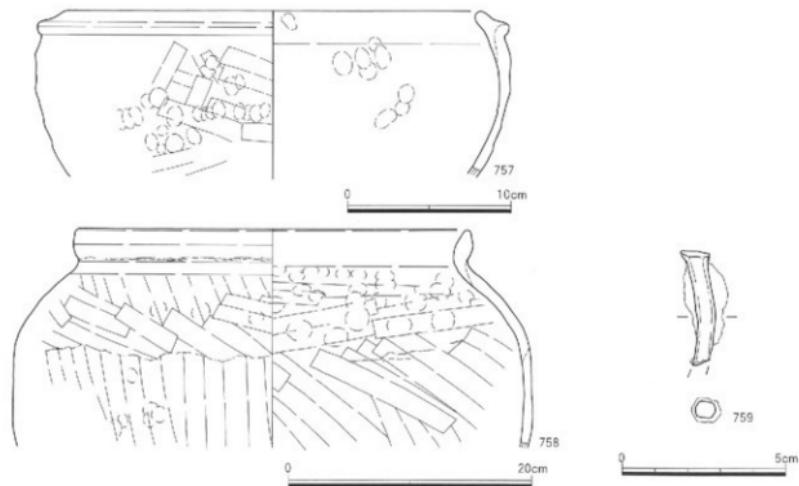
III-1区西部南寄り、E7グリッドに位置する、径43cm深度14cmを測る楕円形の小穴。出土遺物は1点のみ。759は鉄釘で平頭に作る。先端部を欠く。

III-3・4区（第440図）

III-3・4区はⅢ地区東半の調査区である。第1造構面では、西半では溝SD1122、中央に溝SD1125が南北方向に走り、これらの溝を境に東に向かうほど段階的に造構密度を増す。とくに東半部中央付近



第437図 Ⅲ地区SD1088遺構実測図



第438図 Ⅲ地区SD1088遺物実測図

第439図 Ⅲ地区
SP1017遺物実測図

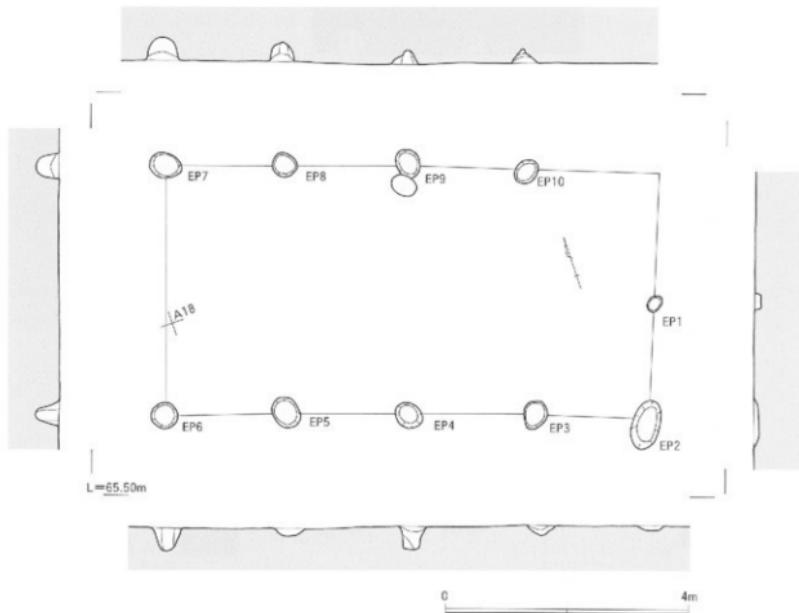
は遺構が密集する状況で、建物や土坑のほか、焼土や炭化物の拡がりなども検出した。遺構面は北東側に向て緩やかに下がり、急激に落ち込む北東端では自然流路 SRとして検出した。SA12棟、SK138基、SH4基、SD29条、SX7基、SP417基、SR1条を検出している。

据立柱建物3号（Ⅲ地区 SA1003）（第441図）

Ⅲ-3区中央部、T・A17~19グリッドに位置する。東西4間（7.9m）南北2間（4.1m）床面積32.4m²、10基の柱穴をもつ個柱建物で、建物主軸N71°Wを向く。北東隅の柱穴を欠く。柱穴の平面形は円形または梢円形で、径28~82cm深度10~40cmを測る。断面はU字状で、EP6・8・9で柱痕とみられる土層が確認できる。遺物はEP3・4・6から、土師質土器片・杯が出土。

第440図 III-3・4区第1道構面造構配置図





第441図 Ⅲ地区SA1003構造実測図

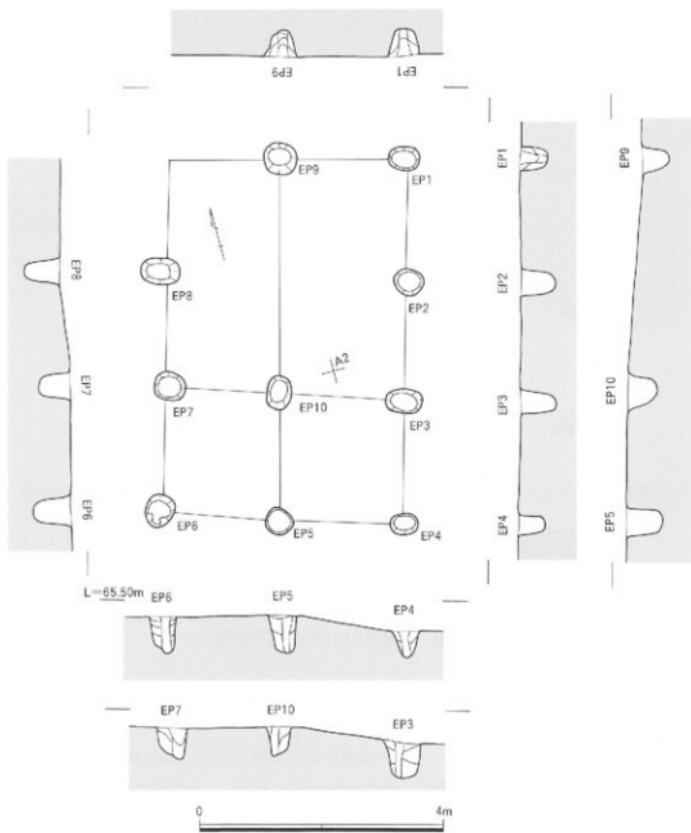
掘立柱建物4号（Ⅲ地区 SA1004）（第442図）

Ⅲ-3区中央部北側、T・A1・2グリッドに位置する。東西2間（4.0m）南北3間（6.0m）床面積24.0m²、10基の柱穴をもつ掘立柱建物で、建物主軸N15°Eを向く。北西隅の柱穴を欠く。柱穴の平面形は楕円形または円形で、径44~64cm深度44~62cmを測る。断面はU字状で、EP1・3~6・7・9・10で柱痕とみられる土層が確認できる。各EPでは、柱痕部分にのみ焼土ブロックを多量に含み、周囲の埋土には焼土・炭化物ともほとんど含まない。本建物は焼土検出範囲であるSX1001と重なる位置にあり、SA1004と関連すると考えられる。これについては不明遺構SX1001の項で詳述する。

遺物はED1・EP3・9から、土師器煮炊具、須恵器片、土師質土器片、煮炊具、脚部・鉢、瓦質土器鉢、須恵質土器碗が出土。

掘立柱建物5号（Ⅲ地区 SA1005）（第443・444図）

Ⅲ-3区中央部、S・R1・2グリッドに位置し、北西隅は試掘坑に切られる。東西推定2間（4.0m）南北2間（4.0m）床面積16.0m²、6基の柱穴をもつ側柱建物で、建物主軸N14°Eを向く。柱穴の平面形は隅丸方形または不整円形で、径50~74cm深度12~48cmを測る。断面は逆台形状で、EP1・5・6で柱痕とみられる土層が確認でき、EP4を除く柱穴で根石を伴う。

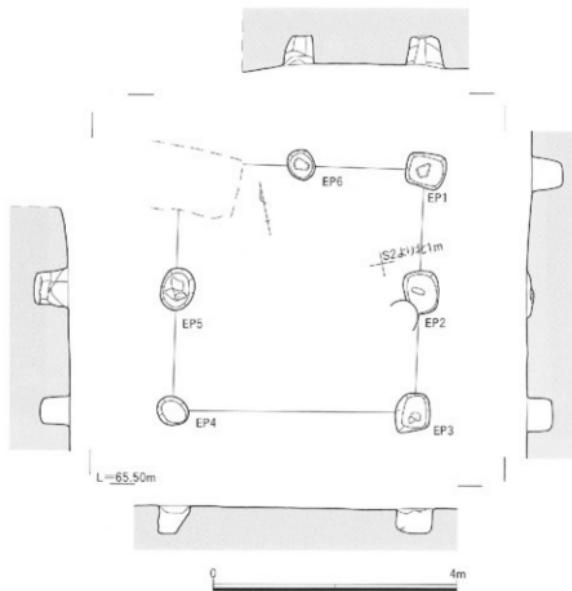


第442図 III地区SA1004遺構実測図

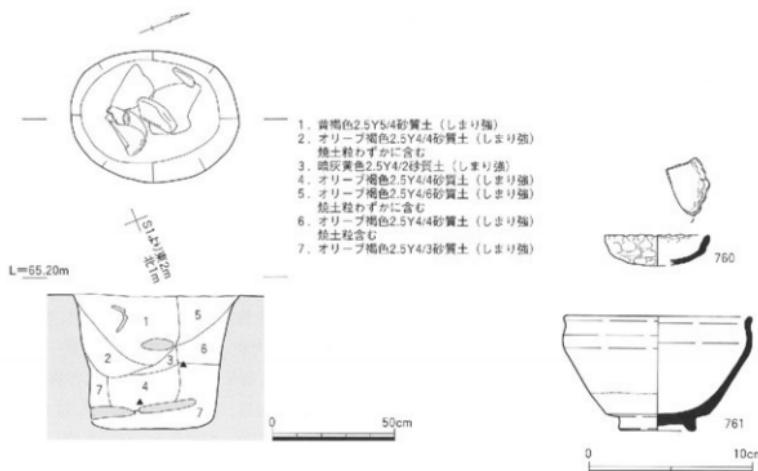
遺物はEP2・3・5・6から、土師質土器片・煮炊具、瓦器皿、須恵質土器椀か、備前陶器輪花小皿、陶器碗が出土。760はEP3出土の備前陶器輪花小皿。口縁を輪花に作り、外面に指頭圧痕を残す。内面に鉄分が付着し、鉄漿皿としての使用が考えられる。備前の東3号窯跡出土資料に類例があり、16世紀後半期頃と考えられる。761はEP5出土の瀬戸美濃系陶器の天目茶碗。高台削り出し、内面～体部外面中位に鉄釉を掛けた。

掘立柱建物6号（III地区 SA1006）（第445図）

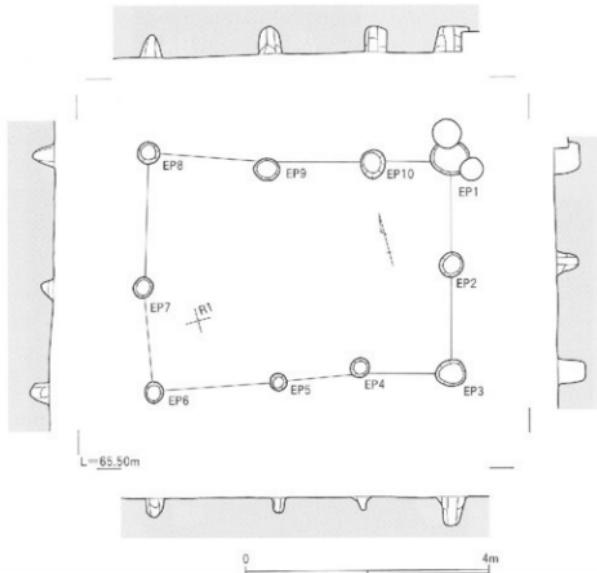
III-3区中央部南寄り、Q・R20～2グリッドに位置する。東西3間（4.9m）南北2間（3.9m）床



第443図 III地区SA1005遺構実測図



第444図 III地区SA1005 EP5遺構・遺物実測図



第445図 III地区SA1006遺構実測図

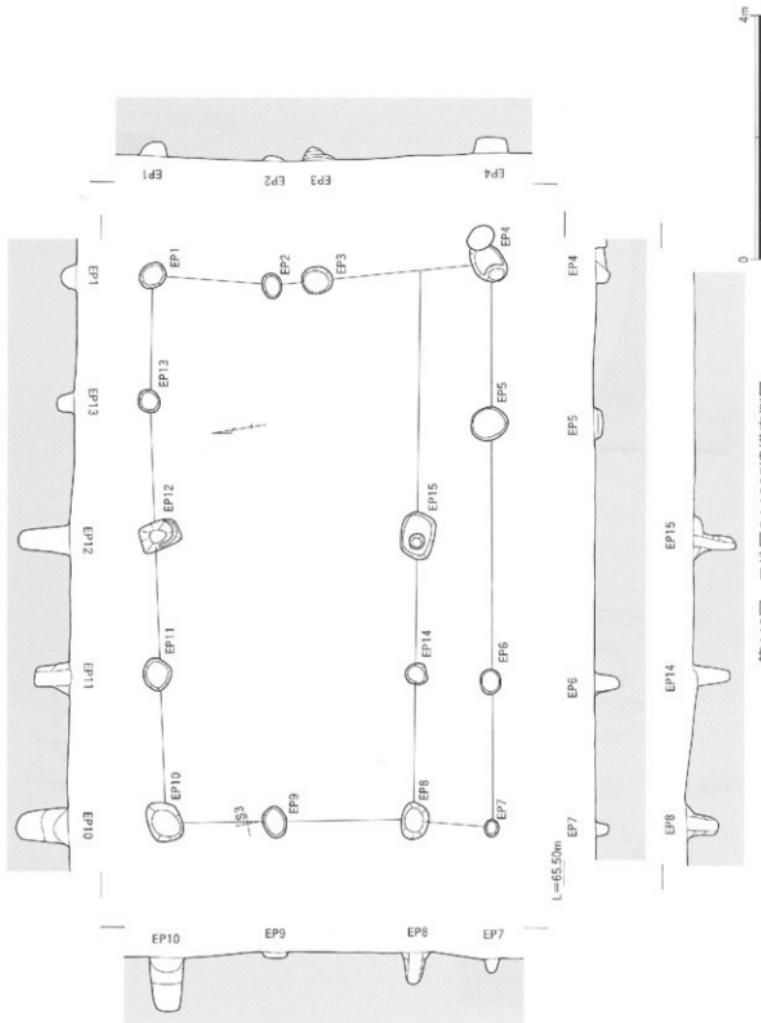
面積19.1m²、10基の柱穴をもつ側柱建物で、建物主軸N75°Wを向く。柱穴の平面形は円形で、径34~66cm深度20~48cmを測る。断面は逆台形状またはU字状で、EP7を除く柱穴で柱痕とみられる土層を確認。遺物はEP1・4・6・8・9から、土師器片・煮炊具・須恵器片、土師質土器片・杯・煮炊具(格子タタキ)、近世染付片が出土。

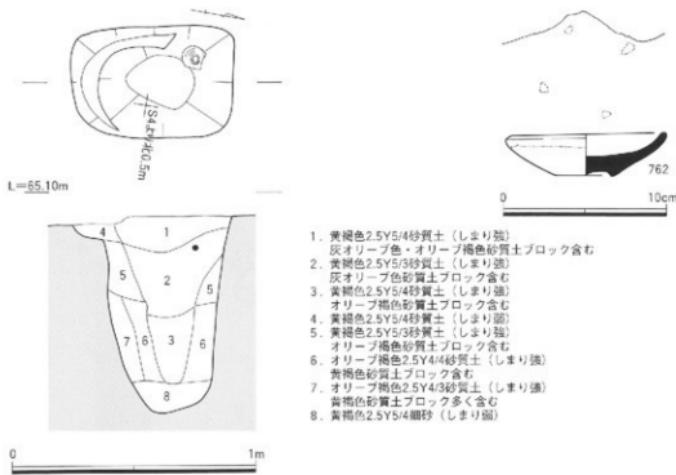
掘立柱建物7号(III地区 SA1007)(第446~449図)

III-3区東部中央、Q~S2~4グリッドに位置。東西4間(9.0m)南北2間(4.0m)床面積36.0m²(底部含め南北3間(5.3m)47.7m²)、15基の柱穴をもつ南庇付きの側柱建物で、建物主軸N82°Wを向く。柱穴は円形または隅丸長方形で、径28~76cm深度8~84cm。断面は逆台形状またはU字状で、EP5・8で柱痕とみられる土層を確認。本遺構の直上では多数の環を検出。環は10~60cm大で、SA1007と重複する範囲に散在。SA1007廃絶後に營まれた礎石建物かと考えたが、プランの復元には至らない。

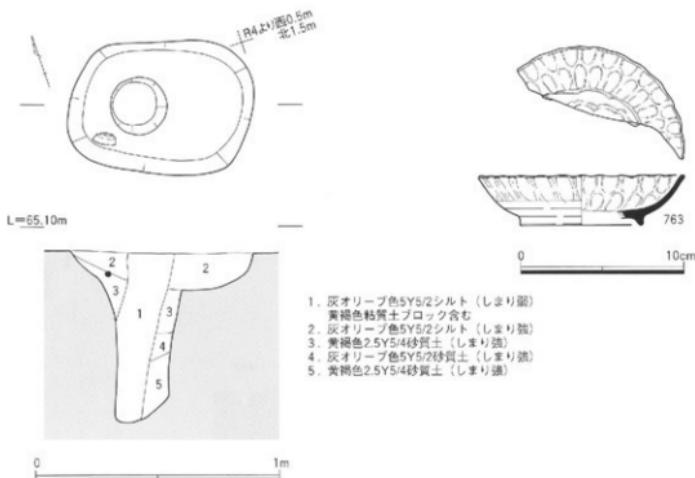
遺物はEP2~6・8・10・11・13~15から、須恵器片・土師質土器片・杯・煮炊具・瓦器楕・皿・須恵質上器片・楕・陶器片・皿(肥前系菊花皿)、近世染付片・磁器皿・鉄刀子が出土。762はEP12出土の肥前系陶器皿。基底低で、底部内面に胎土目痕4ヶ所を残す。内面~口縁外間に灰釉を施し、貫入を作り。17世紀前半頃。763はEP15から出土した肥前系磁器の菊花皿。型打ち成形で作る。17世紀前半頃。

第446圖 III地區SA1007鑽孔實測圖

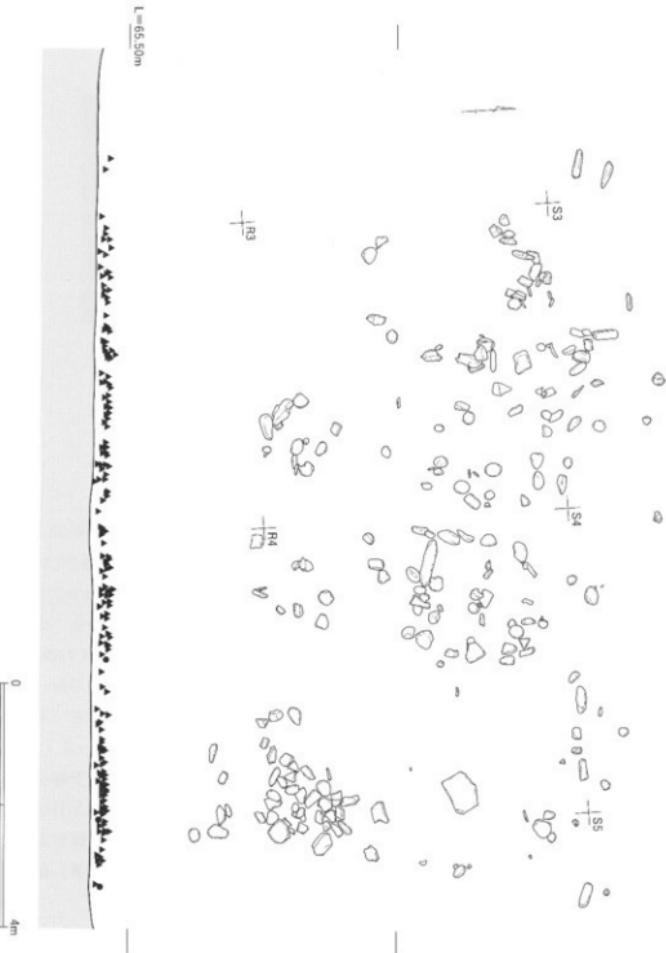




第447図 III地区SA1007 EP12遺構・遺物実測図



第448図 III地区SA1007 EP15遺構・遺物実測図



第449図 Ⅲ地区SA1007面上出土実測図

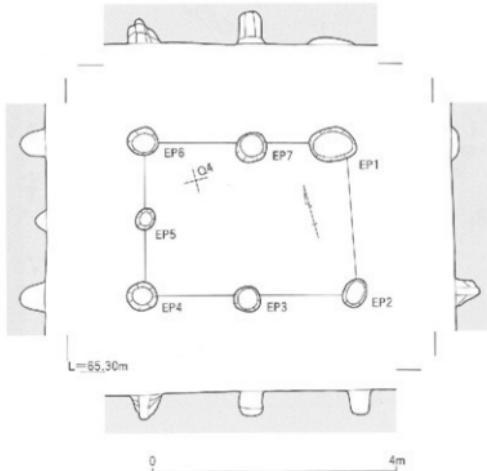
掘立柱建物 8号（Ⅲ地区 SA1008）（第450図）

Ⅲ-3区東部南側、P・Q3・4グリッドに位置する。東西2間（3.3m）南北2間（2.5m）床面積8.3m²、7基の柱穴をもつ側柱建物で、建物主軸N74°Wを向く。柱穴の平面形は円形または不整円形で、径34~80cm深度12~54cm。断面はU字状で、EP2・4・6・7で柱痕とみられる土層を確認。遺物はEP1・4~7から、須恵器片、土師器煮炊具、黒色土器碗A類、土師質土器片・煮炊具が出土。

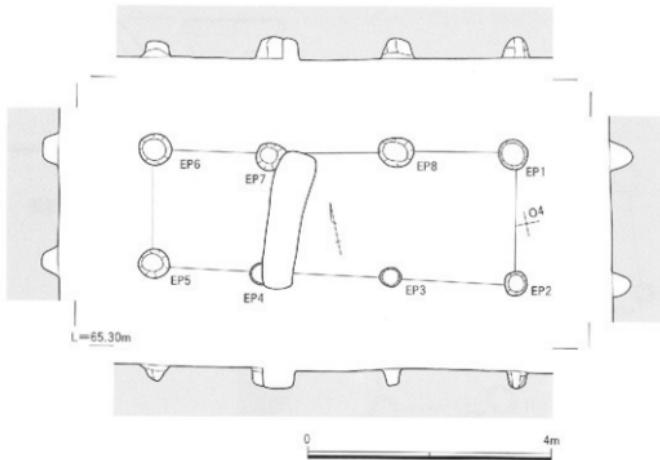
掘立柱建物 9号（Ⅲ地区 SA1009）（第451~453図）

Ⅲ-3区東部南端、N・O2~4グリッドに位置する。東西3間（5.9m）南北1間（2.1m）床面積12.4m²、8基の柱穴をもつ側柱建物で、建物主軸N76°Wを向く。柱穴の平面形は円形で、径35~58cm深度26~36cmを測る。断面はU字状で、EP1・2・5・7・8で柱痕とみられる土層を確認。

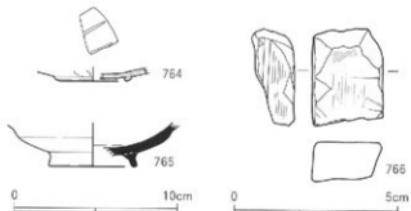
遺物はEP1・3~8から、土師質土器片・杯・煮炊具・鍋、瓦器碗、須恵質土器碗、白磁片、凝灰岩製砥石が出土。764はEP5出土の瓦器碗底部。底部内面に平行ヘラミガキ暗文を施す。底部外面に断面蒲鉾状の低い高台を貼り付け。炭素吸着不良。和泉型瓦器碗Ⅲ-3~IV-1期頃、13世紀前葉~中葉とみられる。765はEP5出土の西村系須恵質土器碗の下半部。底部外面に断面撥形の高台を貼り付け。焼成やや不良で、やや軟質。766はEP5出土の凝灰岩製砥石。2面を使用。767はEP6出土の瓦器碗上半部。体内部内面にやや密な横位のヘラミガキを施す。内面にのみわずかに炭素吸着し、外面は吸着なし。酸化炎焼成される。和泉型瓦器碗Ⅲ-3期、またはその模倣とみられ、13世紀前葉の年代が与えられる。遺構の年代は、出土遺物から13世紀前半頃と考えられる。



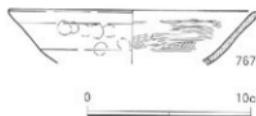
第450図 Ⅲ地区SA1008遺構実測図



第451図 Ⅲ地区SA1009遺構実測図



第452図 Ⅲ地区SA1009 EP5遺物実測図



第453図 Ⅲ地区SA1009 EP6遺物実測図

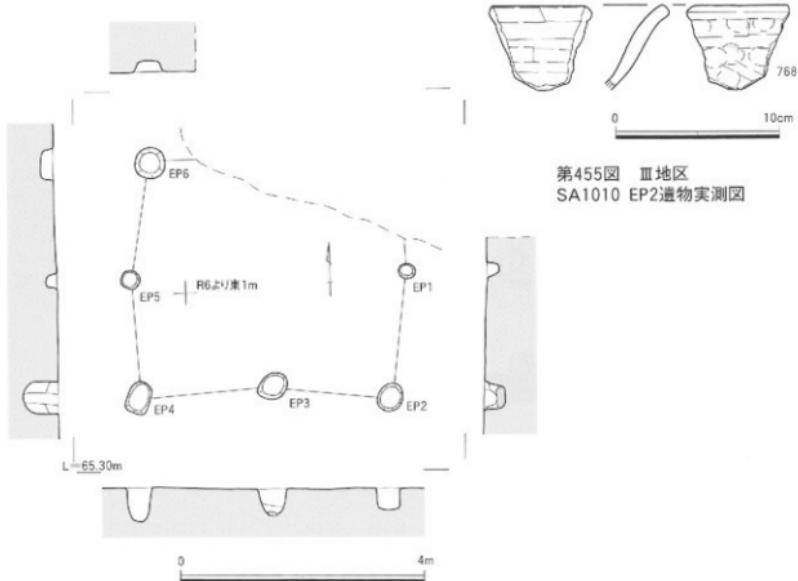
掘立柱建物10号（Ⅲ地区 SA1010）（第454・455図）

Ⅲ-3区東部中央、Q・R 5・6グリッド位置し、北東側は擾乱に切られる。東西2間(4.0m)南北2間(3.9m)床面積15.6m²、6基の柱穴をもつ側柱建物で、建物主軸N88°Wを向く。柱穴の平面形は円形または不整円形で、径28~52cm深度20~58cmを測る。断面は逆台形状またはU字状で、EP2・4で柱痕とみられる土層が確認でき、EP2・3では根石を伴う。

遺物はEP2・4から、土師器煮炊具、土師質土器片・鍋、須恵質土器碗、近世陶磁器片が出土。768はEP2出土の土師質土器鍋。浅い器形で外面ユビオサエのち板ナデ、内面横位の板ナデを施す。

掘立柱建物11号（Ⅲ地区 SA1011）（第456図）

Ⅲ-3区東部北寄り、Q・R 7・8グリッドに位置する。東西2間(4.6m)南北1間(2.4m)床面積11.0m²、6基の柱穴をもつ側柱建物で、建物主軸N80°Wを向く。柱穴の平面形は円形で、径30~50



第454図 Ⅲ地区SA1010遺構実測図

cm深度20~36cmを測る。断面は逆台形状またはU字状で、EP1・5・6で柱痕とみられる土層を確認。遺物はEP1・3・4・6から、土師器煮炊具、土師質土器皿・煮炊具、近世陶磁器片が出土。

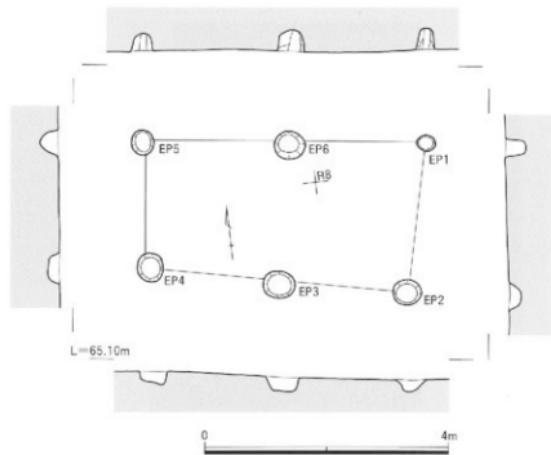
掘立柱建物12号（Ⅲ地区 SA1012）（第457図）

Ⅲ-3区東端部中央、P・Q7・8グリッドに位置する。東西3間（4.7m）南北3間（3.7m）床面積17.4m²、10基の柱穴をもつ側柱建物で、建物主軸N83°Wを向く。柱穴の平面形は円形で、径38~52cm深度11~42cmを測る。断面は逆台形状またはU字状で、EP5・6で柱痕とみられる土層を確認。

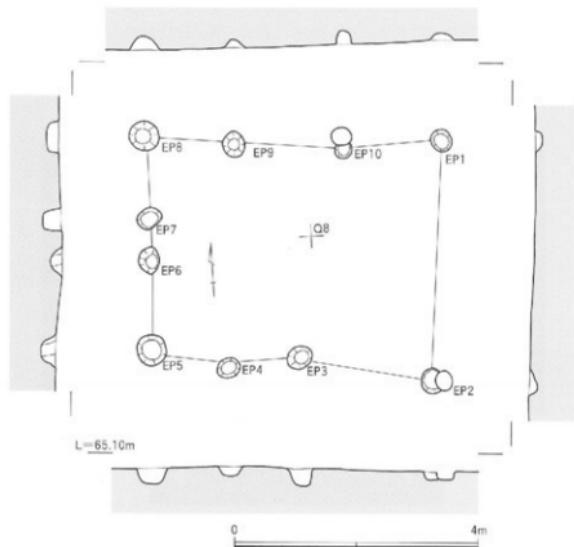
遺物はEP2・5・6・10から、須恵器片、土師質土器片、瓦器碗、鉄製品片、鉄滓が出土。

掘立柱建物13号（Ⅲ地区 SA1013）（第458図）

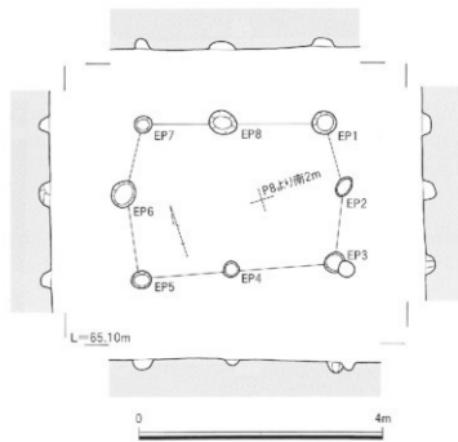
Ⅲ-3区東端部南寄り、O7・8グリッドに位置する。東西2間（3.2m）南北2間（2.4m）床面積7.7m²、8基の柱穴をもつ側柱建物。主軸はN75°Wを向く。柱穴の平面形は円形または楕円形で、径26~46cm深度14~21cm。断面はU字状で、EP3で柱痕とみられる土層を確認。遺物はEP8から瓦器碗が出士。



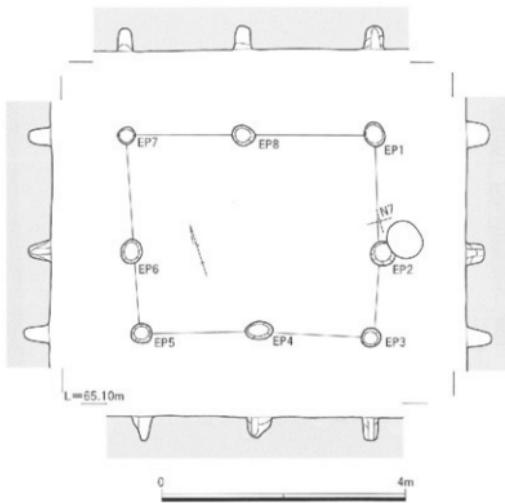
第456図 III地区SA1011遺構実測図



第457図 III地区SA1012遺構実測図



第458図 III地区SA1013遺構実測図



第459図 III地区SA1014遺構実測図

掘立柱建物14号（Ⅲ地区 SK1014）（第459図）

Ⅲ-3区東端部南端、M・N6・7グリッドに位置する。東西2間（4.3m）南北2間（3.3m）床面積14.2m²、8基の柱穴をもつ側柱建物で、建物主軸N73°Wを向く。柱穴の平面形は円形または橢円形で、径28~42cm深度32~38cmを測る。断面はU字状で、EP1~6で柱痕とみられる上層を確認。遺物はEP3・6~8から、須恵器蓋、土師質土器片、瓦器碗が出土。

土坑55号（Ⅲ地区 SK1055）（第460図）

Ⅲ-3区西端部南寄り、A10・11グリッドに位置し、西は遺構に切られる。長軸残存長432cm短軸208cm深度8cmを測る不整な隅丸長方形土坑。主軸はN82°Wを向く。断面は皿状で、埋土は1層。遺物は土師質土器片、瓦器碗が出土。769は瓦器碗。小片のため復元径は過大。ヘラミガキは確認できない。炭素吸着はやや不良。和泉型瓦器碗IV-1~2期前後か。

土坑56号（Ⅲ地区 SK1056）（第461図）

Ⅲ-3区西部南寄り、T13・14グリッドに位置する、長軸180cm短軸150cm深度10cmを測る不整な隅丸長方形の土坑。主軸はN15°Eを向く。断面は浅い皿状で、埋土は1層である。

遺物は土師質土器片、瓦器碗、須恵器蓋が出土。770は瓦器碗の下半部。底部内面に平行ヘラミガキ暗文を施す。底部外面に断面三角形状の低い高台を貼り付け。炭素吸着良好。和泉型瓦器碗Ⅲ-3期前後とみられ、13世紀前葉頃の年代が与えられる。771は西村系須恵器蓋の下半部。体部外間に指頭圧痕を残し、底部に断面鈍い三角形状の高台を貼り付け。焼成不良により軟質で、部分的に炭素付着。胎土に結晶片岩を含む。遺構の年代は、出土遺物から13世紀前半頃と考えられる。

土坑63号（Ⅲ地区 SK1063）（第462図）

Ⅲ-4区西部南端、R12グリッドに位置する、長軸178cm短軸98cm深度22cmを測る不整な楕円形の土坑。主軸はN4°Eを向く。断面は逆台形状で、埋土は1層。遺物は土師器片・杯（赤彩ほか）、須恵器片、土師質土器片、陶器甕が出土。772は陶器甕の下部。器壁は薄く、外面板ナデ、内面に自然釉付着。器表面が赤く発色しているため備前焼と考えたが、常滑焼の可能性もある。

土坑64号（Ⅲ地区 SK1064）（第463図）

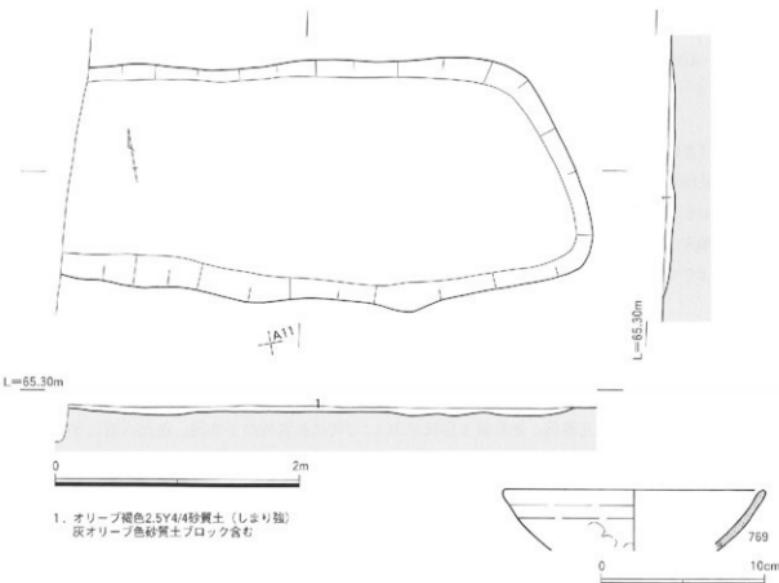
Ⅲ-3区西部北端、D16グリッドに位置する、長軸132cm短軸82cm深度10cmを測る隅丸方形の土坑。主軸はN24°Eを向く。断面は浅い皿状で、埋土は1層。遺物は須恵器片、土師質土器片・擂鉢・煮炊具が出土。773は土師質土器擂鉢の底部。体部外間に指頭圧痕を残し、炭素付着。15~16世紀代。

土坑66号（Ⅲ地区 SK1066）（第464図）

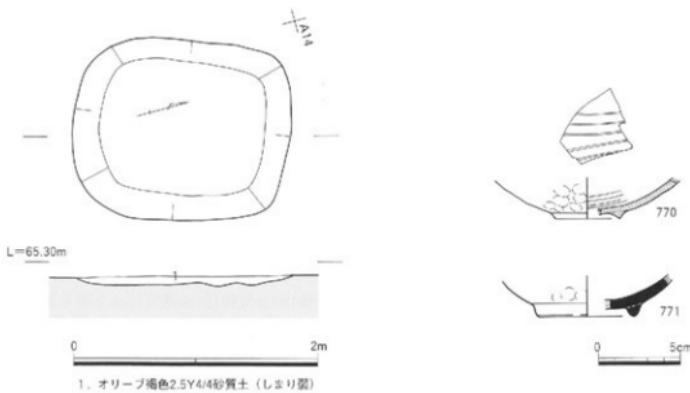
Ⅲ-3区西部北端、D15・16グリッドに位置する、長軸198cm短軸134cm深度18cmを測る隅丸長方形の土坑。主軸はN18°Eを向く。断面は逆台形状で、埋土は1層。遺物は土師質土器片・煮炊具が出土。

土坑68号（Ⅲ地区 SK1068）（第465図）

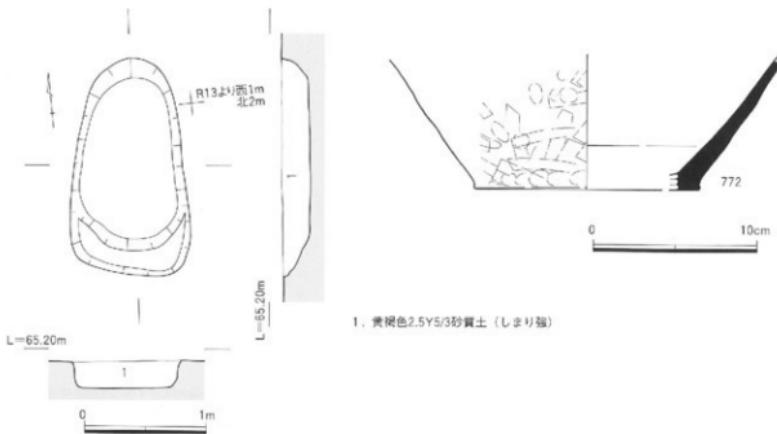
Ⅲ-3区西部北端、d16・17グリッドに位置する、長軸156cm短軸86cm深度24cmを測る不整な隅丸長方



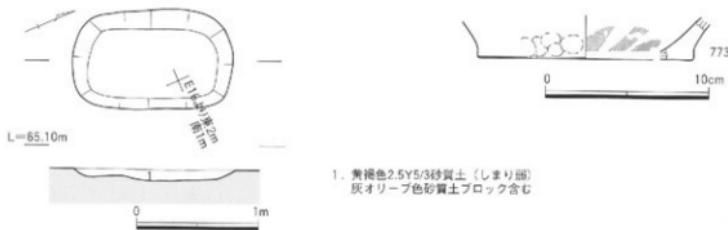
第460図 Ⅲ地区SK1055遺構・遺物実測図



第461図 Ⅲ地区SK1056遺構・遺物実測図



第462図 Ⅲ地区SK1063遺構・遺物実測図



第463図 Ⅲ地区SK1064遺構・遺物実測図

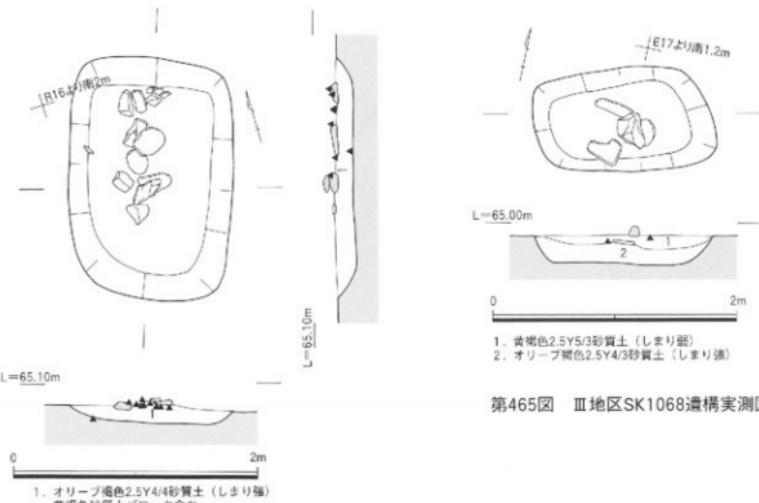
形の土坑。主軸は N77°E を向く。断面は逆台形状で、埋土は2層に分層。遺物は土師質土器片が出土。

土坑73号（Ⅲ地区 SK1073）（第466図）

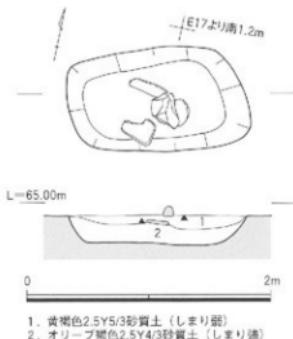
Ⅲ-3区西部北側、C15・16グリッドに位置する、長軸96cm短軸78cm深度14cmを測る不整円形の土坑。断面は皿状で、埋土は1層。遺物は土師質土器片・杯（静止糸切り）・羽釜が出土。774は土師質土器羽釜。鋤部は短く退化し、断面三角形状を呈する。折り曲げ技法で作る。内外面に横位の板ナデを施す。胎土は粗い。遺構の年代は、出土遺物から15~16世紀代と考えられる。

土坑75号（Ⅲ地区 SK1075）（第467図）

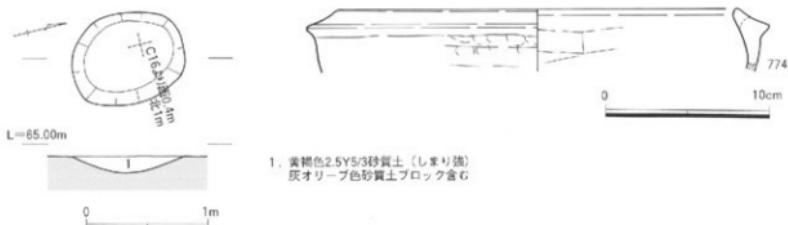
Ⅲ-3区西部中央、D15グリッドに位置する、長軸122cm短軸120cm深度34cmを測る不整な隅丸方形の土坑。主軸は N14°E を向く。断面は不整な逆台形状で、埋土は1層。



第464図 Ⅲ地区SK1066遺構実測図



第465図 Ⅲ地区SK1068遺構実測図

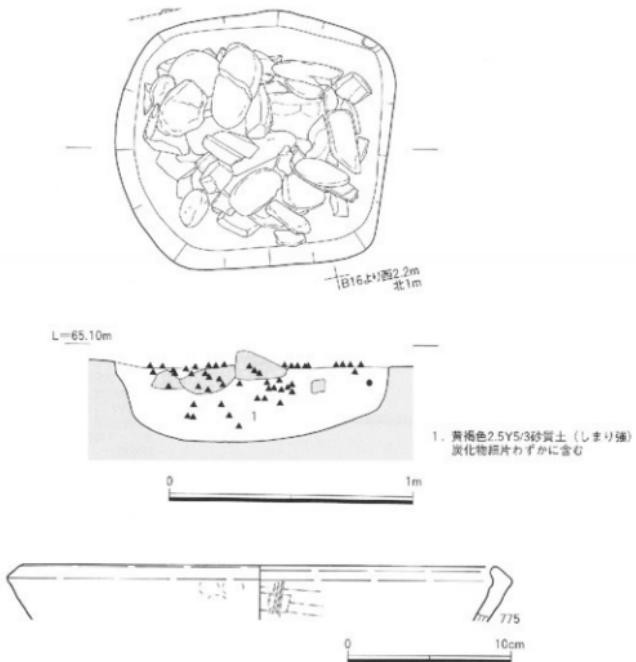


第466図 Ⅲ地区SK1073遺構・遺物実測図

遺物は須恵器片、土師質土器片、擂鉢・煮炊具が出土。775は土師質土器擂鉢の口縁部。口縁端部を内側に拡張し、口縁内面は強いヨコナデによって凹線状に作る。体部外面に指頭圧痕を残し、内面は横位の板ナデのち捲目を施す。胎土は粗い。遺構の年代は、出土遺物から概ね15~16世紀頃とみられる。

土坑76号（Ⅲ地区 SK1076）（第468図）

Ⅲ-3区西部中央、A15・16グリッドに位置し、東は擾乱に切られる。長軸残存長272cm短軸134cm深度60cmを測る不整な長楕円形の土坑。主軸はN76°Wを向く。断面は逆台形状で、底面は起伏がある。埋土は9層に分層。



第467図 III地区SK1075遺構・遺物実測図

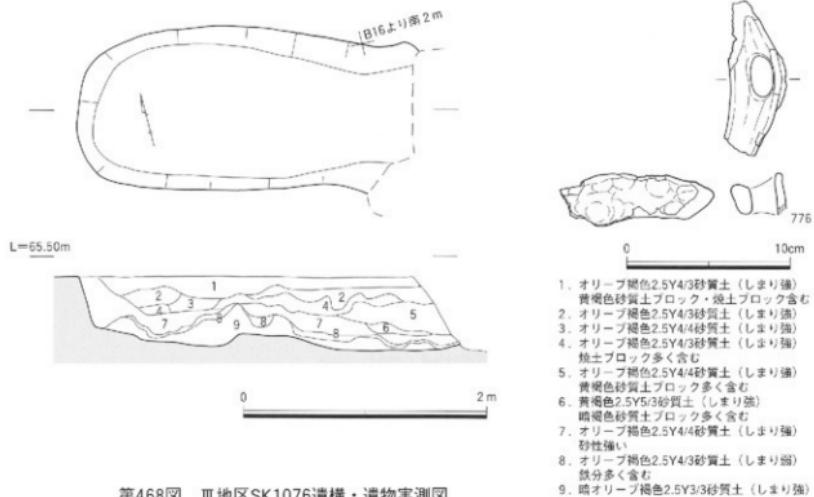
遺物は土師器（赤彩含ほか）・煮炊具、須恵器片、土師質土器擂鉢・羽釜（内耳ほか）が出土。776は内耳付き土師質土器羽釜の口縁部。口縁・鈎の間に焼成前穿孔し、鈎部を外上方に拡張し把手部を作る。外面に指頭圧痕が顕著。

土坑79号（III地区 SK1079）（第469図）

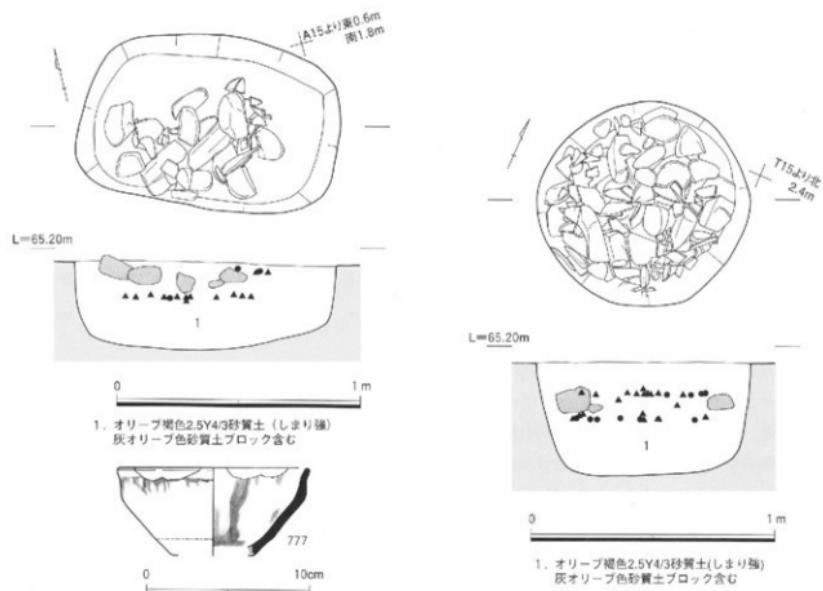
III-3区西部南寄り、T14・15グリッドに位置する、長軸110cm短軸72cm深度36cmを測る隅丸長方形の土坑。主軸はN77°Wを向く。断面は逆台形状で、埋土は1層。埋土上位から掘拳大の礫が出土。配置に規則性は見いだせない。遺物は須恵器片、土師質土器片・杯（回転糸切り）、須恵質土器壺、陶器碗（瀬戸美濃系）が出土。777は瀬戸美濃系陶器の天日茶碗。内面～体部外面下位に鉄軸を掛けた。

土坑80号（III地区 SK1080）（第470・471図）

III-3区西部南寄り、T14グリッドに位置する、長軸87cm短軸84cm深度46cmを測る円形の土坑。断面は逆台形状で、埋土は1層。埋土中位に5～20cm大の礫が集中。配置に規則性は見いだせない。

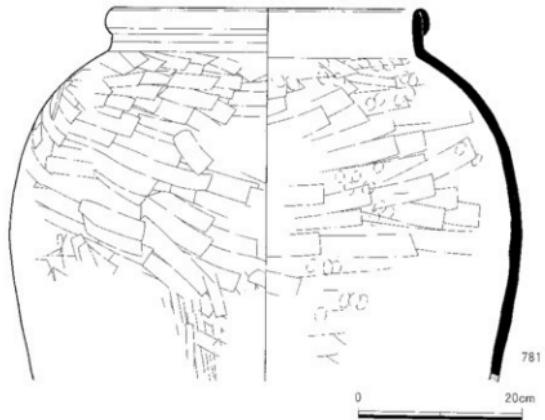
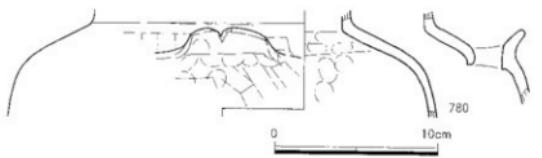
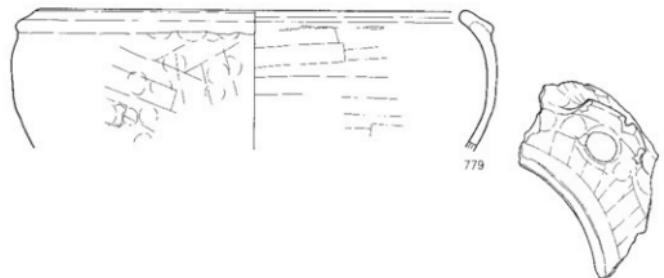
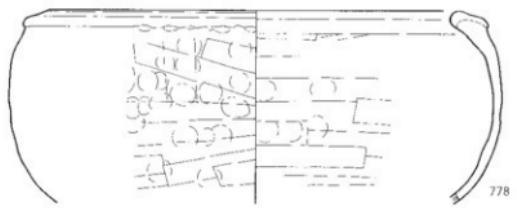


第468図 III地区SK1076遺構・遺物実測図



第469図 III地区SK1079遺構・遺物実測図

第470図 III地区SK1080遺構実測図



第471図 III地区SK1080遺物実測図

遺物は須恵器片、土師質土器片・羽釜、茶釜、瓦器片、備前陶器甕、近世陶磁皿か碗(蛇ノ目釉剥ぎ)、鉄滓が出土。778・779は土師質土器羽釜。口縁と鋸部は被せ技法で作る。鋸部は低く退化し、低い凸形状を呈する。体部外面はユビオサエのち板ナデ、内面は横位の板ナデを施す。780は土師質土器茶釜の上半部。肩部に円孔をもち、外側に把手部を作る。内外面ユビオサエのち板ナデを施す。781は備前焼陶器甕の上半部。口縁を玉縁に作る。重根編年IV A-2期頃、14世紀末~15世紀初頭とみられる。遺構の年代は、出土遺物に近世遺物を含むが概ね15~16世紀頃と考えられる。

土坑81号（Ⅲ地区 SK1081）（第472図）

Ⅲ-3区西部南寄り、T14グリッドに位置する、長軸102cm短軸79cm深度52cmを測る精円形土坑。主軸はN22°Eを向く。断面は方形で、埋土は2層。第2層を中心に10~40cm大の礫が出土。中央部に最大の礫が位置するほか、配置に規則性は見いだせない。遺物は土師質土器片・擂鉢が出土。

土坑82号（Ⅲ地区 SK1082）（第473・474図）

Ⅲ-3区西部南側、S14グリッドに位置する、長軸100cm短軸80cm深度52cmを測る不整形の土坑。埋土上位を中心に5~40cm大の礫が集中する。大型礫の比率が高いほかは、配置に規則性は見いだせない。断面は方形で、埋土は2層に分層。

遺物は須恵器片・土師質土器片、青磁碗、砥石が出土。782は青磁碗。体部外面にヘラ先による細蓮弁文を施す。釉に貫入を作り。上田分類B-IV-a類に相当し、15世紀後葉~16世紀前葉の年代が与えられる。783は砂岩製砥石。扁平な大型自然礫の一側面を砥面に使用。図中の網掛け部が被熱による赤変部である。図示していないが、砥面を上に向けて置いた時の下半部に変色がみられ、土中に埋め固定した状態で使用されたと考えられる。遺構の年代は、出土遺物から概ね16世紀代と考えられる。

土坑83号（Ⅲ地区 SK1083）（第475図）

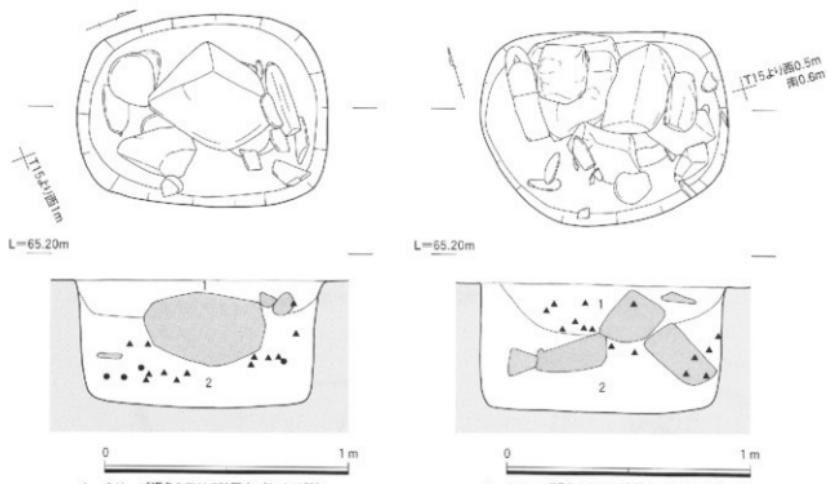
Ⅲ-3区西部南側、S・T15グリッドに位置する、長軸80cm短軸74cm深度14cmを測る不整円形の土坑。断面は皿状で、埋土は1層。遺物は土師質土器片・皿が出土。784は土師質土器皿。底部外面に回転ヘラ切り痕を残す。

土坑91号（Ⅲ地区 SK1091）（第476図）

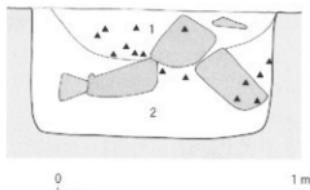
Ⅲ-3区中央部北寄り、A・B17グリッドに位置する、長軸82cm短軸64cm深度20cmを測る不整な隅丸方形の土坑。主軸はN7°Eを向く。断面は逆台形状で、底面は南がやや下がる。埋土は1層。遺構中央部に一辺20cmの礫が位置し、周間に土器片が集中する。

遺物は須恵器片、土師質土器片・杯・擂鉢・煮炊具・鍋、天目碗(瀬戸美濃系)、青磁碗、鉄滓が出土。785は龍泉系青磁碗。口縁外面に墨線を施すほかは無文。釉に貫入を作り。上田分類のE類に相当し、14世紀末~15世紀代の年代が与えられる。786・787は土師質土器擂鉢。口縁端部を内上方に拡張する。体部外面にユビオサエのち板ナデ、体部内面に横位の板ナデのち描目を施す。788は土師質土器鍋。復元口径51.8cmを測る大型品である。外面ユビオサエのち板ナデ、内面は横位の板ナデを施す。

遺構の年代は、出土遺物から概ね15世紀代と考えられる。

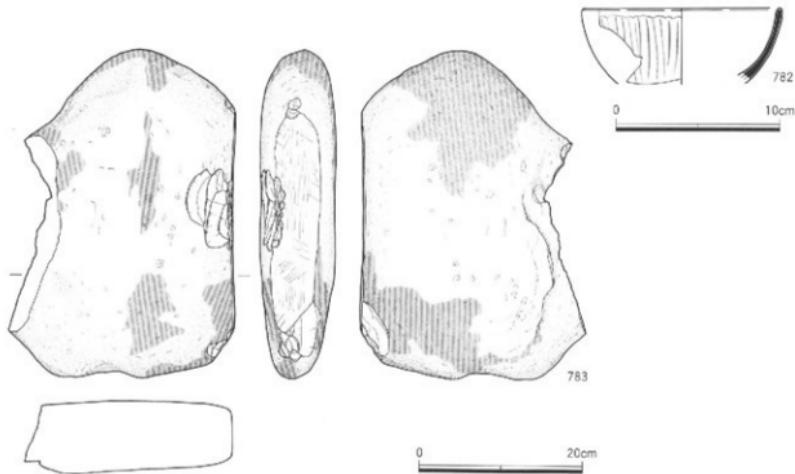


第472図 Ⅲ地区SK1081遺構実測図

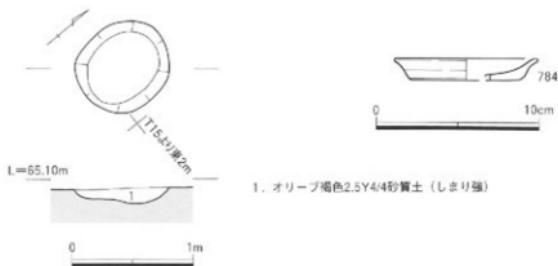


1. オリーブ褐色2.5Y4/3砂質土（しまり強）
焼土ブロック・炭化物細片含む
2. オリーブ褐色2.5Y4/3砂質土（しまり強）
焼土ブロックわずかに含む

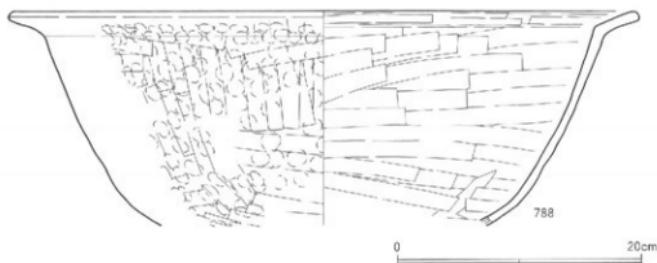
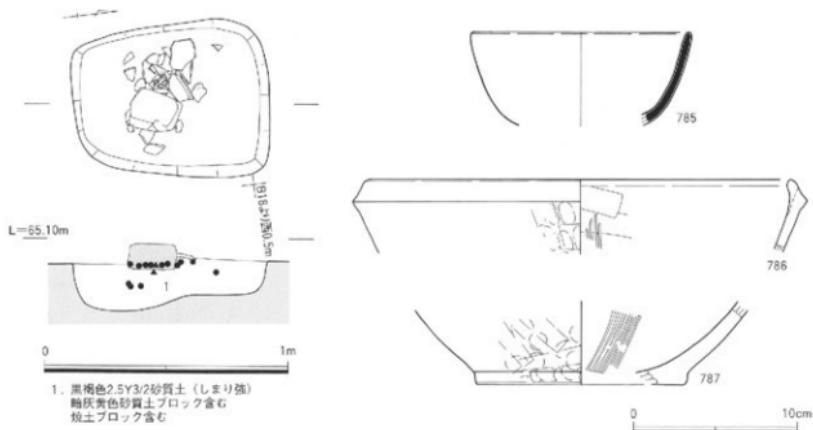
第473図 Ⅲ地区SK1082遺構実測図



第474図 Ⅲ地区SK1082遺物実測図



第475図 III地区SK1083遺構・遺物実測図



第476図 III地区SK1091遺構・遺物実測図

土坑100号（Ⅲ地区 SK1100）（第477図）

Ⅲ-3区中央部南寄り、S18・19グリッドに位置し、東の一部は造構に切られる。長軸266cm短軸残存長106cm深度10cmを測る不整な長楕円形の土坑。主軸はN34°Eを向く。断面は浅い皿状で、埋土は1層。造構南側に10~30cm大の礫がやまとまって出土する。

出土遺物は1点のみで、789は瓦器碗の底部。内面に平行ヘラミガキ暗文を施し、外面に断面逆台形状の低い高台を貼り付け。炭素吸着はやや不良で、内面は吸着なし。和泉型瓦器碗Ⅲ-3~IV-1期前後とみられ、13世紀前葉~中葉頃に位置づけられる。

土坑103号（Ⅲ地区 SK1103）（第478図）

Ⅲ-3中央部北側区、A・B20グリッドに位置する、長軸80cm短軸76cm深度26cmを測る円形の土坑。断面はU字状で、埋土は1層。遺物は土師質土器片・煮炊具・羽釜が出土。790は土師質土器羽釜。鋸部はやや退化して短く、折り曲げ技法で作る。内外面に板ナデを施す。15世紀前後とみられる。

土坑104号（Ⅲ地区 SK1104）（第479図）

Ⅲ-3区中央部北側、A20グリッドに位置し、西は造構に切られる。長軸残存長120cm短軸94cm深度10cmを測る不整な楕円形の土坑。断面は浅い皿状で、埋土は2層に分層。検出直上で10~20cm大の礫が散在する。配置に規則性は見いだせない。

土坑105号（Ⅲ地区 SK1105）（第480図）

Ⅲ-3区中央部北側、A20グリッドに位置し、西はSD1125に切られる。長軸残存長210cm短軸85cm深度68cmを測る長楕円形の土坑。主軸はN61°Wを向く。断面はU字状で、埋土は2層に分層。造構西側の埋土下位に5~10cm大の礫および土器片が集中。

遺物は土師質土器片・羽釜、備前陶器擂鉢、近世陶磁器片、凝灰岩製砥石が出土。791は土師質土器羽釜。口縁は大きく内傾し、鋸部は退化して口縁と体部の間にわずかな稜を作るのみ。外面にユビオサエのち板ナデ、内面に横位の板ナデを施す。胎土に花崗岩と金丹母を含む。792は備前焼擂鉢の下半部。捺目の数が多いことから、中世末~近世初頭頃と考えられる。793は凝灰岩製砥石。4面を使用。

造構の年代は、出土遺物から概ね16世紀後半~17世紀前半と考えられる。

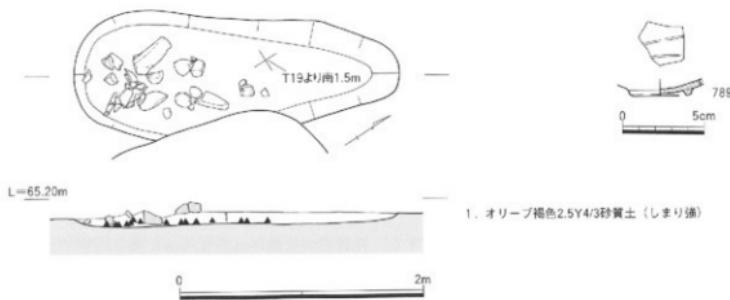
土坑108号（Ⅲ地区 SK1108）（第481図）

Ⅲ-3区中央部、T20グリッドに位置する、長軸100cm短軸78cm深度30cmを測る楕円形の土坑。断面は皿状で、埋土は2層に分層。

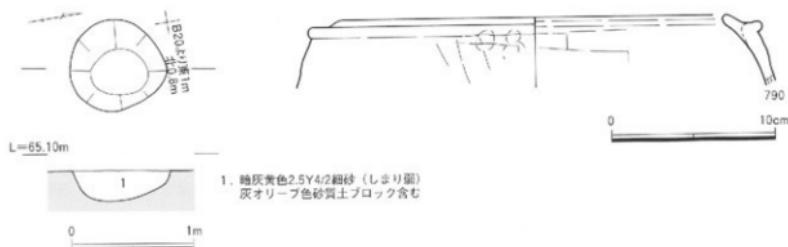
遺物は須恵器甕、土師質土器片・羽釜、染付碗が出土。794は染付碗。外面に芭蕉葉文、内面に底部内面に「福」字を描く。高台疊付に織錐状の離れ砂が付着。陶器質の胎土で、微細な憩がみられる。釉は黄味があり、呉須の発色も悪く、粗製。漳州窯系とみられる。概ね16世紀代と考えられる。

土坑117号（Ⅲ地区 SK1117）（第482図）

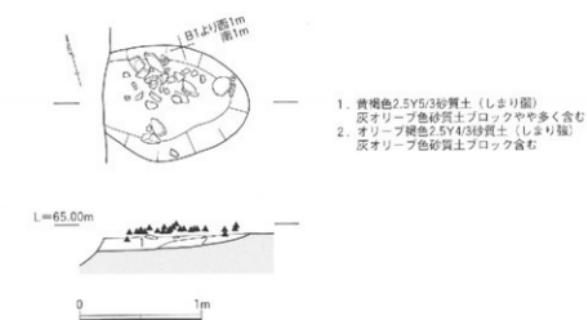
Ⅲ-3区中央部南寄り、R・S1グリッドに位置する、長軸226cm短軸180cm深度42cmを測る不整形の土坑。断面は緩い逆台形状で、埋土は5層に分層。遺物は須恵器甕、土師質土器片、備前陶器甕が出土。



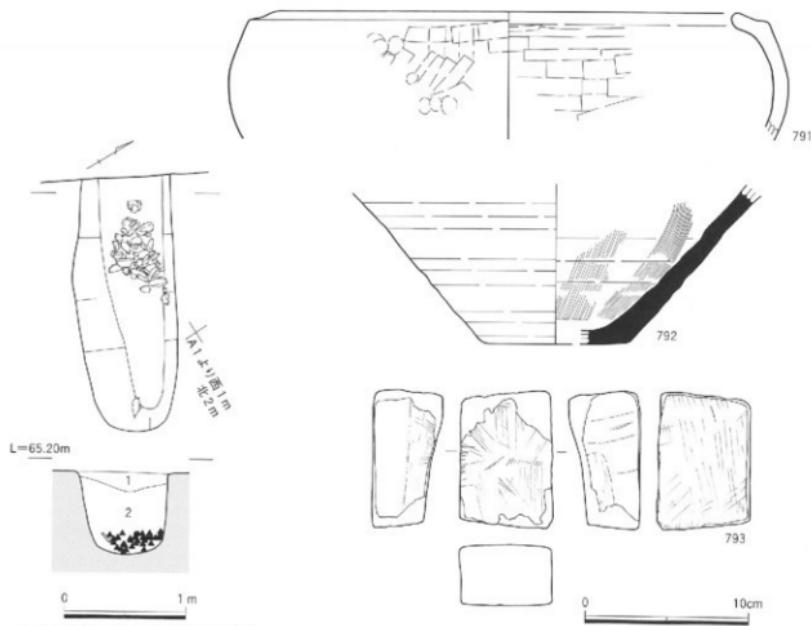
第477図 III地区SK1100遺構・遺物実測図



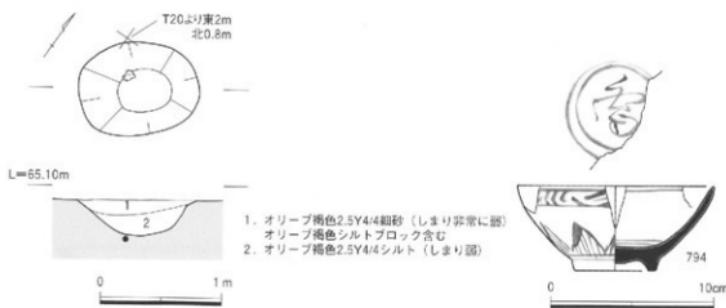
第478図 III地区SK1103遺構・遺物実測図



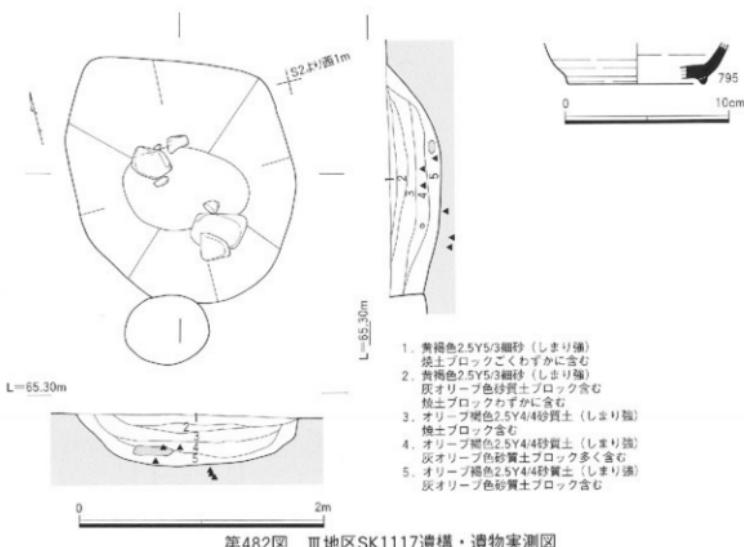
第479図 III地区SK1104遺構実測図



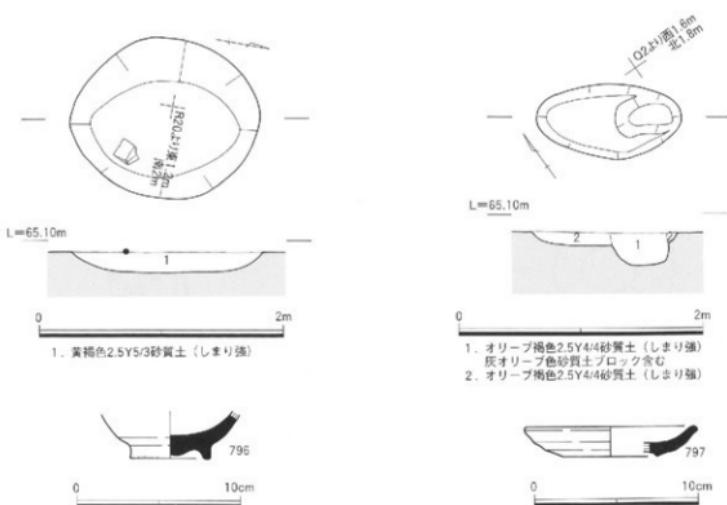
第480図 III地区SK1105遺構・遺物実測図



第481図 III地区SK1108遺構・遺物実測図



第482図 III地区SK1117遺構・遺物実測図



第483図 III地区SK1122遺構・遺物実測図

第484図 III地区SK1125遺構・遺物実測図

795は須恵器杯の下半部。断面蒲鉾形の高台をもつ。焼成不良で、外面に炭素付着。8世紀代か。

土坑122号（Ⅲ地区 SK1122）（第483図）

Ⅲ-3区中央部南側、Q20グリッドに位置する、長軸156cm短軸132cm深度16cmを測る不整円形の土坑。断面は皿状で、埋土は1層。遺物は土師質土器片、瓦器椀、肥前系陶器碗、近世磁器が出土。796は肥前系の陶器碗。遺構の年代は、出土遺物から近世と考えられる。

土坑125号（Ⅲ地区 SK1125）（第484図）

Ⅲ-3区中央部南側、Q1グリッドに位置する、長軸118cm短軸62cm深度26cmを測る不整な楕円形の土坑。主軸はN55°Wを向く。断面は皿状で、底面東側に上位からの掘削による掘り込みを有する。埋土は2層に分層。遺物は土師質土器片、瓦器椀、陶器皿が出土。797は瀬戸美濃系の陶器皿。底部外面に削り出しによって断面三角形状の小さな高台を作る。灰釉を施すが、釉の荒れが目立つ。16世紀後半頃とみられる。

土坑136号（Ⅲ地区 SK1136）（第485図）

Ⅲ-3区中央部、R3グリッドに位置する、長軸190cm短軸128cm深度17cmを測る不整形の土坑。主軸はN79°Wを向く。断面は皿状で、埋土は2層に分層。

遺物は土師質土器片・杯・須恵器土器椀・壺か、青磁碗が出土。798は青磁碗の下半部。残存部は無文。釉荒れが目立つ。底部外面の釉を輪状に搔き取る。上田分類E類に相当し、14世紀末～15世紀初頭の年代が与えられる。799は角礫凝灰岩製の石臼（上臼）。香川県天霧産の石材とみられる。偏った位置に供給孔が貫通。下面是凹面状で、中央に芯棒受け孔を有する。側面に一对の横打ち込み孔の痕跡がある。下面は使用による磨耗が著しく、横打ち込み孔が露出する。上面に整痕が確認できる。

遺構の年代は、出土遺物から15～16世紀頃と考えられる。

土坑137号（Ⅲ地区 SK1137）（第486図）

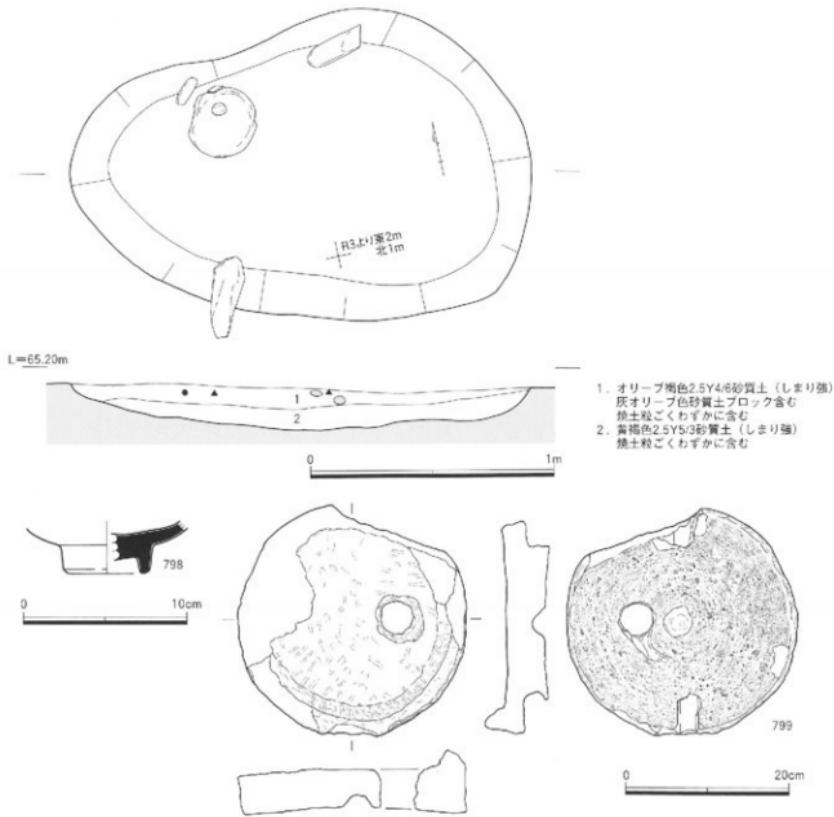
Ⅲ-3区中央部、R・S3・4グリッドに位置する、長軸162cm短軸134cm深度14cmを測る楕円形の土坑。主軸はN4°Eを向く。断面は皿状で、埋土は1層。遺物は土師質土器片、須恵器土器片か、陶器皿が出土。800・801は肥前系の陶器皿。ともに灰釉を施し、貫入を伴う。800は底部内面に胎土目痕2、801は砂目痕3が確認できる。概ね16世紀末～17世紀前葉とみられる。

土坑140号（Ⅲ地区 SK1140）（第487図）

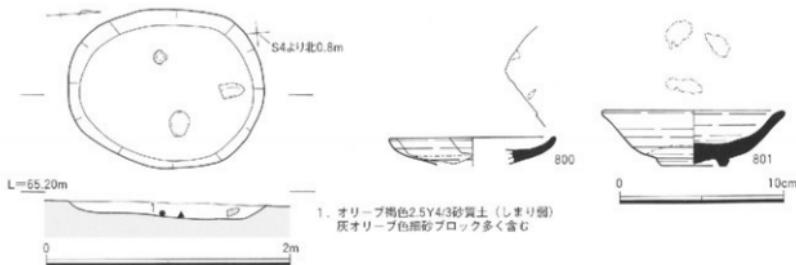
Ⅲ-3区中央部南側、P2グリッドに位置する、長軸102cm短軸84cm深度26cmを測る隅丸長方形土坑。断面は逆台形状で、中央寄りの底面に浅いピット状の落ち込みを有する。埋土は2層に分層。遺物は土師質煮炊具、瓦器椀が出土。

土坑158号（Ⅲ地区 SK1158）（第488図）

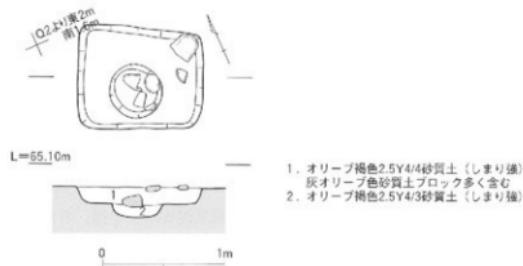
Ⅲ-3区東部北側、S6グリッドに位置する、長軸200cm短軸164cm深度52cmを測る不整形土坑。断面は不整な逆台形状で、底面は起伏がある。埋土は5層に分層。



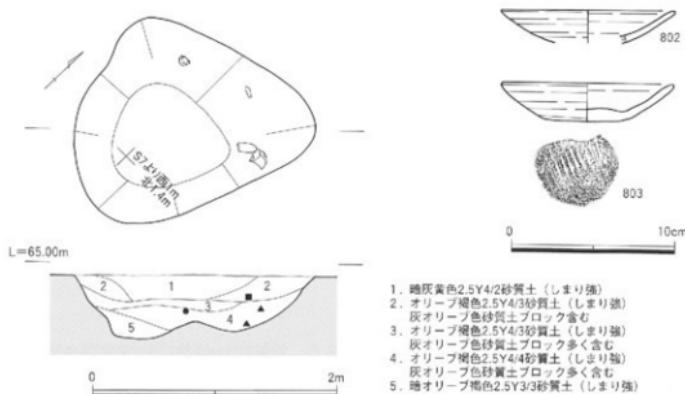
第485図 III地区SK1136遺構・遺物実測図



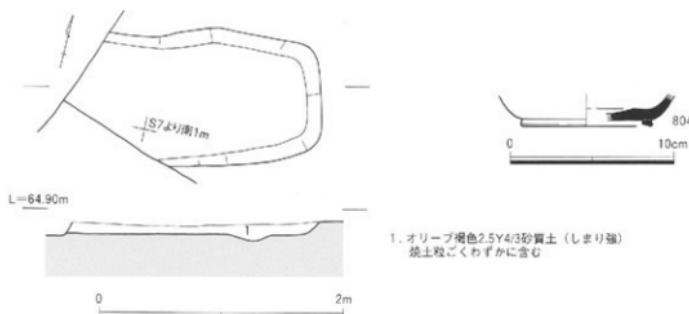
第486図 III地区SK1137遺構・遺物実測図



第487図 III地区SK1140遺構実測図



第488図 III地区SK1158遺構・遺物実測図



第489図 III地区SK1161遺構・遺物実測図

遺物は土師質上器片・皿・煮炊具・近世陶磁器片・鉄製鋤先が出土。802・803は土師質上器皿。803は底部外面に静止糸切り痕のち板目痕を残す。板目痕は約4mm間隔の平行沈線状。ともに胎土に結晶片岩・絹雲母を含む。16世紀末前後か。遺構の年代は、出土遺物から近世初頭と考えられる。

土坑161号（Ⅲ地区 SK1161）（第489図）

Ⅲ-3区東部北側、R 6・7グリッドに位置し、西は遺構に切られる。長軸残存長208cm短軸114cm深度14cmを測る不整な隅丸長方形土坑。主軸はN77°Eを向く。断面は浅い皿状で、埋土は1層。遺物は土師器片・須恵器片・杯・土師質上器片・羽釜が出土。804は須恵器杯の下半部。8世紀中葉頃。

土坑165号（Ⅲ地区 SK1165）（第490図）

Ⅲ-3区東部中央、Q・R 5・6グリッドに位置する、長軸180cm短軸110cm深度24cmを測る不整な隅丸長方形の土坑。主軸はN18°Eを向く。断面は逆台形状で、埋土は2層に分層。遺物は土師質土器片・須恵質土器片・椀・鉄釘・鐵錫・粘板岩製硯が出土。805は粘板岩製硯。剥離により下面・側面の一部を残すのみで、上面は遺存しない。

土坑166号（Ⅲ地区 SK1166）（第491図）

Ⅲ-3区東部中央、Q 5・6グリッドに位置する、長軸324cm短軸102cm深度14cmを測る不整な長楕円形土坑。主軸はN72°Wを向く。断面は浅い逆台形状で、埋土は1層。遺物は土師質土器片・煮炊具・瓦器碗・陶器鉢・壺・鉄滓が出土。806は肥前系の陶器鉢。高台を1カ所円弧状に切り取った切り高台である。外外面に鉄粙を薄く掛ける。底部内面使用によりやや磨耗。17世紀中頃とみられる。

土坑167号（Ⅲ地区 SK1167）（第492図）

Ⅲ-3区東部南寄り、P・Q 5・6グリッドに位置する、長軸210cm短軸178cm深度24cmを測る不整形土坑。断面は逆台形状で、埋土は2層に分層。

遺物は須恵器片・土師質土器片・煮炊具・鍋・近世染付片が出土。807は焰烙形の土師質土器鍋。頭部内面に稜が付く。外外面に指頭圧痕を残し、外側と体部内面に板ナデを施す。

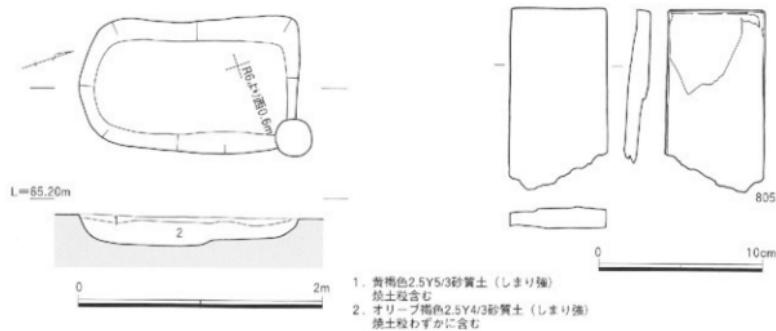
遺構の年代は、出土遺物から中世末～近世初頭と考えられる。

土坑169号（Ⅲ地区 SK1169）（第493図）

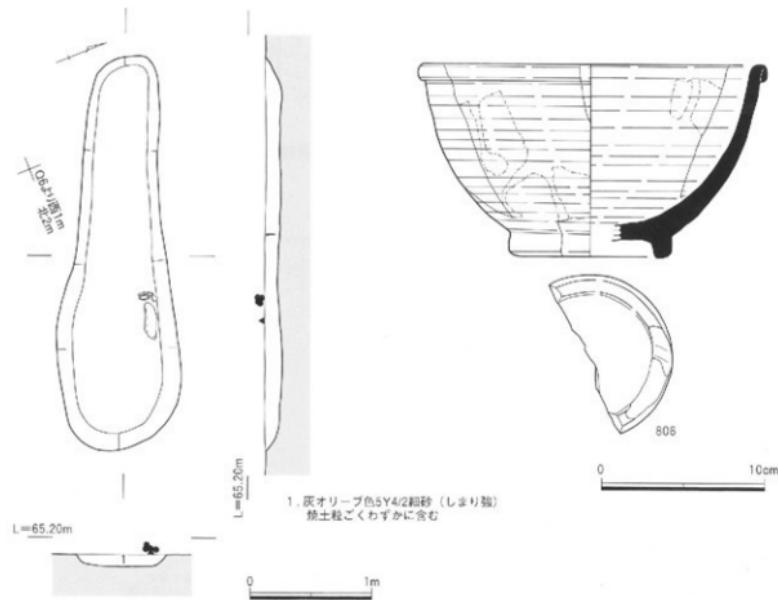
Ⅲ-3区東部南寄り、P・Q 6グリッドに位置する、長軸240cm短軸154cm深度20cmを測る不整な隅丸長方形の土坑。主軸はN8°Eを向く。断面は逆台形状で、埋土は2層。遺物は土師質上器鍋・銭貨が出土。808は土師質土器鍋。807と同様の器形とみられる。体部内外面に指頭圧痕を残し、体部内面に横位の板ナデを施す。809は銅錢で、嘉祐元寶の真書体。北宋錢で1056年初鑄。

土坑176号（Ⅲ地区 SK1176）（第494・495図）

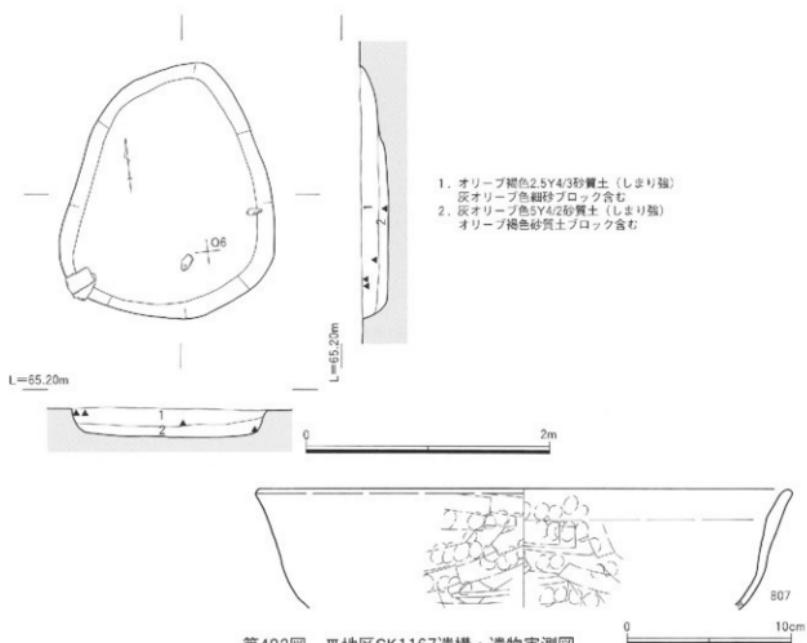
Ⅲ-3区東部南端、M・N 6グリッドに位置する、長軸179cm短軸166cm深度12cmを測る不整な隅丸方形の土坑。主軸はN14°Eを向く。断面は皿状で、埋土は1層である。遺構北側に5~70cm人の疊が集中する。配置に規則性は見いだせない。



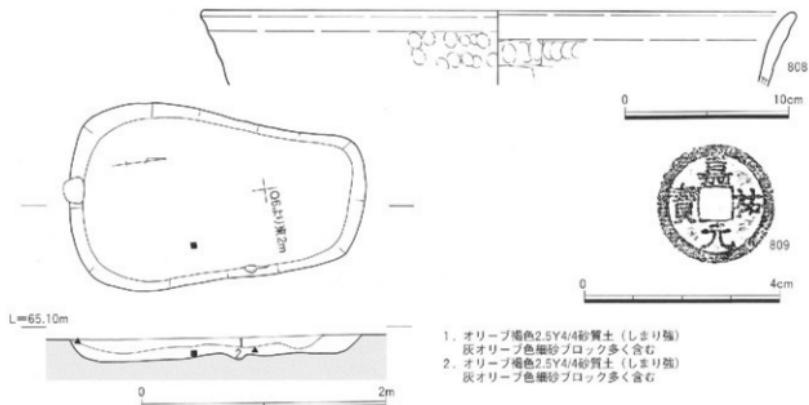
第490図 Ⅲ地区SK1165遺構・遺物実測図



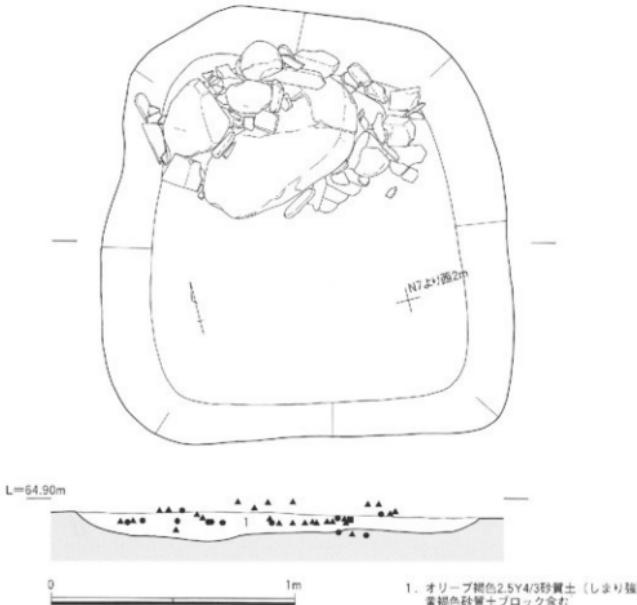
第491図 Ⅲ地区SK1166遺構・遺物実測図



第492図 III地区SK1167構造・遺物実測図



第493図 III地区SK1169構造・遺物実測図



第494図 Ⅲ地区SK1176遺構実測図

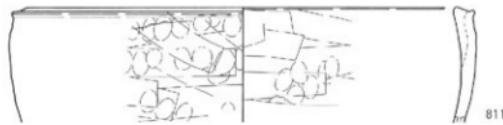
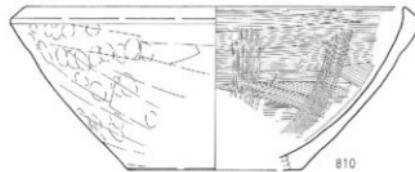
遺物は土師質上器片・播鉢・煮炊具脚部・羽釜、鉄滓が出土。810は土師質土器播鉢。口縁端部を内側に拡張。体部外面にユビオサエのち斜板ナデ、内面に丁寧なヨコハケのち捺目を施す。内面下位は使用により磨耗。811~814は土師質土器羽釜。いずれも鉢部は折り曲げ技法で作る。811は鉢部が退化し、小さな凸帶状を呈する。口縁と近接する。4点中もっとも新しい。812~814は鉢部は断面三角形状であるが、高さを保つ。鉢・口縁の間に連続した指頭圧痕を残す。4点とも体部内外面に指頭圧痕のち板ナデを施す。遺構の年代は、出土遺物から概ね15~16世紀代と考えられる。

土坑178号（Ⅲ地区 SK1178）（第496図）

Ⅲ-3区東端部南端、M6グリッドに位置し、南は調査区外に延びる。長軸残存長72cm短軸70cm深度32cmを測る楕円形とみられる土坑。断面は緩い逆台形状で、埋土は3層に分層。遺構南側の埋土上位に人頭大の礫が集中。遺物は土師質土器片・煮炊具・青磁盤、鉄滓が出土。815は龍泉窯系の青磁盤。口縁は受け口状に屈曲する。釉に粗い貫入を伴う。13世紀末~14世紀代とみられる。

土坑185号（Ⅲ地区 SK1185）（第497図）

Ⅲ-3区東端部南側、N-O7・8グリッドに位置する、長軸140cm短軸134cm深度28cmを測る不整円形の土坑。断面は逆台形状で、埋土は4層。遺物は土師質土器片・瓦器片・陶器皿、近世染付が出土。



0 10cm

第495図 III地区SK1176遺物実測図

816は瀬戸美濃系の陶器皿。灰釉・鉄絵を施す。遺構の年代は、概ね近世と考えられる。

焼土坑 2号（Ⅲ地区 SH1002）（第498図）

Ⅲ-3区中央部南寄り、R1グリッドに位置する、長軸74cm短軸68cm深度16cmを測る円形の焼土坑。断面は皿状で、底面中央がわずかに窪む。埋土は3層に分層でき、第2層に焼土ブロックが多く含む。遺物は土師質土器片、瓦器輪、鉄滓が出土。

焼土坑 4号（Ⅲ地区 SH1004）（第499図）

Ⅲ-3区東部中央、R4グリッドに位置する、長軸110cm短軸100cm深度18cmを測る隅丸方形の焼土坑。断面は浅い逆台形状で、埋土は4層に分層できる。第1・4層で焼土ブロックを多く含む。主に遺構周間に10~80cm大の礫が散在。とくに南側の長大な礫は、遺構南壁直上に壁と方位を合わせること、壁に沿って礫が並ぶことから、石囲いを伴うがであることと考えられる。遺物は鉄釘が出土。

焼土坑 3号（Ⅲ地区 SH1003）（第500図）

Ⅲ-3区中央部南寄り、Q・R2グリッドに位置する、長軸120cm短軸120cm深度40cmを測る円形の焼土坑。断面は方形または不整な逆台形状で、埋土は8層に分層できる。焼土は第3・5・6層でみられるが、少量である。遺物は須恵器片、土師質土器煮炊具、陶器皿、鉄滓が出土。817は肥前系の陶器皿。口径30cmを測る大型品である。黄緑色の釉を掛け、貫入を伴う。17世紀代か。

焼土坑 5号（Ⅲ地区 SH1005）（第501図）

Ⅲ-3区東部中央、R4グリッドに位置し、東~南にかけて遺構に切られる。長軸残存長212cm短軸残存長194cm深度18cmを測る不整形の焼土坑。断面は皿状で、埋土は3層。第2層に多量の焼土ブロックと炭化物片を含む。

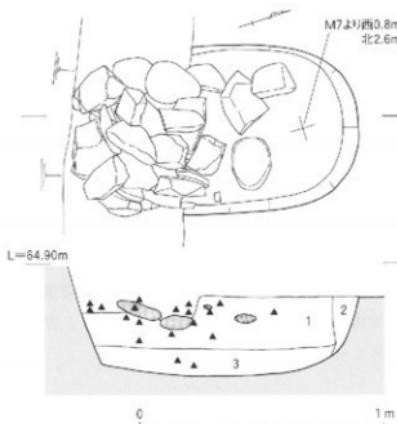
遺物は須恵器片、土師質土器片・煮炊具、陶器皿が出土。818は肥前系陶器皿の下半部。高台疊付に3ヶ所、底部内面に4ヶ所の胎土痕を残す。釉の透明度高く貫入を伴う。17世紀代か。

溝122号（Ⅲ地区 SD1122）（第502図）

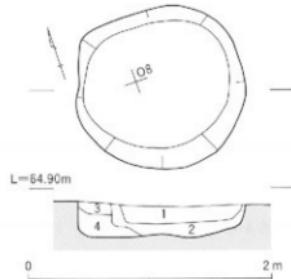
Ⅲ-3区西部、Q~E13~15グリッドに位置し、南北は調査区外に延びる。検出長39.1m幅51cm深度12cmを測る。主軸はN18°Eを向く。断面はレンズ状で、底面は既ね北に向けて下がる。埋土は2層。

遺物は須恵器片、壺、土師質土器片・杯・皿・羽釜、瓦器輪、皿、須恵質土器壺、白磁碗、壺が出土。819は土師質土器皿、820は土師質土器杯で、ともに回転台成形である。底部を欠く。821は瓦器皿。きわめて低平な作りで、外面に指痕肝痕を残し、内面はヨコナデを施す。ヘラミガキは確認できない。炭素吸着やや不良。和泉型もしくは在地での模倣品とみられ、和泉型瓦器IV期併行。822・823は瓦器輪の上半部。823は歪みのため復元径が過大。ともに体部内面に粗い横位のヘラミガキを施す。822は炭素吸着外面良好、内面やや不良。823は酸化炎焼成され炭素の吸着なし。ともに和泉型瓦器輪III-3期、13世紀前葉の年代が与えられる。824は白磁碗の上部。口縁をわずかに外反。内面上位に浅い沈線を引く。大宰府分類白磁碗V-4-a類、12世紀中頃~後半の年代が与えられる。

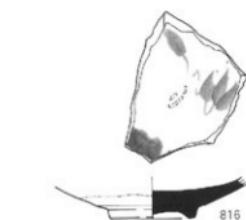
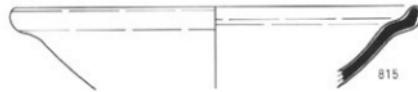
825・826は須恵質土器壺。825は口縁のみの破片で产地不明。826は体部外間に平行タタキの痕跡。内



1. オリーブ褐色2.5Y5/3砂質土（しまり強）
灰オリーブ色砂質土ブロック含む
2. オリーブ褐色2.5Y4/3砂質土（しまり強）
灰オリーブ色・黄褐色砂質土ブロック含む
3. 暗灰褐色2.5Y4/2砂質土（しまり強）
黄褐色砂質土ブロック含む

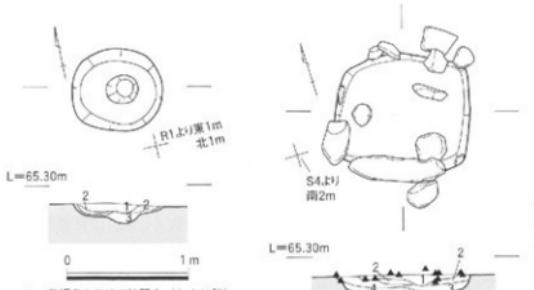


1. 黄褐色2.5Y5/3砂質土（しまり強）
灰オリーブ色砂質土ブロック含む
2. 灰オリーブ色5Y5/2細粒（しまり強）
灰オリーブ色シルトブロック多く含む
3. 灰オリーブ色5Y5/2細粒質土（しまり強）
灰オリーブ色細粒ブロック多く含む
4. 灰オリーブ色5Y5/2細粒（しまり強）
灰オリーブ色砂質土ブロック含む

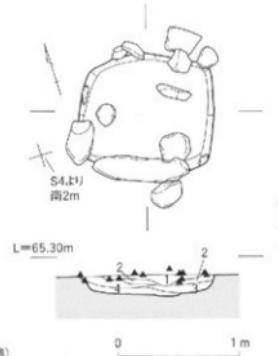


第496図 III地区SK1178遺構・遺物実測図

第497図 III地区SK1185
遺構・遺物実測図



1. 黄褐色2.5Y5/3砂質土（しまり強）
焼土粒わずかに含む
2. 黄褐色2.5Y5/3砂質土（しまり強）
焼土ブロック多く含む
3. オリーブ褐色2.5Y4/3砂質土（しまり強）
焼土粒わずかに含む

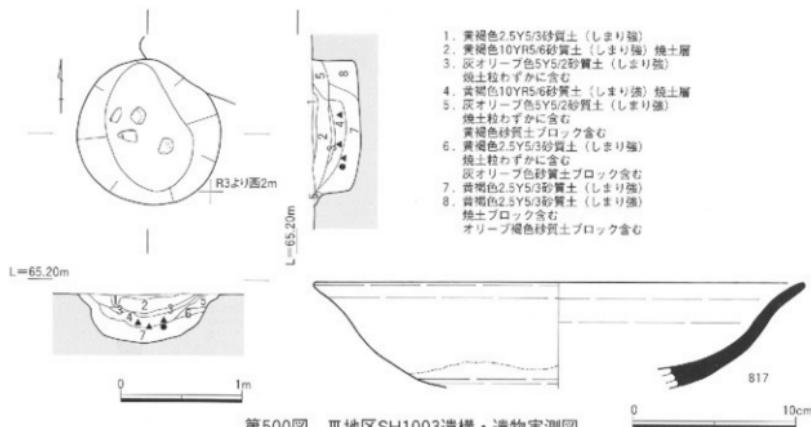


1. 黄褐色2.5Y5/3砂質土（しまり強）
焼土ブロック・1cm未満の炭化物片多く含む
灰オリーブ色砂質土ブロック含む
2. 黄褐色2.5Y5/3砂質土（しまり強）
暗灰褐色砂質土ブロック含む
3. 暗灰褐色2.5Y4/2砂質土ブロック（しまり強）
焼土・炭化物細片含む
4. 暗灰褐色2.5Y4/2砂質土（しまり強）
焼土ブロック多く含む

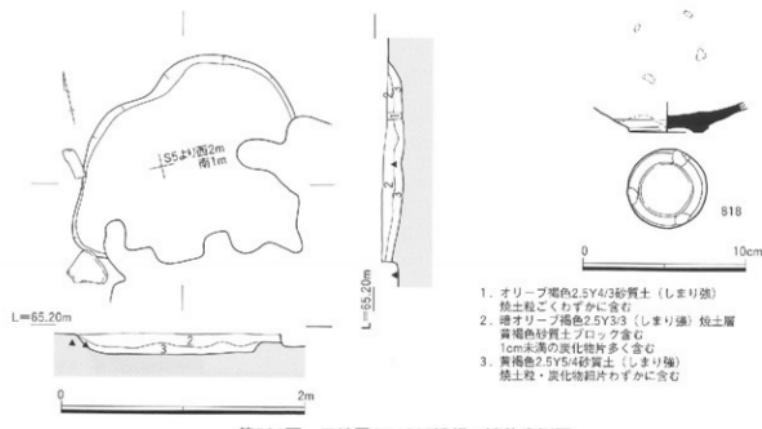
第498図 III地区
SK11002遺構実測図

第499図 III地区SH1004遺構実測図





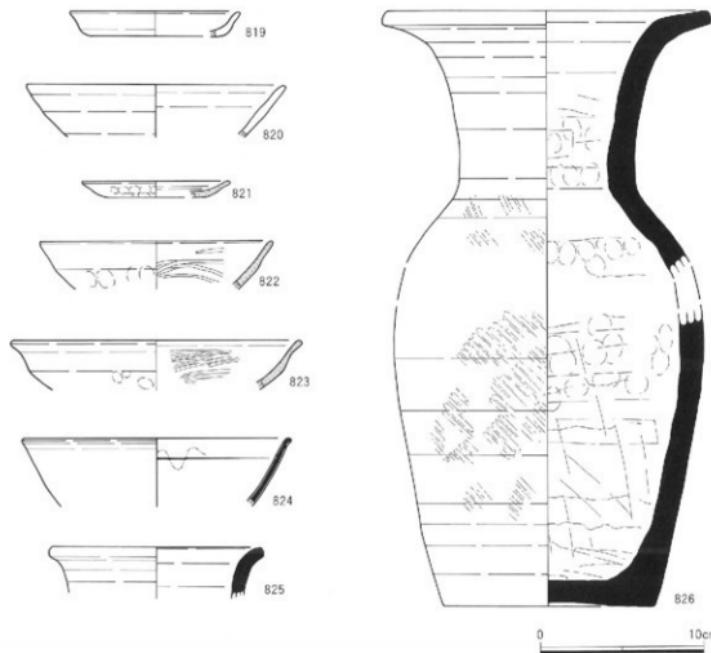
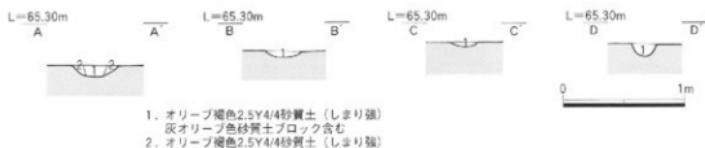
第500図 III地区SH1003遺構・遺物実測図



第501図 III地区SH1005遺構・遺物実測図

面はユビオサエのち板ナデを施す。器形・技法等は十瓶山窯の壺に酷似するが、口縁が厚いこと、内面に綾位の板ナデを施すことから十瓶山窯産ではない。胎土に砂岩とみられる粒子を含むことから、吉野川北岸で生産された可能性がある。佐藤編年IV-3期併行、12世紀中葉～13世紀前葉とみられる。

遺構の年代は、出土遺物から13世紀前葉頃を中心とすると考えられる。

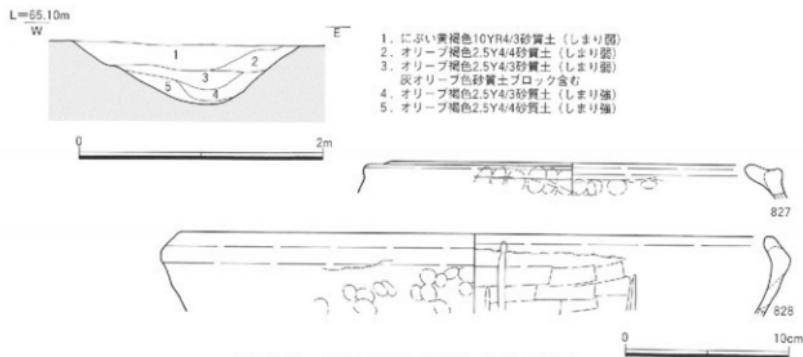


第502図 III地区SD1122遺構・遺物実測図

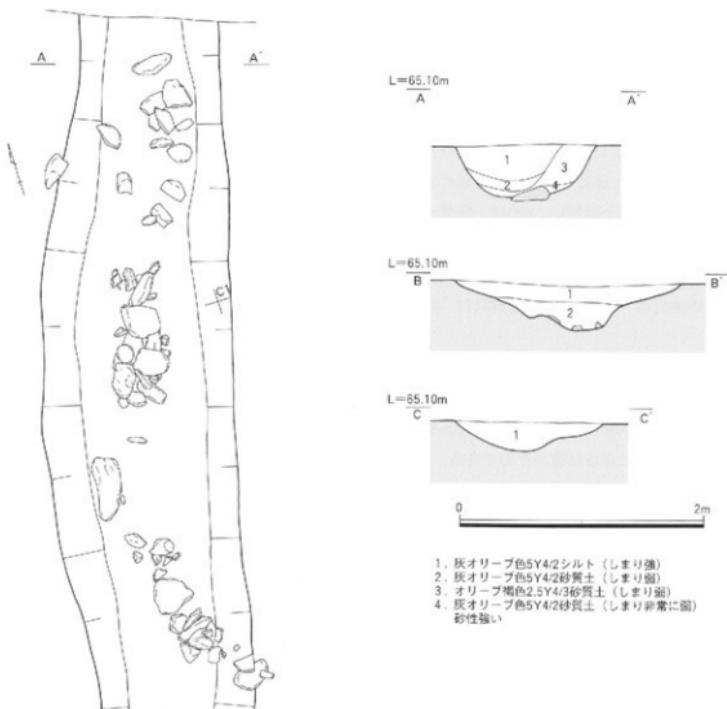
満123号 (III地区 SD1123) (第503図)

III-3区西部北端、C~E15・16グリッドに位置し、北は調査区外に延びる。検出長9.9m幅190cm深度50cmを測る。主軸はN16°Eを向く。断面はレンズ状で、底面は北に向けて下がる。埋土は5層に分層。

遺物は弥生土器片、須恵器片、土師質土器片、擂鉢・煮炊具・鉢・羽釜、瓦器碗、鐵製品片、凝灰岩製砥石が出土。827は土師質土器羽釜の口縁部。鉢部は退化し、凸帯状を呈する。折り曲げ技法で作る。



第503図 III地区SD1123遺構・遺物実測図



第504図 III地区SD1125遺構実測図

口縁は大きく内側に内傾するが、小片のため傾きは不正確。828は土師質上器擂鉢の上部。大型品で、口縁を内上方に大きく拡張する。外面に指頭圧痕を残し、内面横位の板ナデのち擂目を施す。

遺構の年代は、出土遺物から概ね15~16世紀代と考えられる。

溝125号（Ⅲ地区 SD1125）（第504・505図）

Ⅲ-3区中央部、P~C18~1に位置し、南北とも調査区外に延びる。検出長37.8m幅190cm深度42cmを測る。主軸はN21°Eを向く。断面はレンズ状またはU字状で、底面は北に向けて下がる。埋土は4層に分層。埋土最下位から5~50cm大の礫が出土。

遺物は土師質上器片・鍋・羽釜・焙炉、瓦質上器羽釜・火鉢、須恵質上器碗、近世陶器皿、近世染付碗、白磁碗、近世瓦、羽口か、鉄楔か、鉄製品片、粘板岩製硯、角礫凝灰岩製石臼が出土。

829は肥前系陶器皿の下半部。底部内面に蛇ノ目釉剥ぎを施し、2ヵ所の胎上目疵を残す。17世紀後半頃か。830は肥前系染付碗の上半部。体部外面に呉須による絵付けを施す。17世紀後葉~18世紀前葉頃か。831は白磁碗の上半部。口縁端部を外方に短く屈曲させる。大宰府分類の白磁碗皿類とみられ、12世紀中頃~13世紀前半の年代が考えられる。

832は土師質土器捏鉢。口縁を内側に拡張。体部外面にユビオサエのち板ナデ、内面に横位の板ナデを施す。磨耗により擂目は確認できない。胎上に結晶片岩を含む。

833は瓦質土器で、火鉢とみられる。口縁を水平に外方に伸ばす。体部外面に円形のスタンプ文を横に連ねる。厚い器壁をもつ。炭素吸着は良好。胎上に砂岩とみられる粒子を含む。

834は土師質上器羽釜。鋸部を折り曲げ技法で作る。体部外面に指頭圧痕、内面に板ナデを施す。胎土は粗い。835は土師質土器鍋。焙烙形の器形。頸部内面に稜が付く。体部内外面ともユビオサエのち板ナデを施す。胎土は粗い。836は土師質土器焙烙。きわめて低い器高で、口縁は肥厚する。岡本系焙烙とみられ、佐藤分類のB-2~3型式、17~18世紀頃と考えられる。

837・838は天霧産角礫凝灰岩製の石臼（下臼）。中央に芯棒受け孔を有する。839は粘板岩製硯。

遺構の年代は、出土遺物から概ね17~18世紀頃と考えられる。

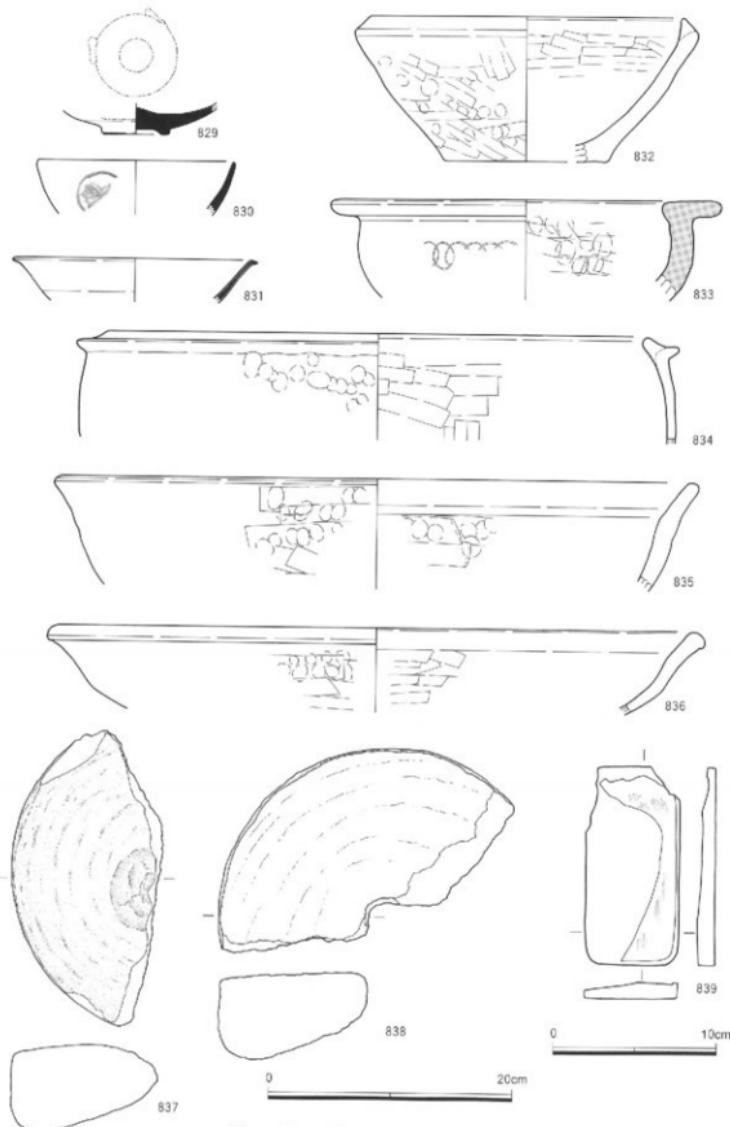
溝131号（Ⅲ地区 SD1131）（第506図）

Ⅲ-3区中央部、P~C18~1グリッドに位置し、南は調査区外に延び、北端はSR1001と接する位置で終わる。検出長36.8m幅145cm深度12cmを測る。主軸はN20°Eを向く。断面はレンズ状で、埋土は1層である。底面の高さは概ね半寸である。

遺物は須恵器片・蓋、瓦器碗、瓦質上器羽釜、陶器皿、近世陶磁器片、近世磁器皿、近世瓦、銅煙管雁首が出土。840は肥前系陶器皿の下半。高台に離れ砂が付着。底部内面に蛇ノ目釉剥ぎを施し、離れ砂が付着する。17世紀後半頃とみられる。

溝132号（Ⅲ地区 SD1132）（第507図）

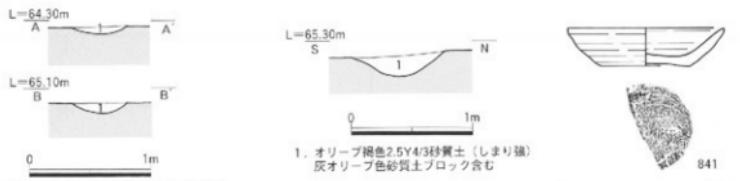
Ⅲ-3区中央部北端、A・B1~3グリッドに位置し、北東は調査区外に延び、西はSD1131に切られ以西には延びない。検出長12.7m幅70cm深度8cmを測るやや蛇行する溝。主軸はN76°Eを向く。断面は浅いレンズ状で、底面は北東に向けて下がる。埋土は1層である。出土遺物は皆無である。



第505図 III地区SD1125遺物実測図

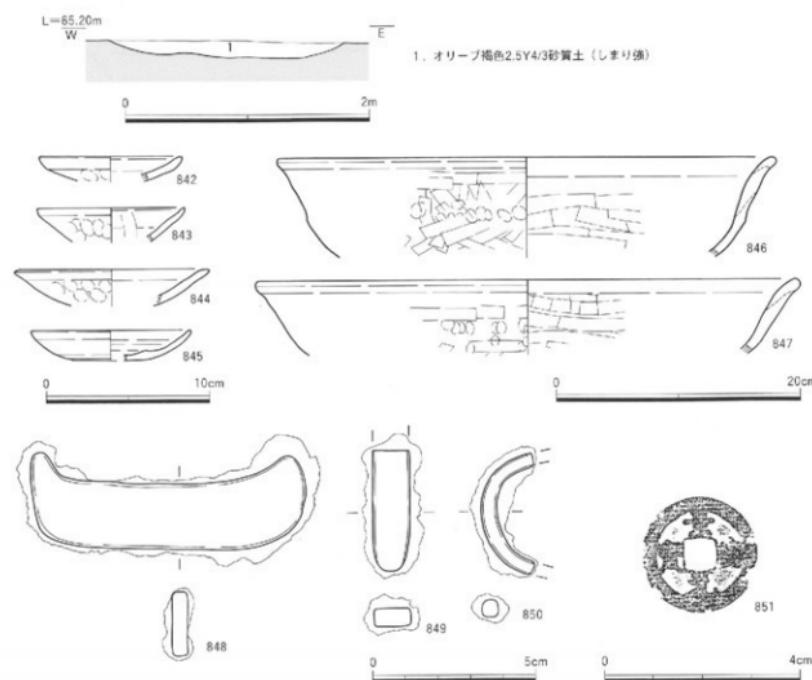


第506図 III地区SD1131遺構・遺物実測図



第507図 III地区SD1132遺構断面図

第508図 III地区SD1134遺構・遺物実測図



第509図 III地区SD1137遺構・遺物実測図

溝134号（Ⅲ地区 SD1134）（第508図）

Ⅲ-3区東部中央、Q・R2～5グリッドに位置する、全長13.3m幅90cm深度18cmを測る。上軸はN77°Wを向く。断面はレンズ状で、埋土は1層。掘立柱建物SA1007と同主軸で、南側雨落ち部分にあるため、建物南側の区画または排水を企図した溝と考えられる。

遺物は土師質土器杯・皿（回転糸切りほか）・擂鉢・羽釜（束子型ほか）、瓦器碗、磁器片、鉄釘が出土。841は土師質土器皿。底部外面に回転糸切り痕を残す。胎土に結晶片岩を含む。

遺構の年代は、出土遺物に時期幅があるが概ね中世末期と考えられる。

溝137号（Ⅲ地区 SD1137）（第509図）

Ⅲ-3区東部、Q～A4～6グリッドに位置する、全長22.3m幅190cm深度14cmを測る。主軸はN15°Eを向く。断面はレンズ状で、埋土は1層。SD1134・1138と切り合うが、埋土はほぼ同色・同質であるため、同時併存の可能性は高い。SA1007の東側を画し、北に向けて排水する溝と考えられる。

遺物は土師質土器片・皿・擂鉢・煮炊具・鍋、陶器片、鉄製品片、鉄錠、鉄釘が出土。

842～844は非回転台成形の土師質土器皿。体部外面に指頭圧痕を残し、内面はヨコナデを施す。843は最後にナデ上げる。口縁端部は尖らせ気味にする。胎土は843が結晶片岩・紺雲母、844が結晶片岩・砂岩とみられる粒子を含む。京都系土師器皿で、在地生産の模倣である。845は回転台成形の土師質土器皿。底部外面に回転糸切り痕を残す。

846・847は土師質土器鍋。器高は低く、焙烙状を呈する。頭部内面にわずかな稜をもつ。体部外間にユビオサエのち板ナデ、体部内面に横板の板ナデを施す。

848・849は用途不明の鉄製品。848は鎌状であるが、断面方形で刃は付かない。鎌の未製品あるいは火打ち金の可能性がある。849は楔の可能性がある。850は鉄釘とみられる。弧状に曲がる。両端部を欠く。851は銅錢で、景德元寶の真書体。北宋錢で1004年初鑄。背ズレがみられる。

遺構の年代は、出土遺物から16世紀後半頃と考えられる。

溝138号（Ⅲ地区 SD1138）（第510図）

Ⅲ-3区東部中央、R・S2～6グリッドに位置し、西をSX1002に切られる。残存長21.3m幅130cm深度10cmを測る。主軸はN76°Wを向く。断面はレンズ状で、埋土は2層。SA1007の北側を画す溝。中央から溝SD1039が北に分岐。遺物は土師質土器片・擂鉢、鉄製鎌が出土。852は土師質土器擂鉢の下半部。外間に指頭圧痕、内面に密なヨコハケを施す。胎土に結晶片岩を含むとみられる。15～16世紀代。

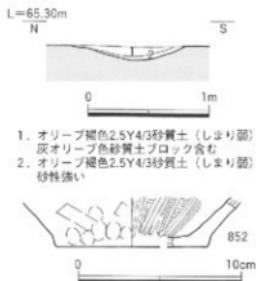
溝139号（Ⅲ地区 SD1139）（第511図）

Ⅲ-3区、S～A4グリッドに位置する、全長13.0m幅112cm深度10cmを測る。主軸はN16°Eを向く。SD1038中央部から分岐し北に延びる。断面はレンズ状で、埋土は2層。埋土は細砂・粗砂で構成され、流水状態を示す。北に向けて排水するための溝と考えられる。

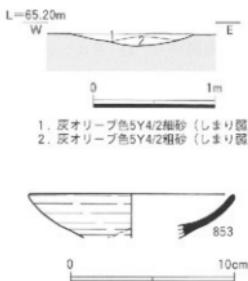
遺物は須恵器片、土師質土器片、陶器皿が出土。853は肥前系の陶器皿。16世紀末～17世紀代か。

溝140号（Ⅲ地区 SD1140）（第512・513図）

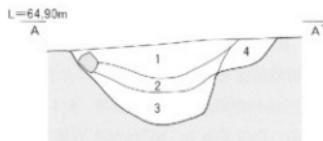
Ⅲ-3区東端部、O～T8～10グリッドに位置し、北は調査区外に延びる。検出長27.0m幅170cm深度



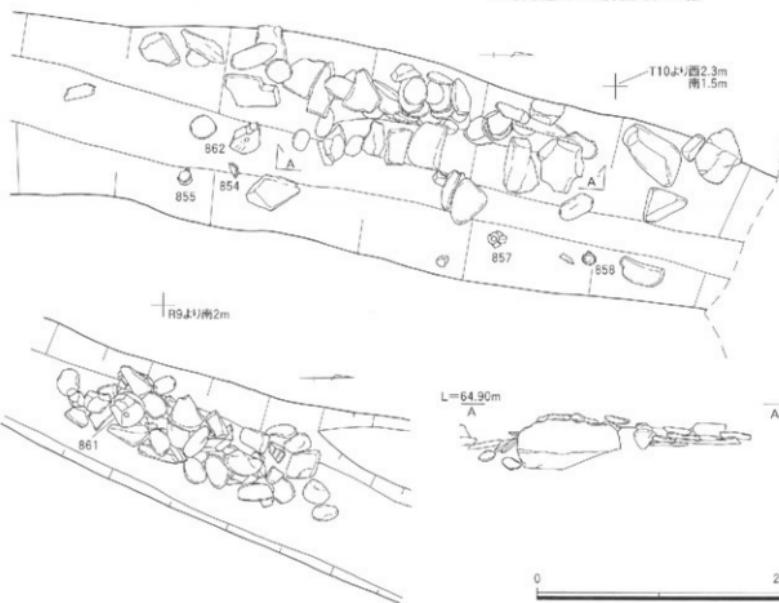
第510図 Ⅲ地区SD1138遺構・遺物実測図



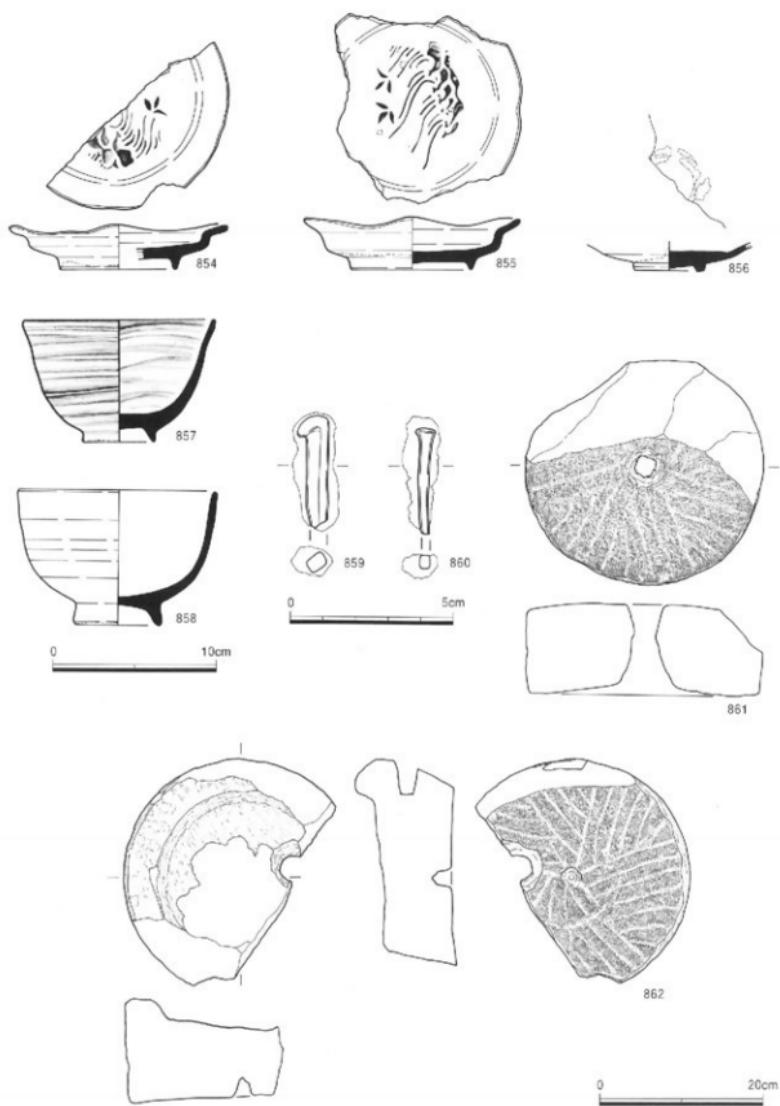
第511図 Ⅲ地区SD1139遺構・遺物実測図



1. 灰オリーブ色5Y4/2細粒(しまり面)
2. 輪灰黄色2.5Y4/2砂質土(しまり面)
3. 灰オリーブ色細粒ブロック含む
4. 灰オリーブ色5Y4/2砂(しまり非常に面)
5. 細灰黄色砂質土ブロック含む
6. 噴灰黄色2.5Y4/2砂質土(しまり面)



第512図 Ⅲ地区SD1140遺構実測図



第513図 III地区SD1140遺物実測図